

医療費分析結果報告書

平成30年度版

全国土木建築国民健康保険組合

目次

1 被保険者の状況	
(1) 被保険者数の推移	1
(2) 年齢階級別被保険者数	2
(3) 前期高齢者の被保険者数	4
(4) 扶養率分析	5
2 医療費の状況	
(1) 医療費	6
(2) 診療区分別の医療費	7
(3) 1人当たり医療費	8
(4) 年齢階級別1人当たり医療費	9
①全体／②医科入院／③医科入院外／④歯科／⑤調剤	
(5) 診療区分別1人当たり医療費	15
(6) 医科入院	16
①入院1人当たり医療費／②入院1人当たり日数／③入院1日当たり医療費／	
④推計新規入院件数／⑤100人当たり新規入院件数／⑥推計平均在院日数／	
⑦推計1入院当たり医療費	
(7) 医科入院外	24
①入院外1人当たり医療費／②入院外1人当たり日数／③入院外1日当たり医療費	
(8) 歯科	27
①歯科1人当たり医療費／②歯科1人当たり日数／③歯科1日当たり医療費	
(9) 調剤	30
①調剤1人当たり医療費／②調剤1人当たり回数／③調剤1回当たり医療費	
(10) ジェネリック医薬品の使用状況（数量ベース）	33
3 疾病の状況	
(1) 疾病分類別・年齢階級別医療費	34
①全体（医科＋歯科）／②入院（医科＋歯科）：組合員／③入院（医科＋歯科）：家族／	
④入院外（医科＋歯科）：組合員／⑤入院外（医科＋歯科）：家族	
(2) 疾病分類別1人当たり医療費（医科）	39
①全体（入院＋入院外）／②入院／③入院外	
(3) 前期高齢者に係る疾病分類比較分析（医科）	42
①疾病分類別1人当たり医療費／②疾病分類別医療費新3要素分析（医科入院・1人	
当たり医療費上位10疾病分類）	

－ は じ め に －

本組合の事業運営につきましては、日頃格別のご配意を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、このたび平成 30 年度版の「医療費分析結果報告書」を作成いたしました。

本報告書は、本組合被保険者の受診や疾病の状況を、組合員・家族別、年齢階級別、疾病分類別等の切り口から観察したもので、本組合の医療費等の現状を把握していただくとともに、分析結果を保険給付等の適正化及び保健事業の推進に活用することを目的としています。

被保険者の状況、医療費の状況及び疾病の状況の 3 部構成とし、各項目に図表を掲載して簡潔に説明を加え、また、分析に際して組保管掌健康保険と比較することにより、本組合の水準を把握することが可能となっております。

ご一読のうえ、今後も本組合の事業運営にご理解、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

令和 2 年 6 月

－ 報告書の留意事項 －

- ・ 本報告書は、原則として平成 30 年度の実績に基づき作成していますが、本組合が保有するデータ及び比較対象元の公開データ等の有無のため、項目によっては異なる期間を分析しています。その場合は該当項目にいつ時点の内容かを明示しています。
- ・ 本報告書では組合健保を比較対象としていますが、組合健保は 70 歳以上の加入者が「被保険者」であるか「被扶養者」であるか区別できないことから、「被保険者」及び「被扶養者」については 70 歳未満の加入者に係る実績となっており、本組合の「組合員」及び「家族」と比較を行うため、本組合においても「組合員」及び「家族」は、70 歳未満の実績としています。ただし、年齢階層を掲載している場合については、各表の年齢階層別加入者に係る実績となっています。
- ・ 本報告書でいう医療費とは、医科、歯科及び調剤の費用額（診療（調剤）報酬明細書に記載された点数を 10 倍した金額）です。なお、総医療費には入院時食事・生活療養費及び訪問看護療養費を、医科入院及び歯科には入院時食事・生活療養費の費用額を含んでいます。ただし、「3 疾病の状況」の項目では、入院時食事・生活療養費及び訪問看護療養費を除いています。
- ・ 本報告書では入院医療費の新 3 要素分析を用いており、推計新規入院件数（前月以前に退院した者が当月再入院した場合を含む）と推計平均在院日数（入院の 1 件当たり日数から算定した平均在院日数）の積が入院受診延日数となります。

したがって、入院医療費は推計新規入院件数（入院発生）、推計平均在院日数（入院期間）及び入院の 1 日当たり医療費（入院単価）の 3 要素の積に分解でき、さらに、推計新規入院件数と推計 1 入院当たり医療費（推計平均在院日数に入院の 1 日当たり医療費を乗じて得た 1 入院当たり医療費）の積に分解できます。

— 診療報酬改定率 —

	平成26年度	平成28年度	平成30年度
全体改定率 (①+②)	0.10%	△0.84%	△1.19%
診療報酬本体 (①)	0.73%	0.49%	0.55%
医科	0.82%	0.56%	0.63%
歯科	0.99%	0.61%	0.69%
調剤	0.22%	0.17%	0.19%
薬価等【医療費ベース】 (②) (③+④)	△0.63%	△1.33%	△1.74%
薬価 (③) (括弧内は薬価ベース)	△0.58% (△2.65%)	△1.22% (△5.57%)	△1.65% (△7.48%)
材料価格 (④)	△0.05%	△0.11%	△0.09%

薬価 (③) 別枠 (括弧内は薬価ベース)	平成26年度	平成28年度	平成30年度
市場拡大再算定 (※1)		△0.19% (△0.90%)	
特例市場拡大再算定 (※2)		△0.28% (△1.30%)	

(注) 薬価改定における医療費ベースでの改定率とは、診療報酬総額の増減率をいう。
薬価ベースでの改定率とは、薬価の引上げ又は引下げによる当該診療報酬総額中の薬剤費の増減率をいう。

※1 市場拡大再算定

年間販売額が想定した販売額を2倍以上上回る等の要件を満たした医薬品について、薬価改定時に価格を更に引き下げる制度。平成28年度は本体改定の別枠とされた。

※2 特例市場拡大再算定

医療保険財政を維持するため、市場規模が特に巨額な医薬品の価格を引き下げる制度。年間販売額が1,000億円超等の要件を満たした品目が対象。平成28年度から導入された。

1 被保険者の状況

(1) 被保険者数の推移

平成 30 年度における被保険者数（組合健保においては加入者数）は 407,635 人であり、前年度と比較して 0.76%減少している。このうち 70 歳未満の組合員数は 188,924 人、家族数は 210,608 人であり、前年度と比較して組合員数は 0.80%増加しており、家族数は 2.59%減少している。

なお、平成 26 年度からの推移をみると、被保険者数は減少傾向にあり、減少率は前年度と比較して拡大している。組合員、家族別でみると、組合員数は平成 27 年度から増加傾向であるが、平成 30 年度の増加率は前年度と比較して縮小している。家族数は依然として減少傾向にあり、平成 30 年度の減少率は前年度と比較して拡大している。

また、対前年度増減率を組合健保と比較すると、組合員数（組合健保においては被保険者数）については全国土木、組合健保のいずれも増加傾向にあり、増加率は組合健保の方が高くなっている

家族数（組合健保においては被扶養者数）については、全国土木、組合健保のいずれも減少傾向にあり、減少率は全国土木の方が高くなっている。

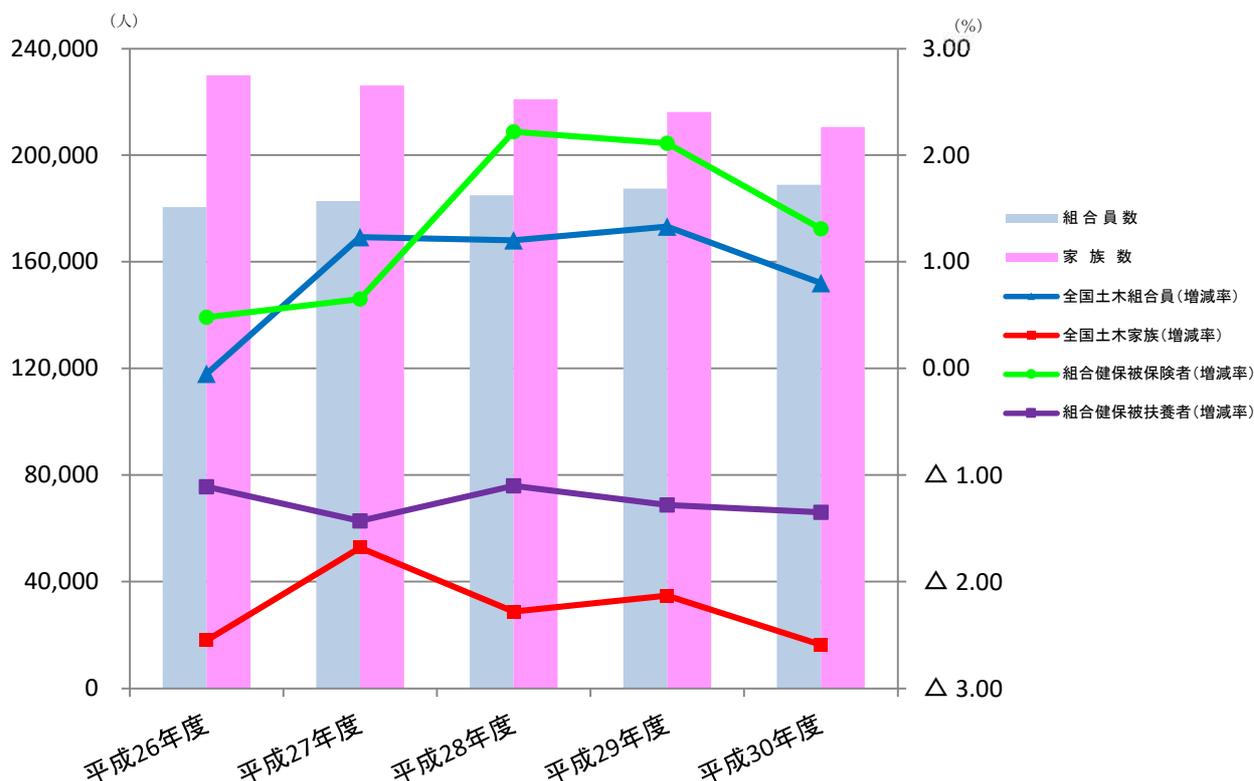
(表-1) 被保険者数の推移 (年度平均)

(人、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
	組合員数		家族数		被保険者数		被扶養者数					
	対前年度 増減率											
平成26年度	416,965	△ 1.37	180,557	△ 0.05	229,943	△ 2.55	29,223,795	△ 0.22	15,591,205	0.48	13,341,889	△ 1.11
平成27年度	415,354	△ 0.39	182,778	1.23	226,069	△ 1.68	29,123,612	△ 0.34	15,692,820	0.65	13,151,484	△ 1.43
平成28年度	412,316	△ 0.73	184,976	1.20	220,924	△ 2.28	29,310,320	0.64	16,040,947	2.22	13,007,213	△ 1.10
平成29年度	410,776	△ 0.37	187,427	1.33	216,213	△ 2.13	29,497,265	0.64	16,379,948	2.11	12,840,457	△ 1.28
平成30年度	407,635	△ 0.76	188,924	0.80	210,608	△ 2.59	29,559,791	0.21	16,593,922	1.31	12,667,106	△ 1.35

出典 平成 29 年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成 30 年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-1) 被保険者数の推移



(2) 年齢階級別被保険者数

平成30年9月末現在の年齢階級別被保険者数を構成比で見ると、組合員では、男女とも45歳から49歳の構成比が最も高く（男性15.49%、女性16.64%）、男女ともに15歳から19歳（男性1.00%、女性0.44%）が最も低くなっている。次に家族では、男性は15歳から19歳（23.82%）の構成比が最も高く、45歳から49歳（0.48%）が最も低くなっており、女性は45歳から49歳（10.78%）が最も高く、25歳から29歳（2.52%）が最も低くなっている。

なお、全体の構成比を組合健保と比較すると、25歳から44歳までは組合健保が高く、45歳以降は全国土木が高くなっている。

また、平均年齢では、全国土木（37.2歳）が、組合健保（35.1歳）より2.1歳高くなっている。

(表-2) 年齢階級別被保険者数（平成30年9月末現在）

年齢別	全 国 土 木										組合健保 構成比		
	構成比		組 合 員 数				家 族 数						
			男 性		女 性		男 性		女 性				
歳 歳	人	%	人	人	%	人	%	人	人	%	人	%	
0 - 4	19,695	4.83						19,695	10,076	14.79	9,619	6.52	5.86
5 - 9	21,780	5.35						21,780	11,189	16.43	10,591	7.17	6.00
10 - 14	26,453	6.49						26,453	13,376	19.64	13,077	8.86	6.07
15 - 19	33,626	8.25	1,773	1,657	1.00	116	0.44	31,853	16,227	23.82	15,626	10.59	6.64
20 - 24	29,191	7.16	11,461	9,470	5.72	1,991	7.55	17,730	9,420	13.83	8,310	5.63	6.98
25 - 29	22,459	5.51	17,101	13,919	8.41	3,182	12.07	5,358	1,630	2.39	3,728	2.52	7.33
30 - 34	22,081	5.42	15,355	12,547	7.59	2,808	10.65	6,726	872	1.28	5,854	3.97	8.03
35 - 39	21,888	5.37	14,335	11,907	7.20	2,428	9.21	7,553	509	0.75	7,044	4.77	8.69
40 - 44	32,366	7.94	20,995	17,623	10.65	3,372	12.79	11,371	338	0.50	11,033	7.47	10.00
45 - 49	46,245	11.35	30,010	25,624	15.49	4,386	16.64	16,235	325	0.48	15,910	10.78	10.71
50 - 54	40,003	9.82	26,534	23,169	14.01	3,365	12.76	13,469	365	0.54	13,104	8.88	8.86
55 - 59	33,719	8.28	21,132	18,730	11.32	2,402	9.11	12,587	405	0.59	12,182	8.25	6.98
60 - 64	30,399	7.46	19,423	18,031	10.90	1,392	5.28	10,976	576	0.85	10,400	7.05	4.54
65 - 69	19,280	4.73	10,874	10,216	6.18	658	2.50	8,406	1,261	1.85	7,145	4.84	2.32
70 - 74	8,331	2.04	2,800	2,536	1.53	264	1.00	5,531	1,542	2.26	3,989	2.70	0.99
計	407,516	100.00	191,793	165,429	100.00	26,364	100.00	215,723	68,111	100.00	147,612	100.00	100.00

※「組合健保構成比」については「健康保険・船員保険被保険者実態調査」の調査要綱に基づき、一定の条件により抽出した調査客体から算出している。

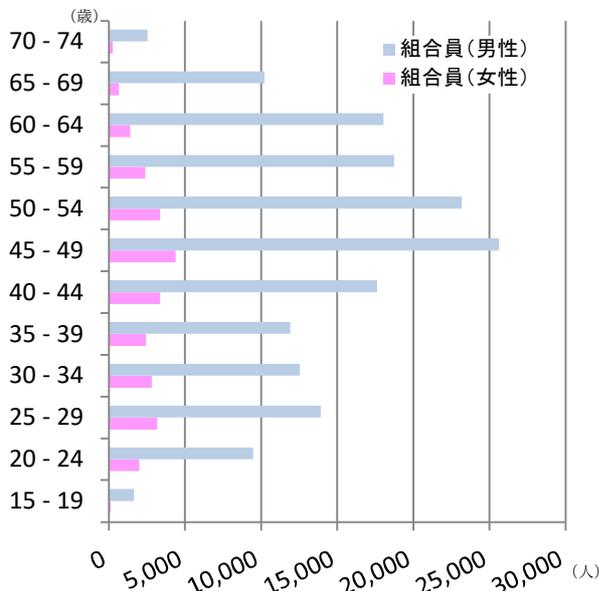
(表-3) 加入者平均年齢（平成30年9月末現在）

(歳)

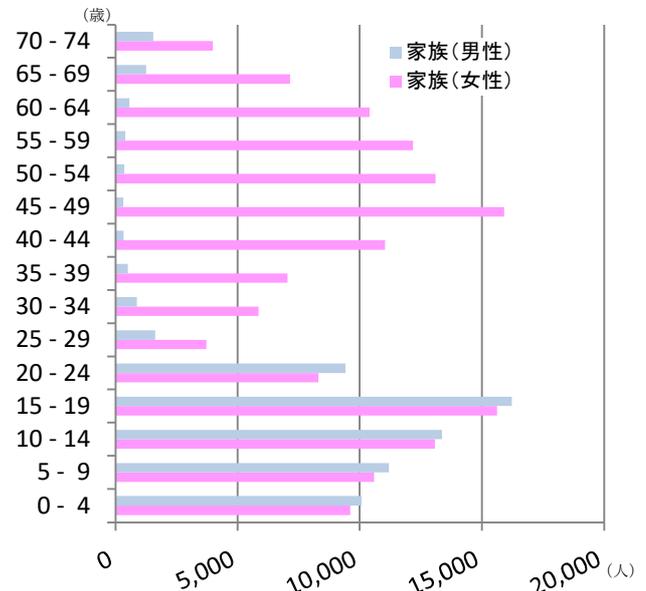
	全 国 土 木						組 合 健 保						
	組 合 員		家 族		被 保 険 者		被 扶 養 者		被 保 険 者		被 扶 養 者		
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性			
37.2	45.8	46.3	42.5	29.5	16.6	35.5	35.1	42.8	43.9	40.7	25.0	12.6	31.2

出典：厚生労働省「健康保険・船員保険被保険者実態調査」

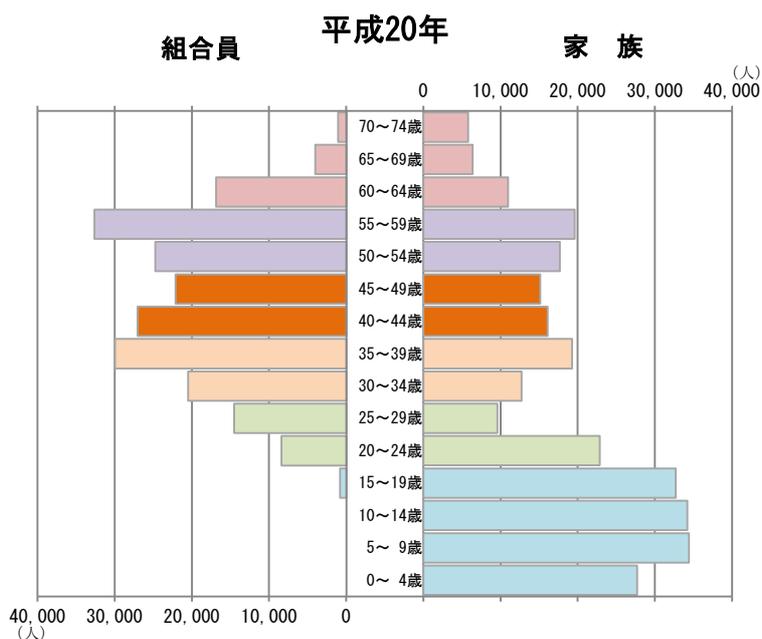
(図-2) 年齢階級別被保険者数（組合員）



(図-3) 年齢階級別被保険者数（家族）



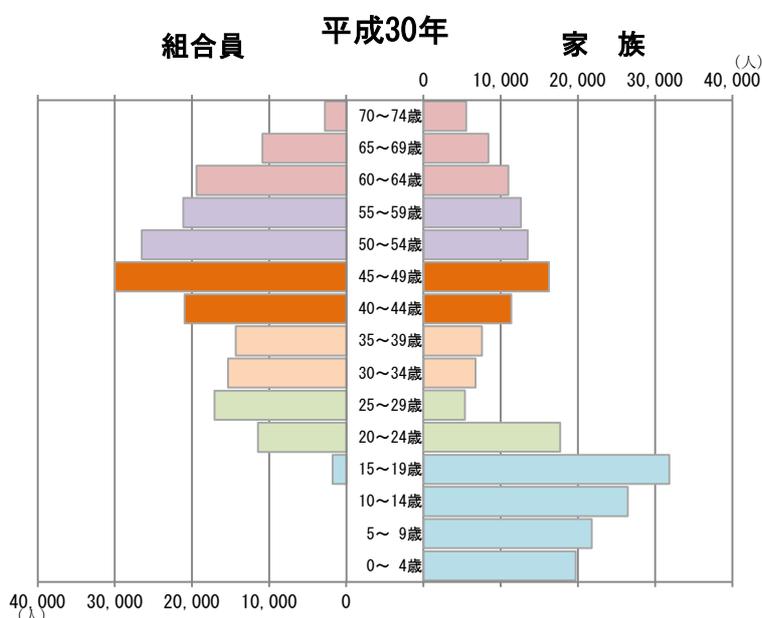
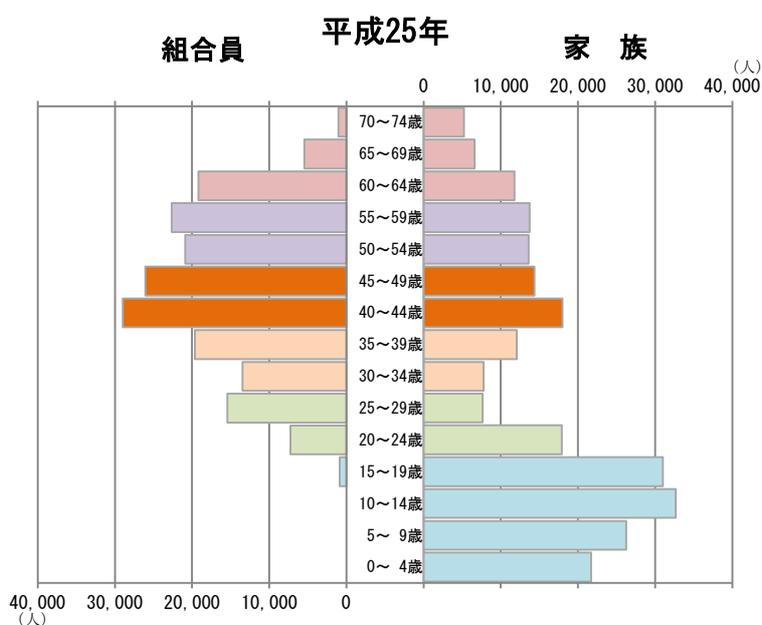
(参考) 組合員・家族別年齢階級別被保険者数の5年ごとの推移(平成20年・平成25年・平成30年)



	平成20年	平成25年	平成30年
団塊の世代 (昭和22年～24年生まれ)	59歳～61歳	64歳～66歳	69歳～71歳
団塊ジュニア (昭和46年～49年生まれ)	34歳～37歳	39歳～42歳	44歳～47歳

[被保険者数及びその年齢構成に影響を与えたと考えられる制度改正や主な出来事]

- 平成18年4月
「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正
→60歳から64歳に支給される「特別支給の老齢厚生年金」の定額部分の支給開始年齢引き上げに伴い、段階的に65歳までの雇用確保措置が義務付けられた。
- 平成23年3月
東日本大震災の発生 → 復旧・復興事業
- 平成28年10月
「公的年金制度の財政基盤及び最低保障機能の強化等のための国民年金法等の一部を改正する法律」の一部改正
→特定適用事業所に勤務する短時間労働者に対し、健康保険・厚生年金保険の適用が拡大された。
- 平成29年4月
特定適用事業所の範囲拡大(任意適用開始)



(3) 前期高齢者の被保険者数

平成30年度における前期高齢者（65歳～74歳）の被保険者数は27,188人（組合員13,409人、家族13,779人）であり、前年度と比較すると4.96%（組合員10.53%、家族0.04%）増加している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向であり、この増加要因については、建設業界において、東日本大震災の復興事業や民間投資の回復等、建設需要の増加に伴う人材不足から、組合員が65歳に到達した後も引き続き加入しているためと推察される。また、平成28年10月から組合員の適用対象を短時間労働者にも拡大したことも一因と思われる。70歳以上の再掲については、組合員は増加傾向にあり、平成30年度は前年度に続いて大きく増加した（31.43%）が、家族は大きな変動がない。

また、前期高齢者の加入率を組合健保と比較すると、全国土木の方が高く、その差は年々広がっている（26年度は1.84ポイント差、30年度は3.39ポイント差）。同様に、70歳以上についても全国土木の方が高く、その差が年々広がっている（26年度は0.56ポイント差、30年度は0.98ポイント差）。

(表-4) 前期高齢者の被保険者数（年度平均）

	前期高齢者数						前期高齢者加入率						組合健保 前期高齢者加入率	
	70歳以上 再掲		組合員数		家族数		70歳以上 再掲		組合員		家族		70歳以上 再掲	
	人	人	人	人	人	人	%	%	%	%	%	%	%	%
平成26年度	20,228	6,464	7,678	1,193	12,550	5,271	4.85	1.55	4.22	0.66	5.34	2.24	3.01	0.99
平成27年度	22,306	6,507	9,153	1,339	13,153	5,168	5.37	1.57	4.97	0.73	5.69	2.23	3.11	0.96
平成28年度	24,158	6,416	10,594	1,536	13,564	4,880	5.86	1.56	5.68	0.82	6.01	2.16	3.16	0.89
平成29年度	25,904	7,136	12,131	2,052	13,773	5,084	6.31	1.74	6.40	1.08	6.22	2.30	3.23	0.94
平成30年度	27,188	8,103	13,409	2,697	13,779	5,406	6.67	1.99	7.00	1.41	6.38	2.50	3.28	1.01

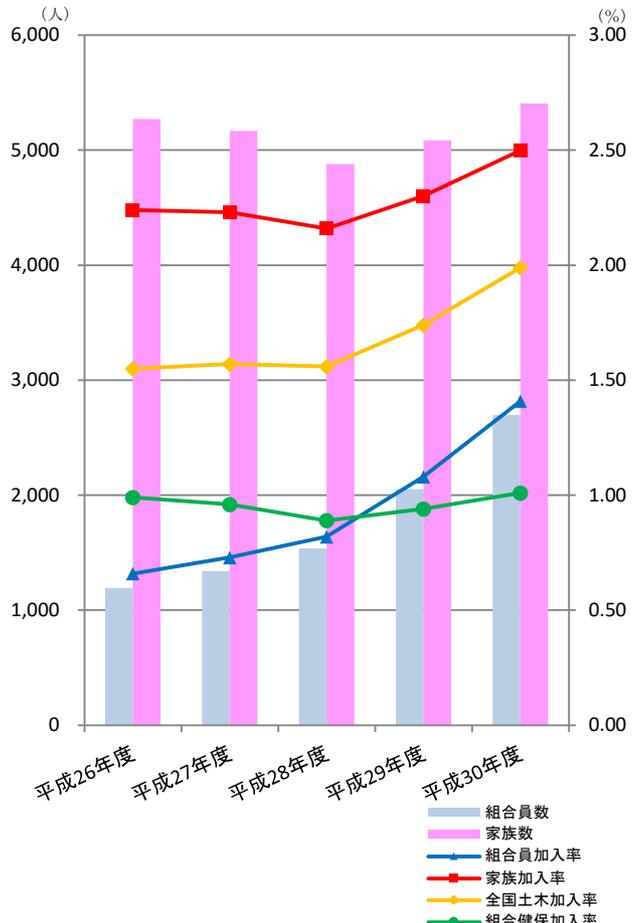
◎全保険者の平均前期高齢者加入率（平成30年度）：15.2%

出典 平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-4) 前期高齢者の被保険者数



(図-5) 前期高齢者の被保険者数（70歳以上再掲）



(4) 扶養率分析

平成30年度における扶養率は1.12人となっており、前年度と比較すると3.55%減少している。
 なお、平成26年度からの推移をみると減少傾向にあり、減少率は年々拡大し4年間で0.17人減少した。
 また、組合健保と比較すると、全国土木の扶養率が高く、平成30年度では0.36人の差となっている。この差の要因は、①扶養率が高い男性組合員（被保険者）の割合（全国土木は86.3%）が組合健保（65.7%）より20.6ポイント高いことに加え、②組合員と同一世帯であれば収入の多寡にかかわらず家族被保険者となることの影響している。（組合員（被保険者）の性別や年齢構成の差異の影響を除くと、扶養率の差は0.36からおよそ半分程度となると試算される。）
 年齢階級別でみると、全国土木、組合健保ともに40歳から44歳（全国土木1.67、組合健保1.14）が最も高い。

(表-5) 扶養率年度別推移 (9月末現在)

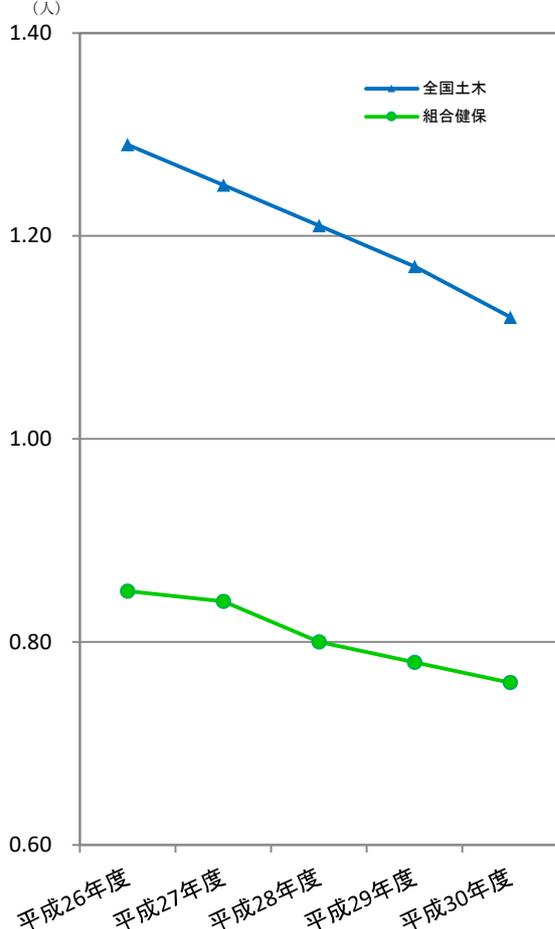
	全国土木		組合健保	
	対前年度増減率	対前年度増減率		
平成26年度	1.29	△ 2.54	0.85	△ 1.94
平成27年度	1.25	△ 2.80	0.84	△ 1.71
平成28年度	1.21	△ 3.37	0.80	△ 3.97
平成29年度	1.17	△ 3.83	0.78	△ 2.84
平成30年度	1.12	△ 3.55	0.76	△ 2.10
組合健保との差(率)	0.36 (47.00%)	△ 1.45 ^P		

出典：厚生労働省「健康保険・船員保険被保険者実態調査」

(表-6) 組合員の年齢階級別、性別、扶養率 (平成30年9月末現在)

組合員(被保険者)年齢別	全国土木		組合健保			
	男性	女性	男性	女性	女性	
15 - 19	0.19	0.20	0.15	0.01	0.01	0.00
20 - 24	0.17	0.18	0.11	0.04	0.06	0.01
25 - 29	0.34	0.40	0.11	0.18	0.28	0.04
30 - 34	0.96	1.12	0.22	0.58	0.85	0.11
35 - 39	1.48	1.70	0.37	0.96	1.38	0.19
40 - 44	1.67	1.90	0.46	1.14	1.62	0.24
45 - 49	1.61	1.83	0.34	1.13	1.59	0.22
50 - 54	1.43	1.61	0.19	1.03	1.41	0.17
55 - 59	1.03	1.13	0.17	0.76	1.03	0.10
60 - 64	0.87	0.92	0.24	0.64	0.83	0.06
65 - 69	0.86	0.89	0.47	0.67	0.81	0.06
70 - 74	0.81	0.86	0.32	0.68	0.82	0.05
計	1.12	1.26	0.26	0.76	1.09	0.13

(図-6) 扶養率年度別推移

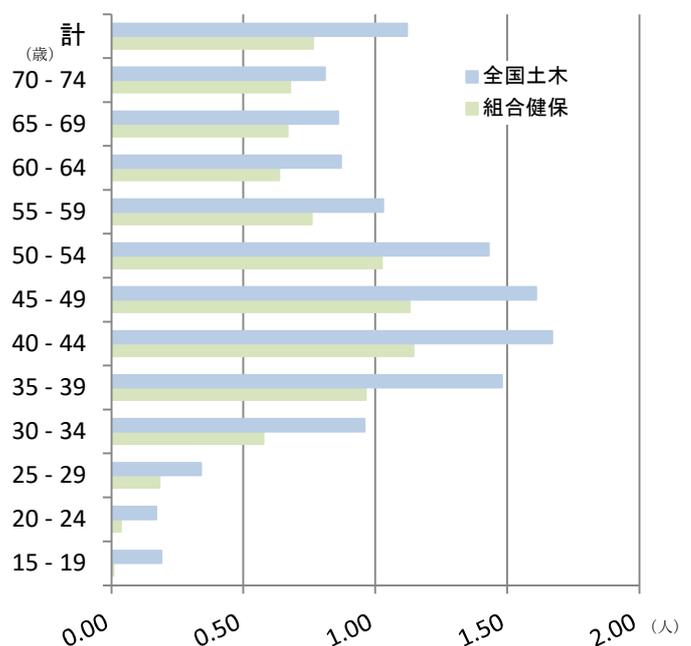


※組合員（被保険者）性別比

性別比	全国土木		組合健保	
	男性	女性	男性	女性
	86.3%	13.7%	65.7%	34.3%

出典：厚生労働省「健康保険・船員保険被保険者実態調査」

(図-7) 年齢階級別、扶養率



2 医療費の状況

(1) 医療費

平成30年度における医療費は約734億円であり、前年度と比較して0.34%減少している。このうち70歳未満の組合員は約335億円、家族は約353億円であり、前年度と比較して組合員は0.40%増加し、家族は2.12%減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、増加傾向にあり特に医療費改定のない平成27年度と平成29年度の増加率が大きかったが、平成30年度は微減した。医療費の伸びがマイナスとなるのは、平成25年度以来5年ぶりとなる。

また、医療費の動向を組合健保と比較すると、組合員は組合健保と同様に増加傾向にある。家族は若干の差異はあるものの組合健保と同様の傾向にあり、ほぼ横ばいとなっているが、平成30年度は家族数の減少を反映し、前年度よりやや減少した。

(表-7) 医療費

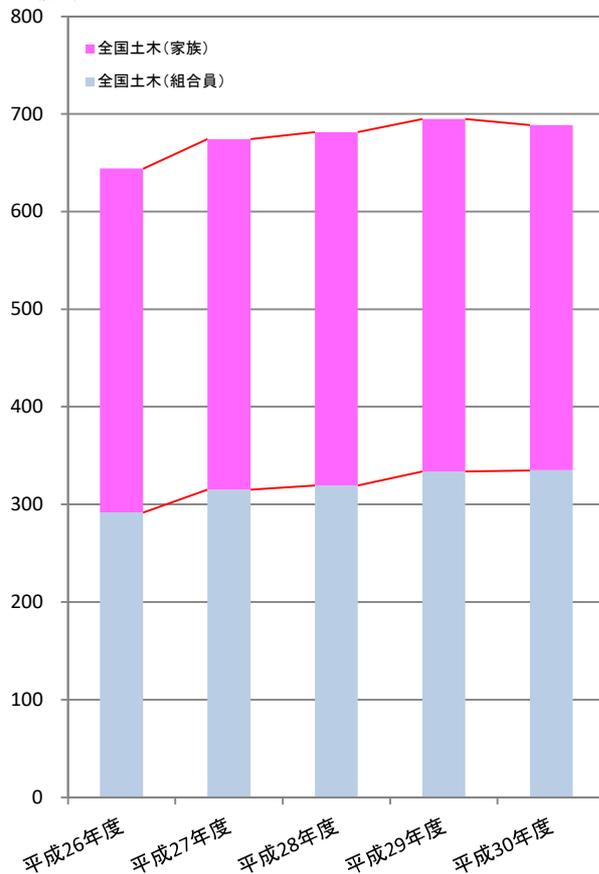
(億円、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族			被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
平成26年度	682	1.50	292	3.67	352	△ 0.65	42,809	1.79	21,575	2.46	19,648	0.98
平成27年度	715	4.86	315	7.95	359	2.02	44,304	3.49	22,665	5.05	20,053	2.06
平成28年度	719	0.54	319	1.34	362	0.84	44,555	0.56	23,225	2.47	19,885	△ 0.84
平成29年度	737	2.50	334	4.51	361	△ 0.30	45,870	2.95	24,375	4.95	19,990	0.53
平成30年度	734	△ 0.34	335	0.40	353	△ 2.12	46,189	0.70	24,742	1.51	19,884	△ 0.53

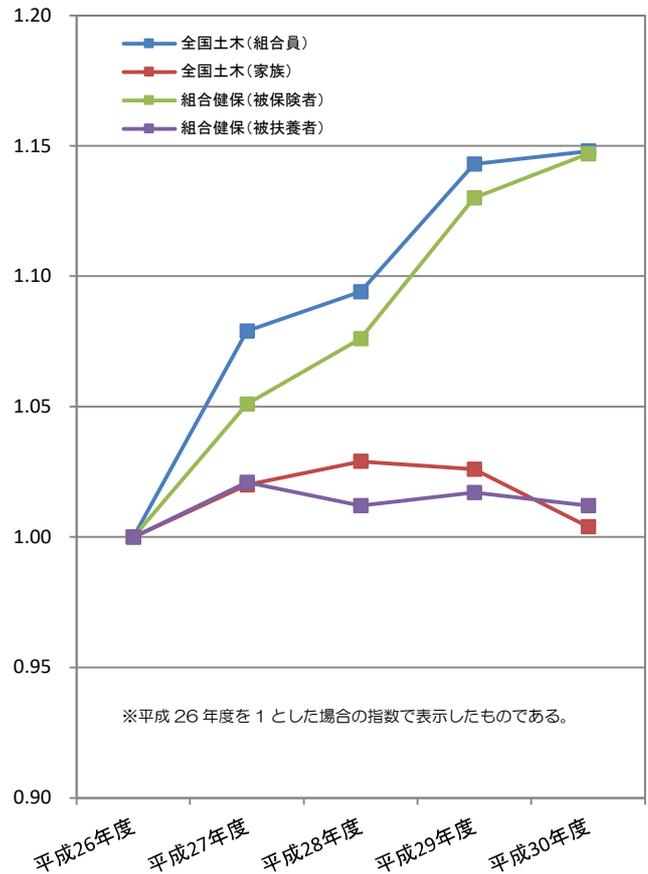
出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-8) 医療費

(億円)



(図-9) 医療費の動向



(2) 診療区分別の医療費

平成30年度における診療区分別の医療費は、全国土木は医科入院外が299億円（41.21%）と全体の4割以上を占め、次いで医科入院199億円（27.39%）となっており、組合健保も同様に医科入院外1兆9,303億円（42.18%）、医科入院1兆1,577億円（25.30%）となっている。

なお、構成比を組合健保と比較すると、組合員は医科入院が2.84ポイント高く、歯科が1.54ポイント低くなっており、家族はほぼ同様の割合となっている。

また、7歳未満の組合員（被保険者）と家族（被扶養者）の割合をみると、全国土木は組合員（48.82%）が家族（51.18%）より2.36ポイント低くなっているが、組合健保では被保険者（55.59%）が被扶養者（44.41%）より11.18ポイント高くなっている。

(表-8) 診療区分別医療費（平成30年度）

(億円、%)

	全国土木						組合健保					
			組合員		家族				被保険者		被扶養者	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
医科入院	199	27.39	90	26.90	92	26.49	11,577	25.30	5,915	24.06	5,123	26.09
医科入院外	299	41.21	137	41.13	146	41.91	19,303	42.18	10,362	42.15	8,343	42.49
歯科	83	11.42	39	11.71	41	11.78	5,652	12.35	3,257	13.25	2,288	11.65
調剤	145	19.98	67	20.26	69	19.82	9,228	20.17	5,048	20.54	3,883	19.77
計	727	100.00	333	100.00	349	100.00	45,761	100.00	24,582	100.00	19,638	100.00

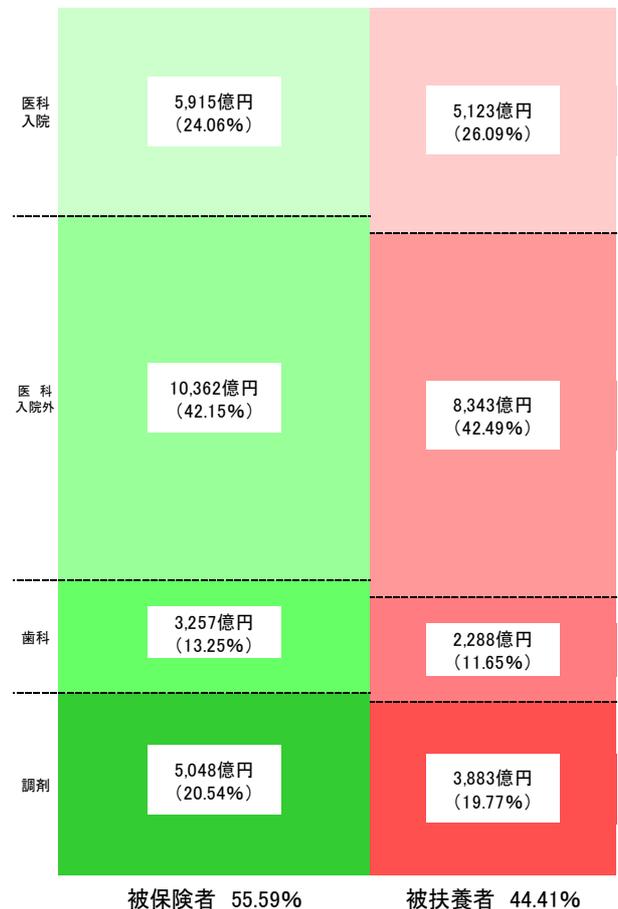
※「医科入院」及び「歯科」は入院時食事・生活療養費を除く。

出典：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-10) 診療区分別医療費（全国土木）



(図-11) 診療区分別医療費（組合健保）



(3) 1人当たり医療費

平成30年度における1人当たり医療費は180,084円であり、前年度と比較して0.43%増加している。このうち70歳未満の組合員は177,355円、家族は167,790円であり、前年度と比較して組合員は0.40%減少し、家族は0.48%増加している。

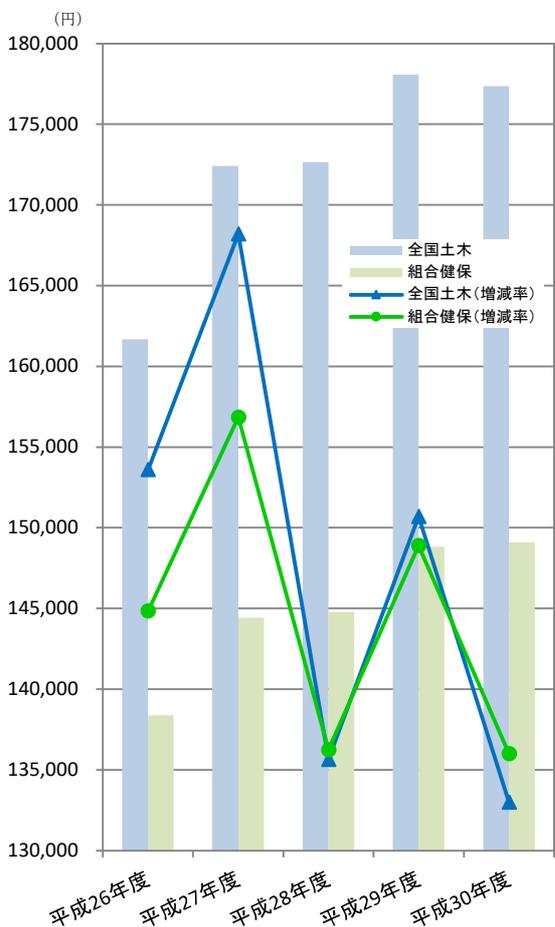
なお、平成26年度以降の推移をみると、組合員、家族ともに毎年増加傾向にあるが、組合員については、平成30年度は前年度よりやや減少した。

また、1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっており（組合員28,251円（18.95%）、家族10,814円（6.89%））、特に組合員の差が大きくなっている。さらに、全国土木は組合員の方が家族より高くなっているが、組合健保は逆に被扶養者の方が被保険者より高くなっており、傾向に違いが見られる。

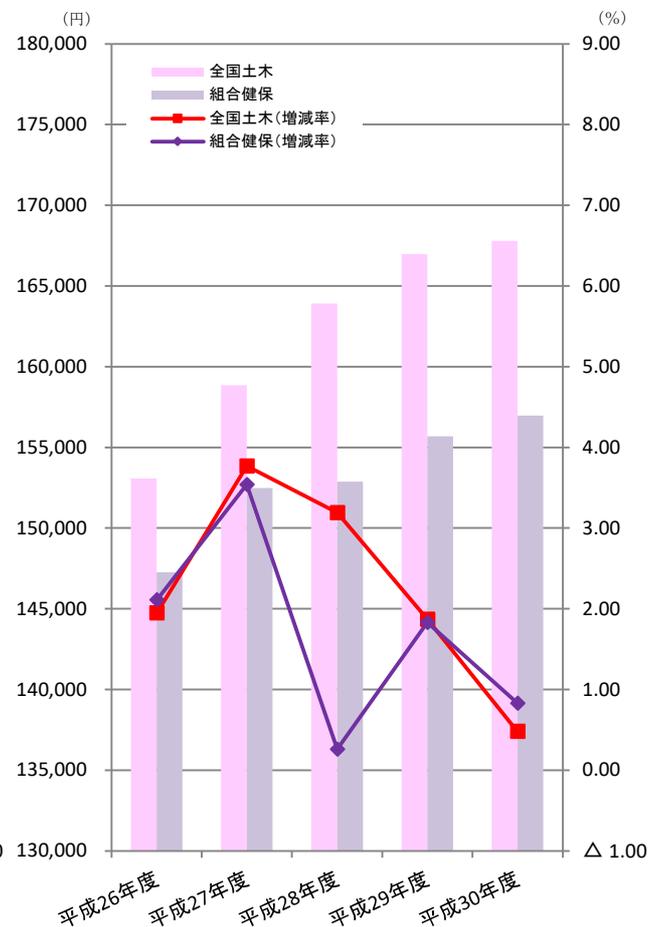
(表-9) 1人当たり医療費

	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増減率	組 合 員		家 族		対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
平成26年度	163,462	2.91	161,681	3.72	153,077	1.95	146,488	2.02	138,380	1.97	147,263	2.11
平成27年度	172,075	5.27	172,413	6.64	158,850	3.77	152,125	3.85	144,430	4.37	152,473	3.54
平成28年度	174,287	1.29	172,641	0.13	163,916	3.19	152,010	△ 0.08	144,788	0.25	152,877	0.26
平成29年度	179,311	2.88	178,061	3.14	166,985	1.87	155,507	2.30	148,812	2.78	155,682	1.83
平成30年度	180,084	0.43	177,355	△ 0.40	167,790	0.48	156,256	0.48	149,104	0.20	156,976	0.83
組合健保との 差(率)	23,828 (15.25%)	△ 0.05 ^P	28,251 (18.95%)	△ 0.60 ^P	10,814 (6.89%)	△ 0.35 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

(図-12) 1人当たり医療費（組合員）



(図-13) 1人当たり医療費（家族）



(4) 年齢階級別 1 人当たり医療費

①全体

平成 29 年度における年齢階級別 1 人当たり医療費は、0 歳から 4 歳の乳幼児層及び 50 歳以降の中高齢層で高くなる傾向となっており、特に前期高齢者納付金に影響する前期高齢者（65 歳～74 歳）の 1 人当たり医療費が高い。

なお、組合健保と比較すると、0 歳から 4 歳の年齢階級では全国土木の方が低く、5 歳から 54 歳の年齢階級までは大きな差はないが、55 歳以降は全国土木の方が大幅に高くなっている。それに加え、この年齢階級の加入者構成比は全国土木の方が大きいことから、全体の 1 人当たり医療費を押し上げ、全体では、全国土木（179,311 円）が組合健保（155,507 円）より 23,804 円（15.31%）高くなっている。

しかし、全国土木の 1 人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると、156,976 円となる。加入者構成の違いによる差が 22,335 円（14.36%）であり、これを調整した後の組合健保との差は 1,469 円、率にして僅か 0.94%となる。

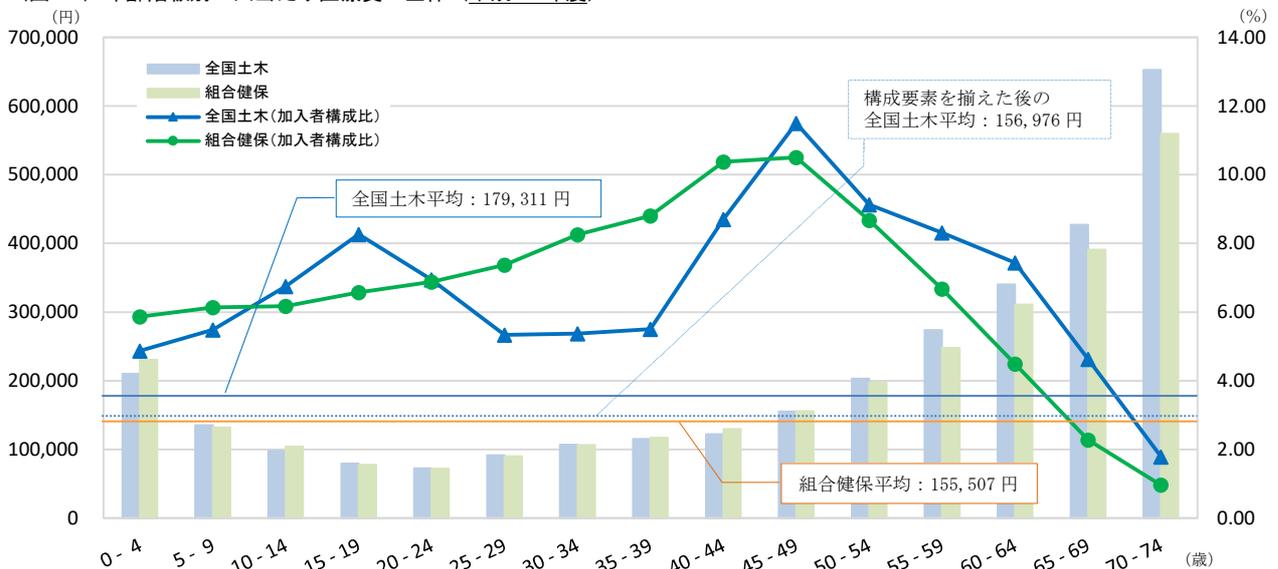
全国土木と組合健保の 1 人当たり医療費の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 86.29%と全体の 9 割弱を占め、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が 44.04%と大きい。また、本人割合は△1.89%、男女割合は 9.43%の影響であり、本人割合、男女割合、年齢構成以外のその他医療費等（医療費水準等）の影響は 6.17%である。

(表-10) 年齢階級別 1 人当たり医療費：全体（平成 29 年度）

歳	1 人当たり医療費			加入者構成比		
	全国土木 円	組合健保 円	組合健保との差 (率) 円 (%)	全国土木 %	組合健保 %	組合健保との差 %
0 - 4	209,853	230,315	△ 20,462 (△8.88%)	4.87	5.87	△ 1.00
5 - 9	135,259	131,897	3,362 (2.55%)	5.48	6.13	△ 0.65
10 - 14	98,199	104,187	△ 5,988 (△5.75%)	6.75	6.17	0.58
15 - 19	79,528	77,767	1,761 (2.26%)	8.26	6.57	1.69
20 - 24	72,356	72,119	237 (0.33%)	6.94	6.88	0.06
25 - 29	91,339	89,921	1,418 (1.58%)	5.33	7.37	△ 2.04
30 - 34	106,675	106,333	342 (0.32%)	5.38	8.25	△ 2.87
35 - 39	115,391	116,895	△ 1,504 (△1.29%)	5.50	8.80	△ 3.30
40 - 44	122,370	129,513	△ 7,143 (△5.52%)	8.70	10.37	△ 1.67
45 - 49	155,330	155,812	△ 482 (△0.31%)	11.50	10.51	0.99
50 - 54	203,025	197,513	5,512 (2.79%)	9.13	8.68	0.45
55 - 59	273,870	247,496	26,374 (10.66%)	8.31	6.68	1.63
60 - 64	340,194	311,090	29,104 (9.36%)	7.43	4.49	2.94
65 - 69	427,026	390,821	36,205 (9.26%)	4.63	2.27	2.36
70 - 74	652,439	559,576	92,863 (16.60%)	1.79	0.96	0.83
全 体	179,311	155,507	23,804 (15.31%)	100.00	100.00	-
全 体	156,976	155,507	1,469 (0.94%)	本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えた場合		

※「1 人当たり医療費」は、基礎資料である年齢階級別医療費に訪問看護療養費が含まれていないことから、表-9「1 人当たり医療費」に合わせるため金額を補正し、算出している。

(図-14) 年齢階級別 1 人当たり医療費：全体（平成 29 年度）

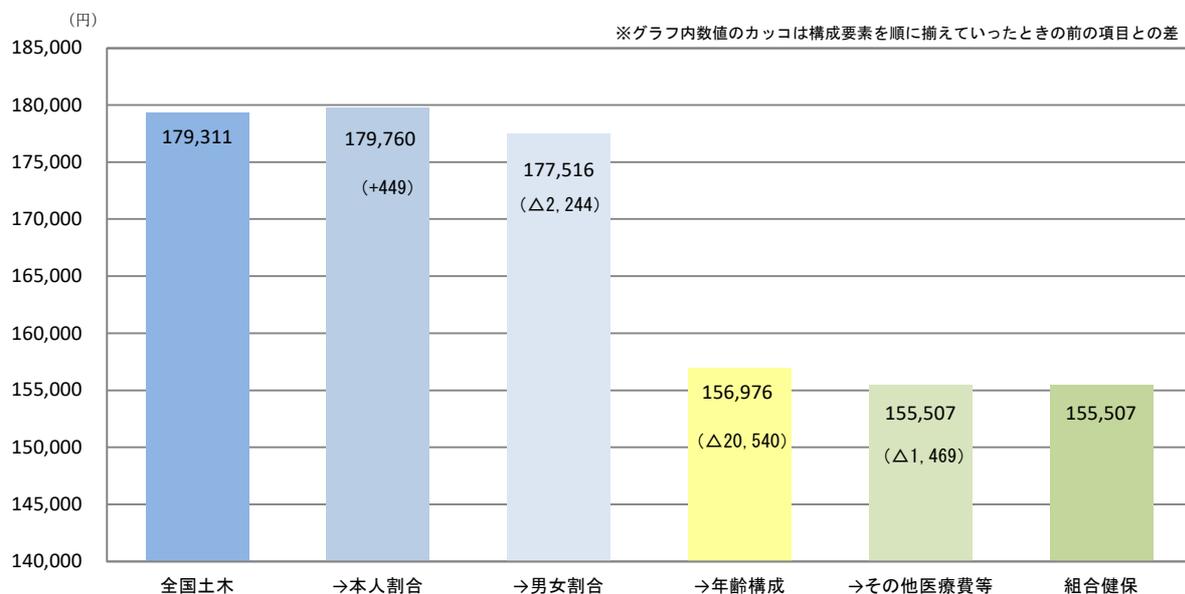


(参考) 組合健保の本人割合、男女割合、年齢構成と順に揃えていった場合の全国土木の1人当たり医療費

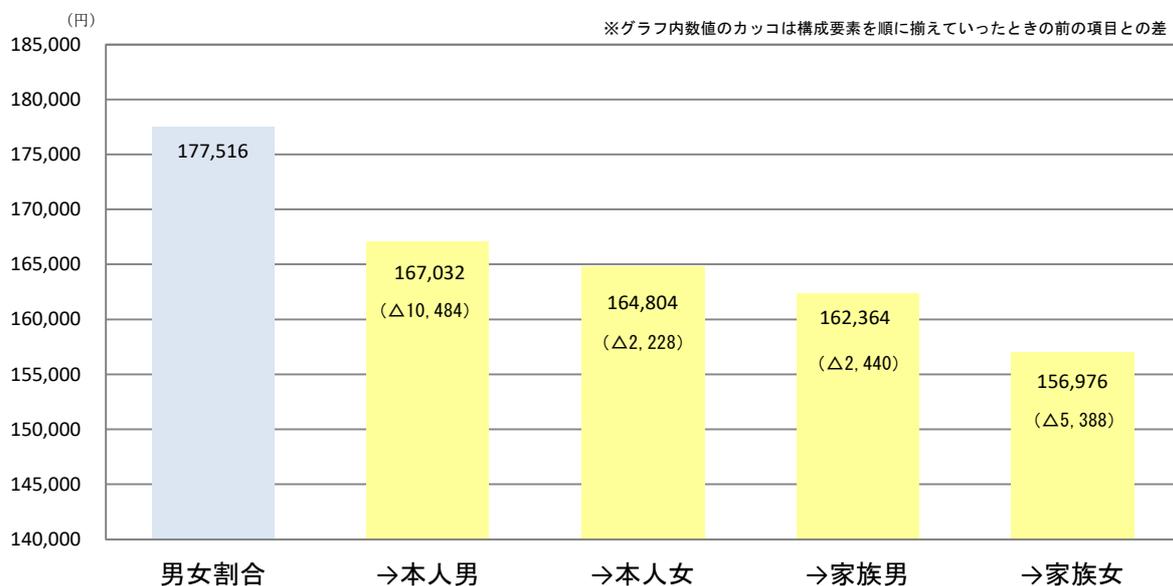
	順次、組合健保と同じにすると					組合健保
	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	
加入者1人当たり医療費(円)	179,311	179,760	177,516	156,976	155,507	155,507
差(円)		449	△ 2,244	△ 20,540	△ 1,469	△ 23,804
寄与率(%)		△ 1.89	9.43	86.29	6.17	100.00
寄与度(%)		△ 0.29	1.44	13.21	0.94	15.31

	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり医療費(円)	167,032	164,804	162,364	156,976
差(円)	△ 10,484	△ 2,228	△ 2,440	△ 5,388
寄与率(%)	44.04	9.36	10.25	22.63
寄与度(%)	6.74	1.43	1.57	3.46

構成要素を揃えていったときのイメージ



年齢構成を揃えたときの内訳



② 医科入院

平成 29 年度における医科入院の年齢階級別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、0 歳から 4 歳、10 歳から 14 歳及び 40 歳から 44 歳の年齢階級を除いて全国土木の方が高くなっている。特に 25 歳から 29 歳及び 70 歳から 74 歳の年齢階級では率にしてそれぞれ 21.61%、23.16%と差が大きくなっており、全体では、全国土木 (48,615 円) が組合健保 (38,390 円) より 10,225 円 (26.63%) 高い。

しかし、全国土木の医科入院の 1 人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると、39,746 円となる。加入者構成の違いによる差が 8,869 円 (23.09%) であり、これを調整した後の組合健保との差は 1,356 円、率にして 3.53%となる。

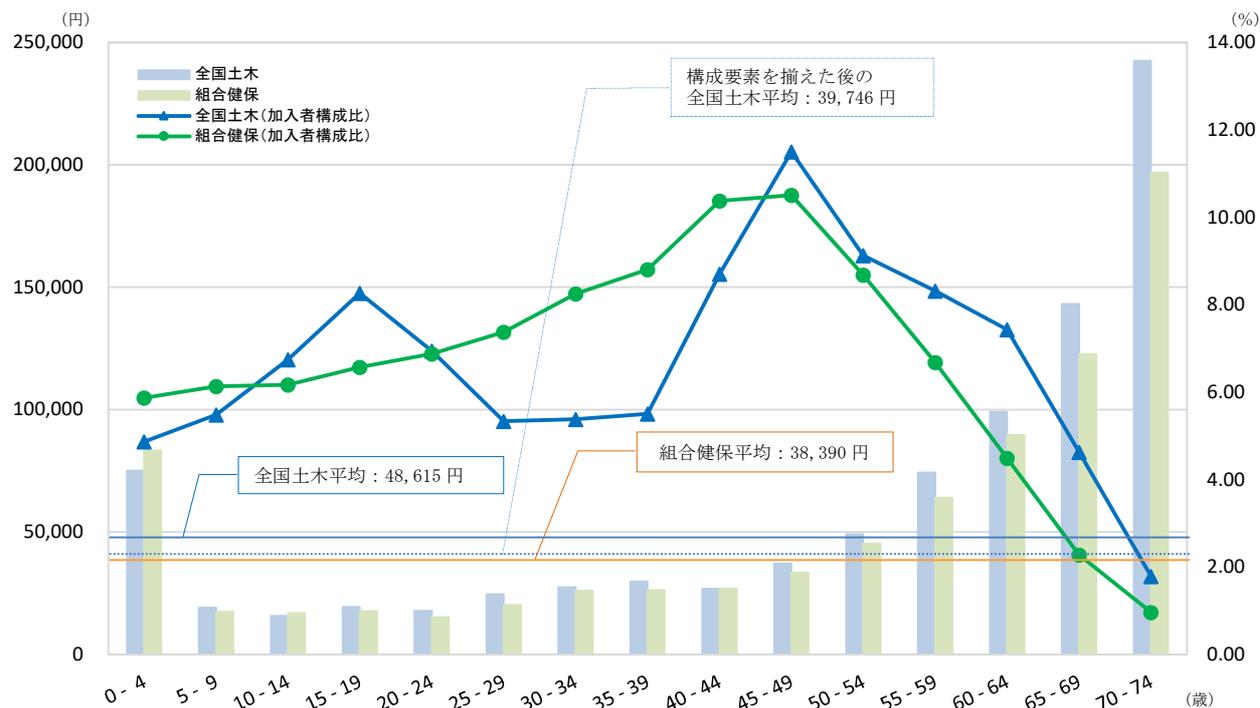
全国土木と組合健保の 1 人当たり医療費の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 69.74%と全体の 7割弱を占め、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が 35.02%と大きい。また、本人割合は△0.24%、男女割合は 17.24%の影響であり、本人割合、男女割合、年齢構成以外のその他医療費等 (医療費水準等) の影響は 13.26%である。

(表-11) 年齢階級別 1 人当たり医療費：医科入院 (平成 29 年度)

年齢階級	1 人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木 円	組合健保 円	組合健保との差 (率) 円 (%)	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
0 - 4	75,012	83,326	△ 8,314 (△9.98%)	48,615	48,640	46,877	39,746	38,390	38,390
5 - 9	19,107	17,447	1,660 (9.51%)		25	△ 1,763	△ 7,131	△ 1,356	△ 10,225
10 - 14	15,757	16,871	△ 1,114 (△6.60%)			△ 0.24	17.24	69.74	13.26
15 - 19	19,358	17,683	1,675 (9.47%)			△ 0.07	4.59	18.57	3.53
20 - 24	17,857	15,236	2,621 (17.21%)						
25 - 29	24,565	20,200	4,365 (21.61%)						
30 - 34	27,460	25,998	1,462 (5.63%)						
35 - 39	29,800	26,311	3,489 (13.26%)						
40 - 44	26,813	26,953	△ 140 (△0.52%)						
45 - 49	37,158	33,467	3,691 (11.03%)						
50 - 54	49,121	45,376	3,745 (8.25%)						
55 - 59	74,337	63,945	10,392 (16.25%)						
60 - 64	99,023	89,638	9,385 (10.47%)						
65 - 69	143,200	122,665	20,535 (16.74%)						
70 - 74	242,511	196,908	45,603 (23.16%)						
全 体	48,615	38,390	10,225 (26.63%)						
全 体	39,746	38,390	1,356 (3.53%)	本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えた場合					

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。そのため、15 ページ及び 16 ページの値と一致しない。

(図-15) 年齢階級別 1 人当たり医療費：医科入院 (平成 29 年度)



③医科入院外

平成 29 年度における医科入院外の年齢階級別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、55 歳未満の年齢階級では全国土木の方が低いか同程度となっているが、55 歳以降の年齢階級では全国土木の方が高くなっている。全体では、全国土木（72,744 円）が組合健保（64,952 円）より 7,792 円（12.00%）高い。

全国土木の医科入院外の 1 人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると 64,921 円となり、組合健保との差は△31 円（△0.05%）とほぼ同水準となる。内訳をみると、加入者構成の違いによる差が 7,823 円（12.04%）であり元の差を上回っている。

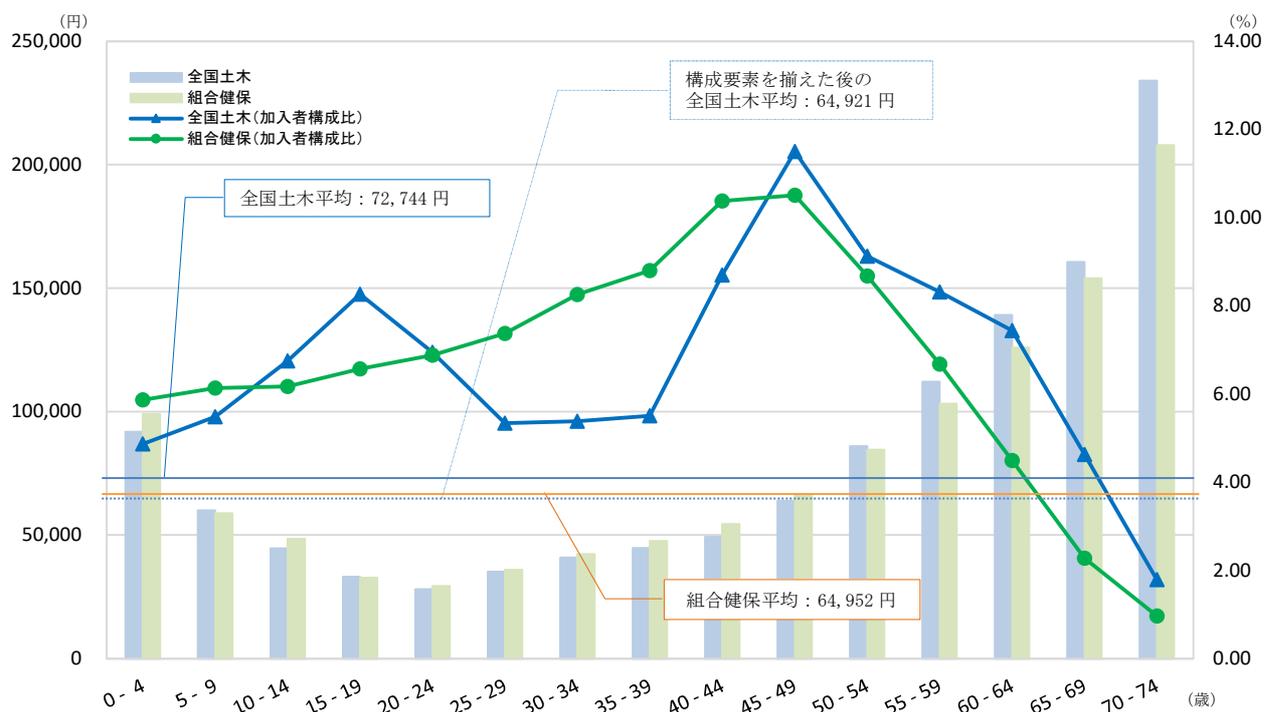
全国土木と組合健保の 1 人当たり医療費の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 98.24%とほぼ全ての原因となっており、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が 53.34%と大きい。また、本人割合は△2.01%、男女割合は 4.17%の影響であり、本人割合、男女割合、年齢構成以外のその他医療費等（医療費水準等）の影響は△0.40%と、年齢構成以外の影響はほとんどない。

（表-12）年齢階級別 1 人当たり医療費：医科入院外（平成 29 年度）

年齢階級	1 人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
0 - 4	91,790	99,069	△ 7,279 (△7.35%)	72,744	72,901	72,576	64,921	64,952	64,952
5 - 9	59,997	58,832	1,165 (1.98%)		157	△ 325	△ 7,655	31	△ 7,792
10 - 14	44,656	48,548	△ 3,892 (△8.02%)		△ 2.01	4.17	98.24	△ 0.40	100.00
15 - 19	33,161	32,785	376 (1.15%)		△ 0.24	0.50	11.78	△ 0.05	12.00
20 - 24	28,008	29,316	△ 1,308 (△4.46%)						
25 - 29	35,228	35,983	△ 755 (△2.10%)						
30 - 34	40,862	42,344	△ 1,482 (△3.50%)						
35 - 39	44,781	47,636	△ 2,855 (△5.99%)						
40 - 44	49,215	54,421	△ 5,206 (△9.57%)						
45 - 49	63,947	66,563	△ 2,616 (△3.93%)						
50 - 54	85,941	84,553	1,388 (1.64%)						
55 - 59	112,103	103,177	8,926 (8.65%)						
60 - 64	139,131	125,970	13,161 (10.45%)						
65 - 69	160,565	154,000	6,565 (4.26%)						
70 - 74	234,010	207,953	26,057 (12.53%)						
全 体	72,744	64,952	7,792 (12.00%)						
全 体	64,921	64,952	△ 31 (△0.05%)	本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えた場合					

	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者 1 人当たり医療費(円)	68,420	67,439	66,947	64,921
差(円)	△ 4,156	△ 981	△ 492	△ 2,026
寄与率(%)	53.34	12.59	6.31	26.00
寄与度(%)	6.40	1.51	0.76	3.12

（図-16）年齢階級別 1 人当たり医療費：医科入院外（平成 29 年度）



④ 歯科

平成 29 年度における歯科の年齢階級別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、0 歳から 4 歳の年齢階級では全国土木が 1,390 円 (△15.30%) 低く、70 歳から 74 歳の年齢階級では全国土木が 3,817 円 (10.56%) 高いが、その他の年齢階級では組合健保とあまり差はない。全体では、全国土木 (19,992 円) が組合健保 (18,840 円) より 1,152 円 (6.11%) 高い。

全国土木の歯科の 1 人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると 19,255 円となる。加入者構成の違いによる差が 737 円 (3.91%) であり、これを調整した後の組合健保との差は 415 円、率にして 2.20%となる。

全国土木と組合健保の 1 人当たり医療費の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 105.82%と元の差を超えており、特に「本人：男性」と「家族：女性」の年齢構成の違いによる影響がそれぞれ 45.49%、37.67%と大きい。また、本人割合は△11.28%、男女割合は△30.56%の影響とマイナス要因となっており、本人割合、男女割合、年齢構成以外のその他医療費等 (医療費水準等) の影響は 36.02%である。

(表-13) 年齢階級別 1 人当たり医療費：歯科 (平成 29 年度)

歳 歳	1 人当たり医療費		
	全国土木 円	組合健保 円	組合健保との差 (率) 円 (率)
0 - 4	7,695	9,085	△ 1,390 (△15.30%)
5 - 9	23,694	23,030	664 (2.89%)
10 - 14	14,304	13,761	543 (3.94%)
15 - 19	10,357	10,369	△ 12 (△0.12%)
20 - 24	12,033	12,556	△ 523 (△4.17%)
25 - 29	15,168	15,499	△ 331 (△2.14%)
30 - 34	17,243	16,790	453 (2.70%)
35 - 39	18,178	18,109	69 (0.38%)
40 - 44	18,599	19,452	△ 853 (△4.38%)
45 - 49	21,077	20,915	162 (0.77%)
50 - 54	24,157	23,541	616 (2.61%)
55 - 59	26,966	26,066	900 (3.45%)
60 - 64	29,907	29,233	674 (2.31%)
65 - 69	32,429	31,656	773 (2.44%)
70 - 74	39,955	36,138	3,817 (10.56%)
全 体	19,992	18,840	1,152 (6.11%)
全 体	19,255	18,840	415 (2.20%)

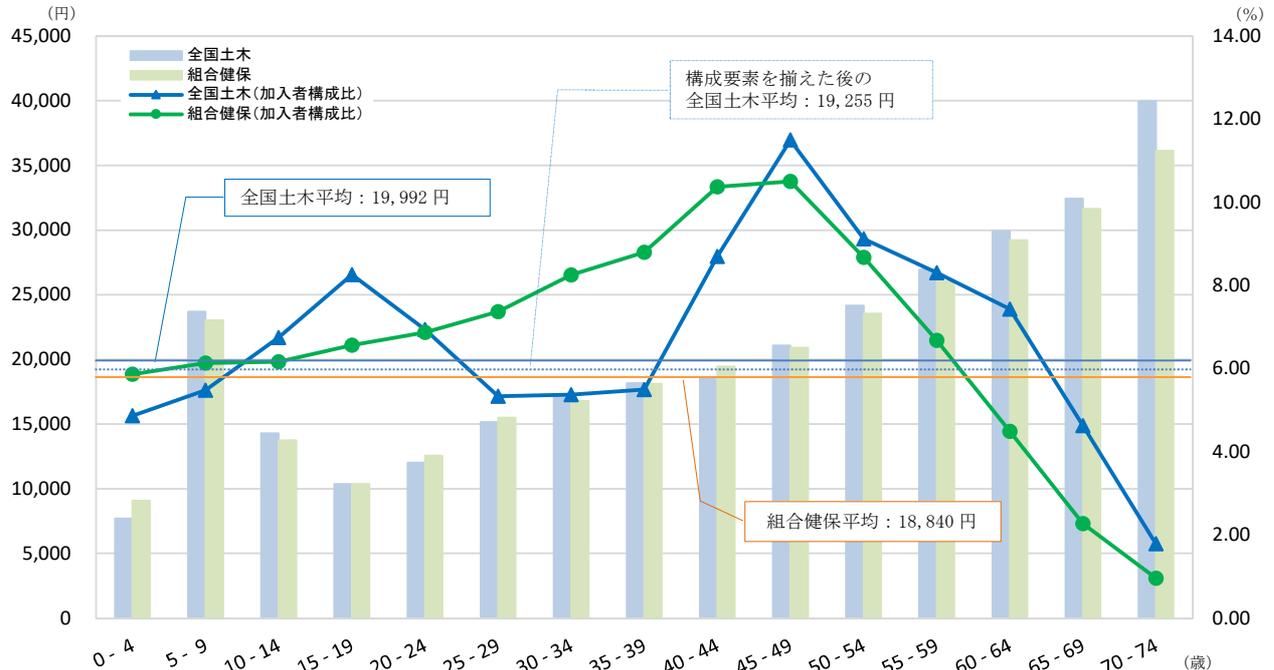
	順次、組合健保と同じにすると					組合健保
	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	
加入者 1 人当たり医療費 (円)	19,992	20,122	20,474	19,255	18,840	18,840
差 (円)		130	352	△ 1,219	△ 415	△ 1,152
寄与率 (%)		△ 11.28	△ 30.56	105.82	36.02	100.00
寄与度 (%)		△ 0.69	△ 1.87	6.47	2.20	6.11

	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者 1 人当たり医療費 (円)	19,950	19,774	19,689	19,255
差 (円)	△ 524	△ 176	△ 85	△ 434
寄与率 (%)	45.49	15.28	7.38	37.67
寄与度 (%)	2.78	0.94	0.45	2.30

本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えた場合	
加入者 1 人当たり医療費 (円)	19,255
差 (円)	415
寄与率 (%)	2.20

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。そのため、15 ページ及び 27 ページの値と一致しない。

(図-17) 年齢階級別 1 人当たり医療費：歯科 (平成 29 年度)



⑤調剤

平成 29 年度における調剤の年齢階級別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、55 歳未満の年齢階級では全国土木が低いが、55 歳以降の年齢階級では全国土木が高くなっており、医科入院外と同様の傾向にある。全体では、全国土木（36,061 円）が組合健保（31,923 円）より 4,138 円（12.96%）高い。

全国土木の調剤の 1 人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると 31,603 円となり、組合健保より 320 円（△1.00%）低くなる。内訳をみると、加入者構成の違いによる差が 4,458 円（13.97%）であり元の差を上回っている。

全国土木と組合健保の 1 人当たり医療費の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 102.44%と元の差を超えており、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が 51.62%と大きい。また、本人割合は△5.92%、男女割合は 11.21%の影響であり、本人割合、男女割合、年齢構成以外のその他医療費等（医療費水準等）の影響は△7.73%である。

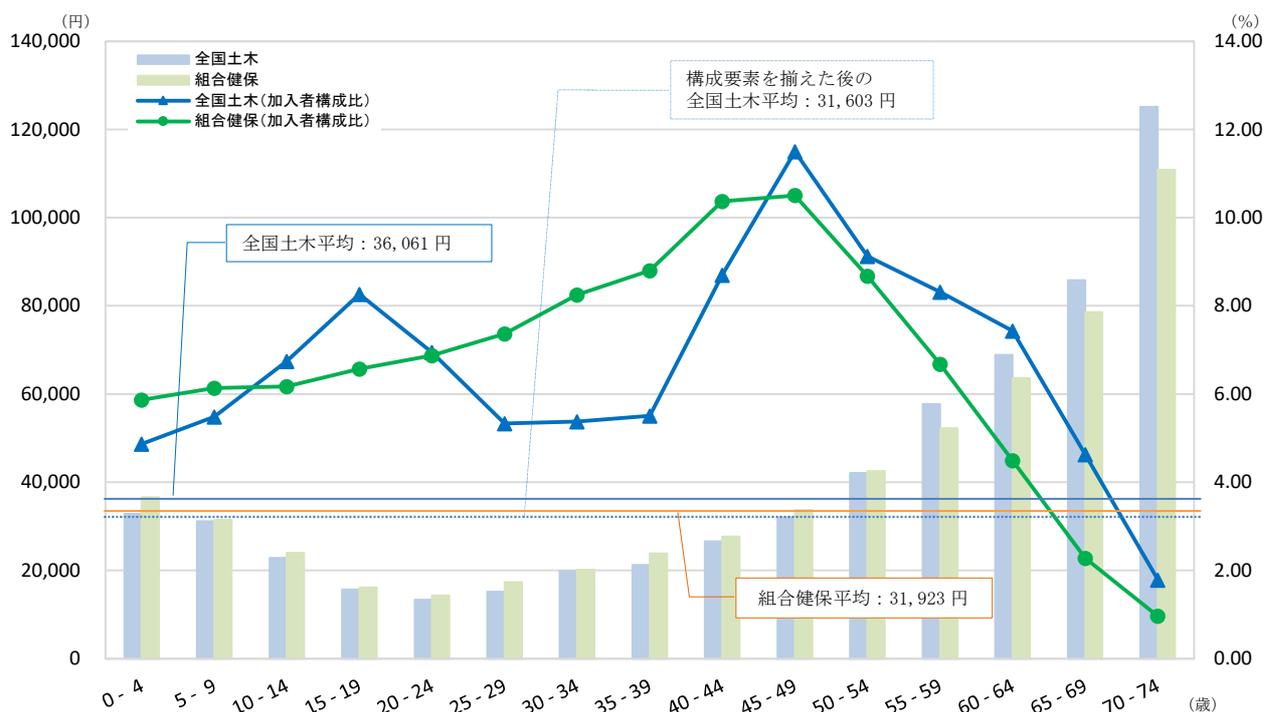
（表-14）年齢階級別 1 人当たり医療費：調剤（平成 29 年度）

年齢階級	1 人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
0 - 4	32,792	36,551	△ 3,759 (△10.29%)	36,061	36,306	35,842	31,603	31,923	31,923
5 - 9	31,142	31,453	△ 311 (△0.99%)		245	△ 464	△ 4,239	320	△ 4,138
10 - 14	22,804	23,991	△ 1,187 (△4.95%)		△ 5.92	11.21	102.44	△ 7.73	100.00
15 - 19	15,616	16,058	△ 442 (△2.75%)		△ 0.77	1.46	13.28	△ 1.00	12.96
20 - 24	13,361	14,256	△ 895 (△6.28%)						
25 - 29	15,126	17,345	△ 2,219 (△12.80%)						
30 - 34	19,887	20,161	△ 274 (△1.36%)						
35 - 39	21,205	23,810	△ 2,605 (△10.94%)						
40 - 44	26,623	27,686	△ 1,063 (△3.84%)						
45 - 49	31,989	33,677	△ 1,688 (△5.01%)						
50 - 54	42,076	42,492	△ 416 (△0.98%)						
55 - 59	57,705	52,246	5,459 (10.45%)						
60 - 64	68,882	63,574	5,308 (8.35%)						
65 - 69	85,826	78,583	7,243 (9.22%)						
70 - 74	125,143	110,915	14,228 (12.83%)						
全 体	36,061	31,923	4,138 (12.96%)						
全 体	31,603	31,923	△ 320 (△1.00%)						

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者 1 人当たり医療費(円)	33,706	33,197	32,812	31,603
差(円)	△ 2,136	△ 509	△ 385	△ 1,209
寄与率(%)	51.62	12.30	9.30	29.22
寄与度(%)	6.69	1.59	1.21	3.79

本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えた場合	
加入者 1 人当たり医療費(円)	31,603
差(円)	△ 320
寄与率(%)	△ 1.00

（図-18）年齢階級別 1 人当たり医療費：調剤（平成 29 年度）



(5) 診療区分別 1人当たり医療費

平成30年度の診療区分別の1人当たり医療費の詳細については、後述（医科入院 16 ページ、医科入院外 24 ページ、歯科 27 ページ、調剤 30 ページ）のとおりであるが、各診療区分の1人当たり医療費を一覧にして平成26年度からの推移をみると、全体的に増加傾向にあるが、平成29年度から平成30年度の増加率はその前年よりも緩やかになっている。

調剤については、平成27年度は高額薬剤の保険適用の影響も含めた薬剤費全体の増加のため9.72%と大幅に増加した後、平成28年度は薬価のマイナス改定及び前年度の大幅増の反動のため一転して2.13%の減少となり、平成29年度は増加したが、平成30年度は薬価のマイナス改定のため再び減少している。

また、1人当たり医療費を組合健保と比較すると、いずれの診療区分についても全国土木が高く、特に医科入院は24.87%と差が大きくなっている。

(表-15) 診療区分別 1人当たり医療費

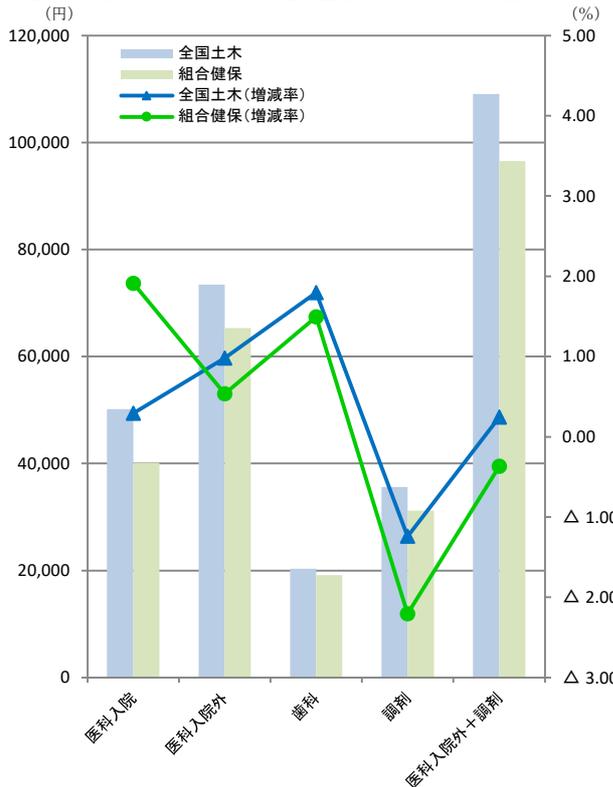
(円、%)

全国土木	医科入院	対前年度		医科入院外	対前年度		歯科	対前年度		調剤	対前年度		医科入院外+調剤		対前年度	
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
平成26年度	45,300	944	2.13	66,472	1,919	2.97	18,887	803	4.44	32,500	900	2.85	98,971	2,818	2.93	
平成27年度	47,336	2,036	4.50	69,566	3,094	4.65	19,170	283	1.50	35,659	3,159	9.72	105,225	6,254	6.32	
平成28年度	48,711	1,375	2.91	70,720	1,154	1.66	19,529	359	1.87	34,899	△760	△2.13	105,619	394	0.37	
平成29年度	50,001	1,290	2.65	72,744	2,024	2.86	20,000	471	2.41	36,061	1,162	3.33	108,805	3,186	3.02	
平成30年度	50,146	145	0.29	73,458	714	0.98	20,360	360	1.80	35,614	△447	△1.24	109,072	267	0.25	

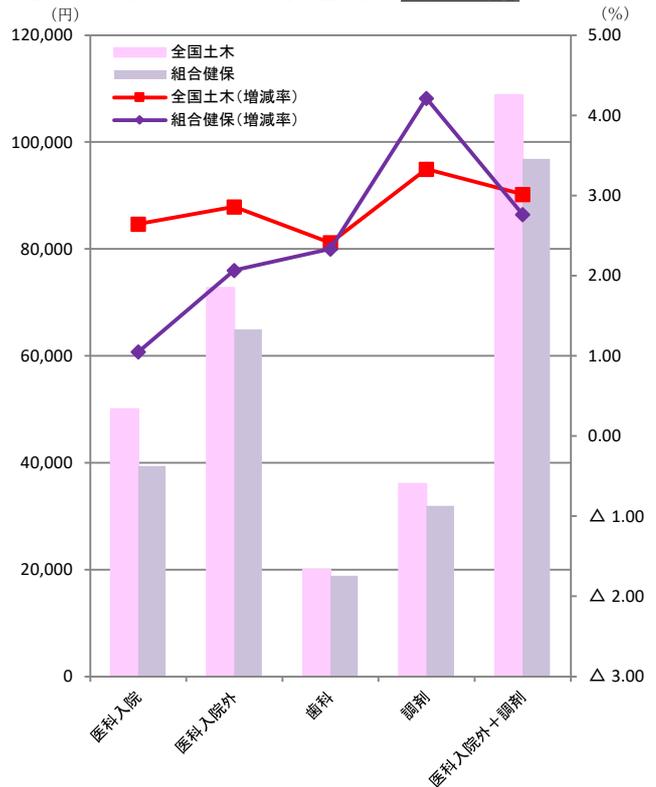
組合健保	医科入院	対前年度		医科入院外	対前年度		歯科	対前年度		調剤	対前年度		医科入院外+調剤		対前年度	
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
平成26年度	38,184	528	1.40	61,213	1,100	1.83	17,791	581	3.38	29,058	661	2.32	90,270	1,760	1.99	
平成27年度	38,956	772	2.02	63,321	2,108	3.44	18,107	316	1.78	31,454	2,396	8.25	94,775	4,505	4.99	
平成28年度	38,995	39	0.10	63,635	314	0.50	18,418	311	1.72	30,632	△822	△2.61	94,267	△508	△0.54	
平成29年度	39,404	409	1.05	64,952	1,317	2.07	18,848	430	2.33	31,923	1,291	4.22	96,875	2,608	2.77	
平成30年度	40,158	754	1.91	65,300	348	0.54	19,129	281	1.49	31,219	△704	△2.20	96,519	△356	△0.37	

組合健保との差(率)	医科入院	対前年度		医科入院外	対前年度		歯科	対前年度		調剤	対前年度		医科入院外+調剤		対前年度	
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
平成30年度	9,988 (24.87%)	△1.62 ^P		8,158 (12.49%)	0.44 ^P		1,231 (6.43%)	0.31 ^P		4,395 (14.08%)	0.96 ^P		12,553 (13.01%)	0.62 ^P		

(図-19) 診療区分別 1人当たり医療費 (平成30年度)



(図-20) 診療区分別 1人当たり医療費 (平成29年度)



(6) 医科入院

①入院1人当たり医療費

平成30年度における入院1人当たり医療費は50,146円であり、前年度と比較して0.29%増加している。このうち70歳未満の組合員は48,453円、家族は45,206円であり、前年度と比較して組合員は0.15%、家族は0.70%それぞれ減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員は平成27年度まで大幅な増加傾向にあり、平成28年度はほぼ横ばい、平成29年度は再び増加したが、平成30年度は微減した。家族は平成27年度までほぼ横ばいに推移し、平成28年度は大きく増加したが、平成29年度以降は再びほぼ横ばいとなっている。

また、入院1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている(組合員11,973円(32.82%)、家族3,675円(8.85%))。これは、後述のとおり組合員については100人当たり新規入院件数が多いこと、家族については推計平均在院日数が長いことからこの差が表れたものと推察される。さらに、全国土木では組合員の方が家族より高いが、組合健保では被保険者の方が被扶養者より低くなっており、傾向に違いが見られる。

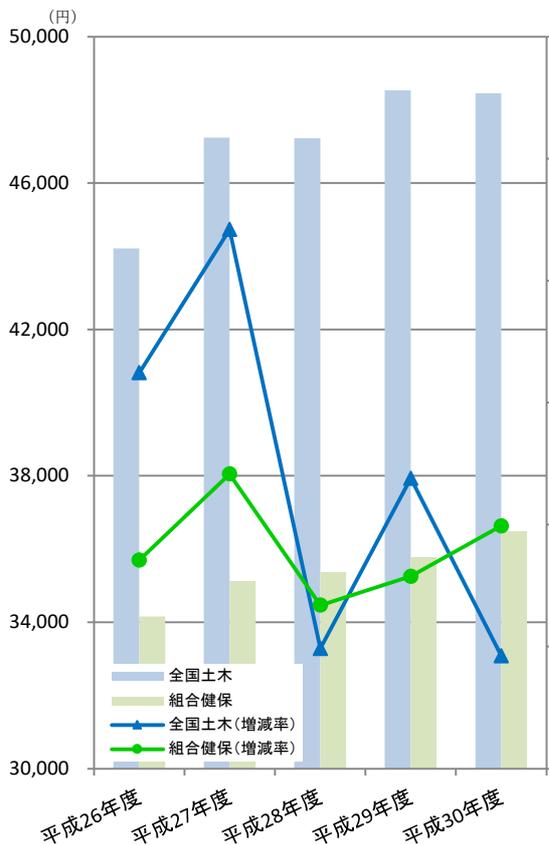
(表-16) 入院1人当たり医療費

(円、%)

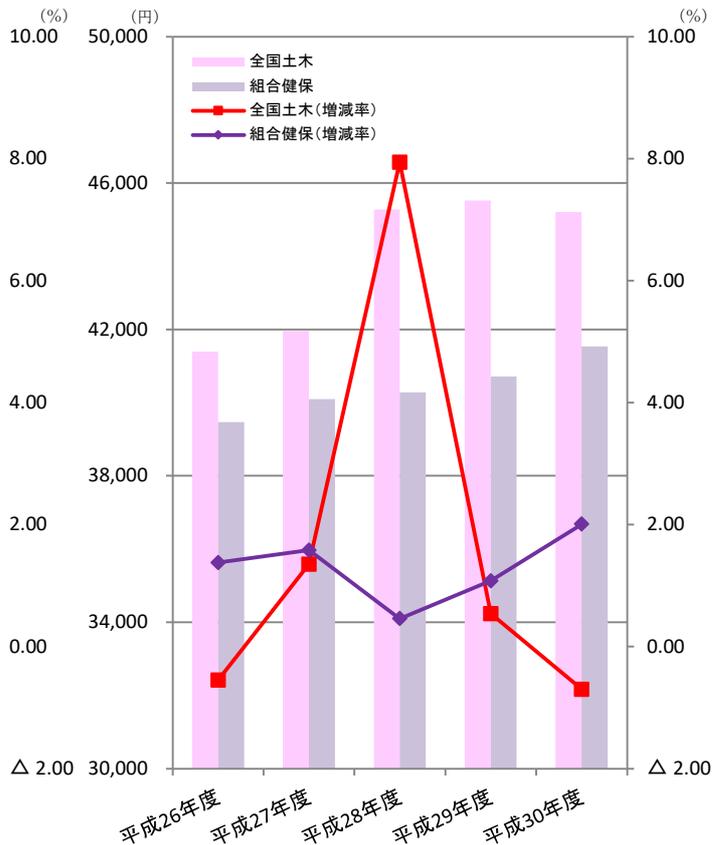
	全国土木						組合健保					
		組合員		家族			被保険者		被扶養者			
		対前年度増減率	対前年度増減率	対前年度増減率	対前年度増減率		対前年度増減率	対前年度増減率	対前年度増減率			
平成26年度	45,300	2.13	44,212	4.49	41,391	△ 0.55	38,184	1.40	34,158	1.42	39,471	1.38
平成27年度	47,336	4.50	47,238	6.84	41,949	1.35	38,956	2.02	35,126	2.83	40,094	1.58
平成28年度	48,711	2.91	47,225	△ 0.03	45,280	7.94	38,995	0.10	35,365	0.68	40,278	0.46
平成29年度	50,001	2.65	48,528	2.76	45,523	0.54	39,404	1.05	35,773	1.15	40,712	1.08
平成30年度	50,146	0.29	48,453	△ 0.15	45,206	△ 0.70	40,158	1.91	36,480	1.98	41,531	2.01
組合健保との差(率)	9,988 (24.87%)	△ 1.62 ^P	11,973 (32.82%)	△ 2.13 ^P	3,675 (8.85%)	△ 2.71 ^P						

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-21) 入院1人当たり医療費(組合員)



(図-22) 入院1人当たり医療費(家族)



②入院 1 人当たり日数

平成 30 年度における入院 1 人当たり日数は 0.88 日であり、前年度と比較して 4.08%減少している。このうち 70 歳未満の組合員は 0.72 日、家族は 0.91 日であり、前年度と比較して組合員は 4.43%、家族は 3.34%それぞれ減少している。

なお、平成 26 年度からの推移をみると、組合員は増加傾向であったが平成 28 年度は減少し、平成 29 年度は微増したが平成 30 年度は再び減少した。また、家族は平成 27 年度以降増加傾向にあったが、平成 30 年度は減少した。

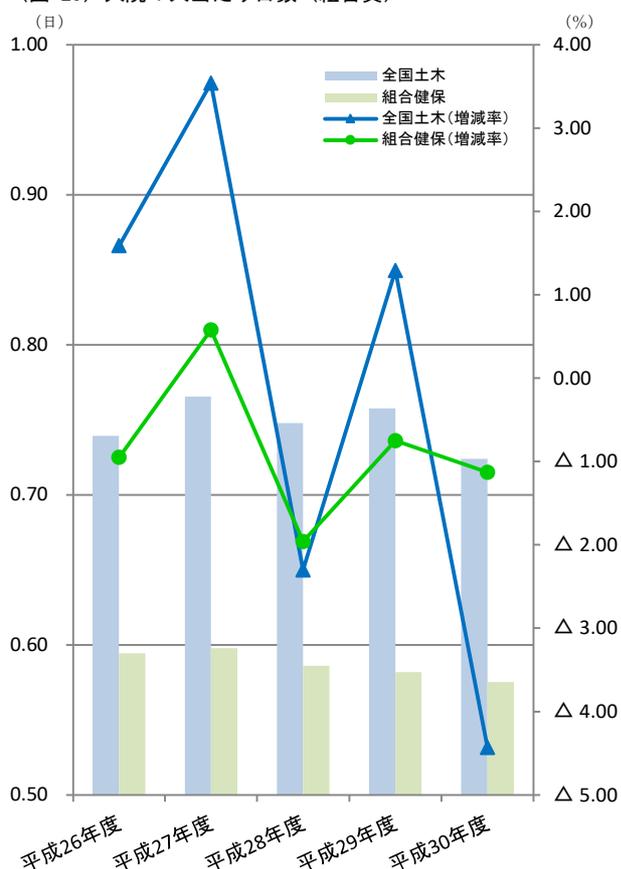
また、入院 1 人当たり日数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が長くなっている（組合員 0.14 日 (25.88%)、家族 0.14 日 (17.24%)）。これは、入院 1 人当たり日数は 1 人当たり新規入院件数と推計平均在院日数の積であり、後述のとおり組合員、家族ともに両者が組合健保より多いためであるが、組合員については 1 人当たり新規入院件数が多いこと、家族については推計平均在院日数が長いことが特に影響している。

(表-17) 入院 1 人当たり日数

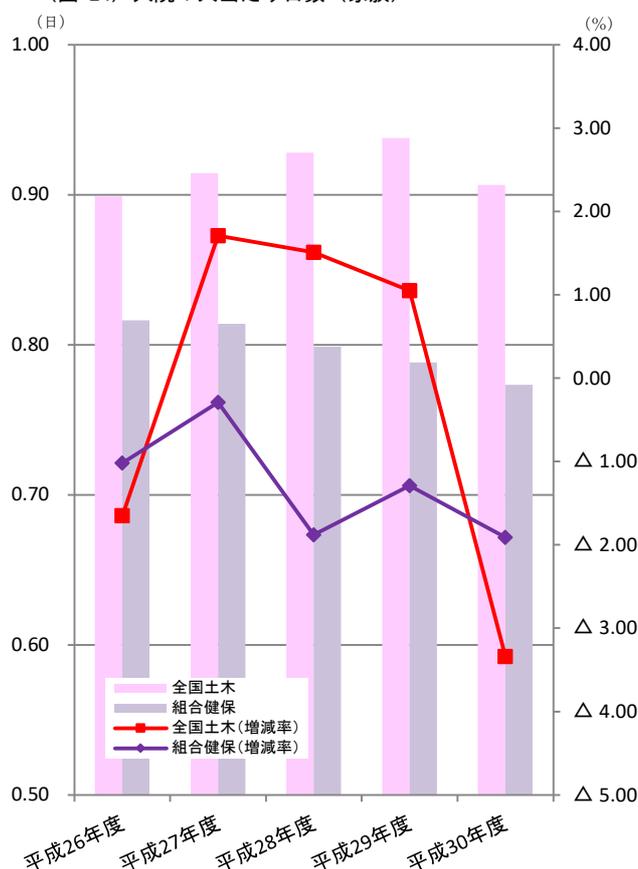
	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増減率	組 合 員		家 族		対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
平成26年度	0.88	△ 0.25	0.74	1.59	0.90	△ 1.65	0.73	△ 1.07	0.59	△ 0.95	0.82	△ 1.02
平成27年度	0.91	2.72	0.77	3.54	0.91	1.71	0.73	△ 0.26	0.60	0.58	0.81	△ 0.29
平成28年度	0.90	△ 0.61	0.75	△ 2.30	0.93	1.51	0.71	△ 2.50	0.59	△ 1.96	0.80	△ 1.88
平成29年度	0.92	1.76	0.76	1.29	0.94	1.05	0.70	△ 1.40	0.58	△ 0.75	0.79	△ 1.29
平成30年度	0.88	△ 4.08	0.72	△ 4.43	0.91	△ 3.34	0.69	△ 1.66	0.58	△ 1.13	0.77	△ 1.91
組合健保との 差(率)	0.19 (27.91%)	△ 2.42 ^P	0.14 (25.88%)	△ 3.30 ^P	0.14 (17.24%)	△ 1.43 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※入院 1 人当たり日数は、1 人当たり新規入院件数に推計平均在院日数を乗じて得た値である。

(図-23) 入院 1 人当たり日数 (組合員)



(図-24) 入院 1 人当たり日数 (家族)



③入院1日当たり医療費

平成30年度における入院1日当たり医療費は56,916円であり、前年度と比較して4.56%増加している。このうち70歳未満の組合員は66,924円、家族は49,868円であり、前年度と比較して組合員は4.47%、家族は2.74%それぞれ増加している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員は増加傾向にあり、家族は若干減少する年もあるものの全体では増加傾向にある。

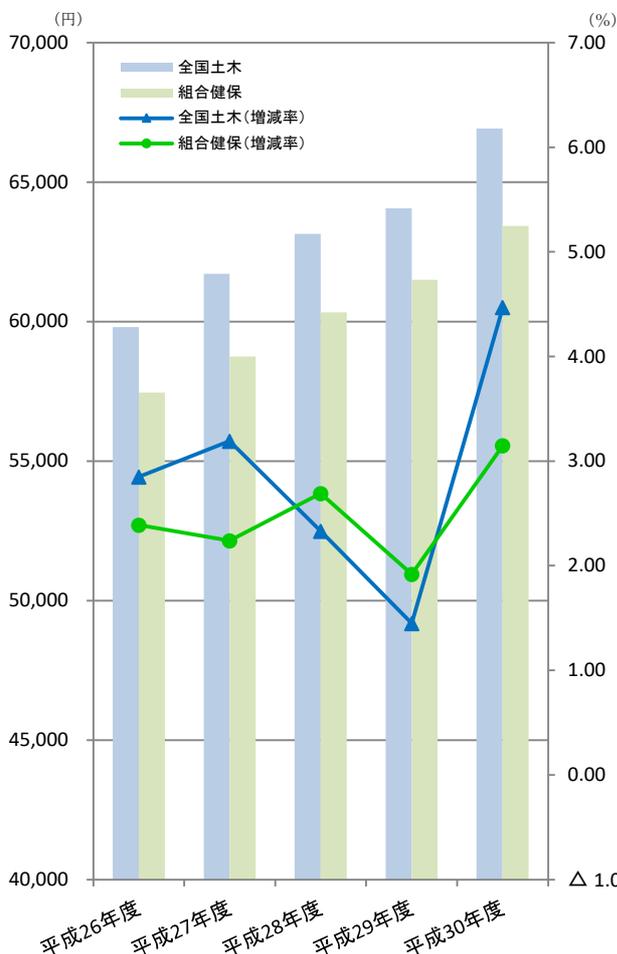
また、入院1日当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員は全国土木が高くなっており（3,497円（5.51%））、家族は全国土木が低くなっている（△3,843円（△7.16%））。

（表-18）入院1日当たり医療費

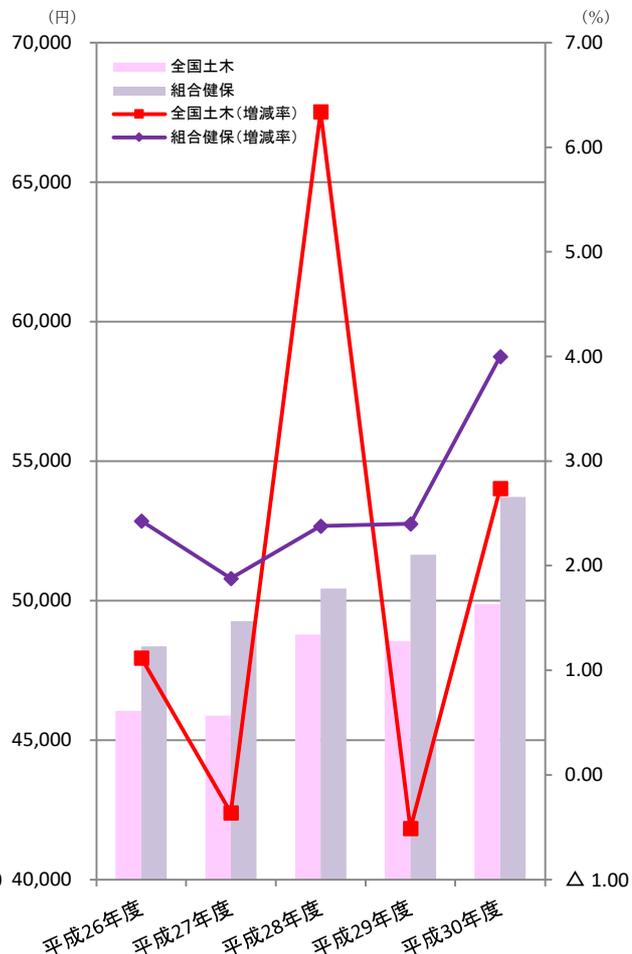
	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増減率	組 合 員		家 族		対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
平成26年度	51,236	2.39	59,801	2.85	46,046	1.12	52,274	2.50	57,463	2.39	48,356	2.43
平成27年度	52,122	1.73	61,710	3.19	45,881	△ 0.36	53,469	2.29	58,751	2.24	49,264	1.88
平成28年度	53,963	3.53	63,147	2.33	48,788	6.34	54,896	2.67	60,332	2.69	50,436	2.38
平成29年度	54,435	0.87	64,060	1.45	48,539	△ 0.51	56,258	2.48	61,493	1.92	51,648	2.40
平成30年度	56,916	4.56	66,924	4.47	49,868	2.74	58,301	3.63	63,427	3.15	53,711	4.00
組合健保との 差（率）	△ 1,385 (△2.38%)	0.93 ^P	3,497 (5.51%)	1.32 ^P	△ 3,843 (△7.16%)	△ 1.26 ^P						

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

（図-25）入院1日当たり医療費（組合員）



（図-26）入院1日当たり医療費（家族）



④推計新規入院件数

平成30年度における推計新規入院件数は27,964件であり、前年度と比較して1.68%減少している。このうち70歳未満の組合員は12,320件、家族は13,873件であり、前年度と比較して組合員は1.59%、家族は3.76%それぞれ減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員は増加傾向にあったが平成30年度は減少に転じた。家族は平成27年度にやや増加したものの全体として減少傾向にあるが、これは家族の加入者数が減少していることが反映されたものと推察される。

また、推計新規入院件数の動向を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに組合健保の被保険者、被扶養者とほぼ同様の傾向にある。

(表-19) 推計新規入院件数

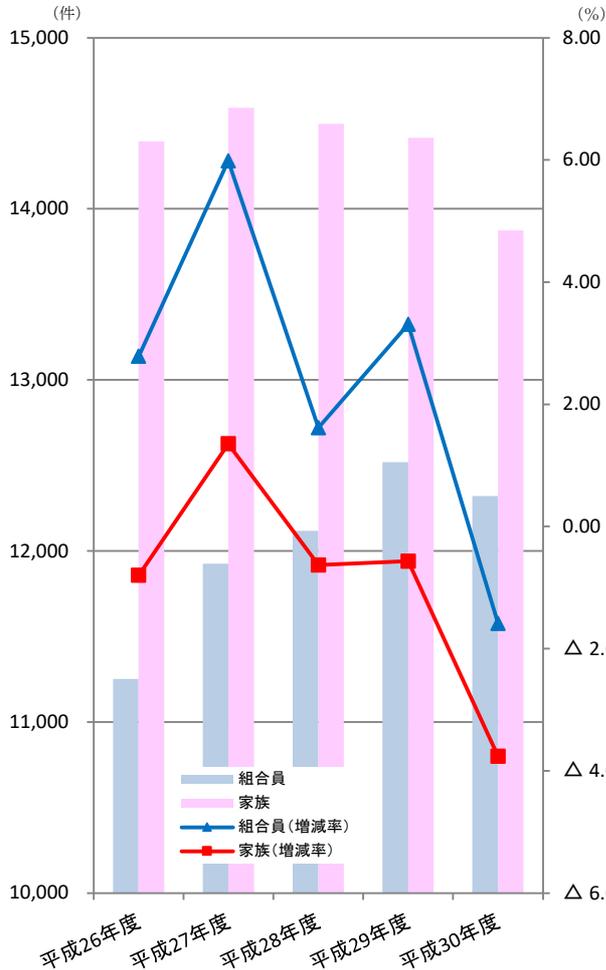
(件、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族			被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			
平成26年度	27,007	1.17	11,251	2.79	14,395	△ 0.80	1,724,079	0.62	802,703	1.62	863,969	△ 0.48
平成27年度	28,010	3.71	11,925	5.99	14,589	1.35	1,757,827	1.96	831,838	3.63	869,375	0.63
平成28年度	27,966	△ 0.16	12,117	1.62	14,498	△ 0.63	1,762,650	0.27	852,726	2.51	857,305	△ 1.39
平成29年度	28,441	1.70	12,519	3.31	14,415	△ 0.57	1,778,223	0.88	877,674	2.93	846,334	△ 1.28
平成30年度	27,964	△ 1.68	12,320	△ 1.59	13,873	△ 3.76	1,765,183	△ 0.73	884,719	0.80	824,166	△ 2.62

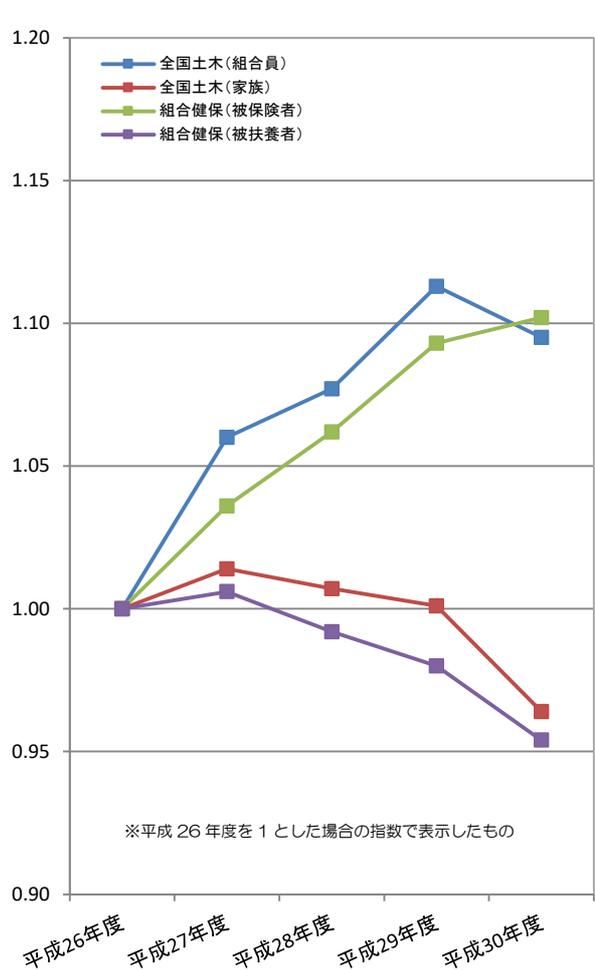
※推計新規入院件数は、医科入院受診延日数を推計平均在院日数で除して得た値である。

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-27) 推計新規入院件数 (全国土木)



(図-28) 推計新規入院件数の動向



⑤100人当たり新規入院件数

平成30年度における100人当たり新規入院件数は6.86件であり、前年度と比較して0.92%減少している。このうち70歳未満の組合員は6.52件、家族は6.59件であり、前年度と比較して組合員は2.37%、家族は1.20%それぞれ減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに平成29年度までは増加傾向にあったが、平成30年度は減少に転じた。

また、100人当たり新規入院件数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が多くなっている(組合員1.19件(22.31%)、家族0.08件(1.24%))。そのうち家族は、平成28年度までは全国土木の方が組合健保より少なかったが、平成29年度以降は全国土木の方が組合健保より僅かながら多くなっている。

(表-20) 100人当たり新規入院件数

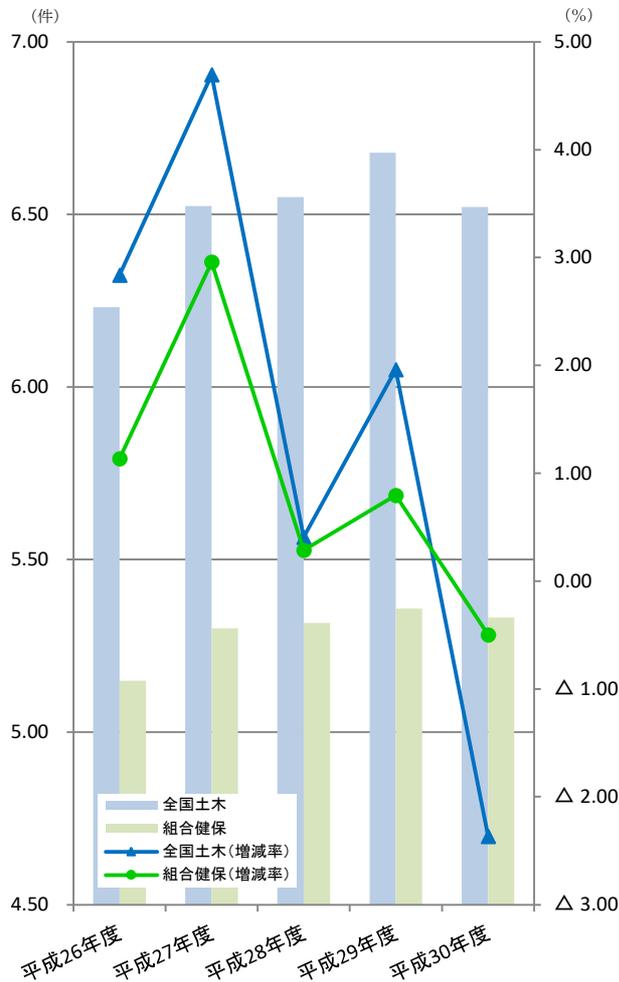
(件、%)

	全国土木						組合健保					
		対前年度 増減率	組合員		家族			対前年度 増減率	被保険者		被扶養者	
			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			対前年度 増減率	対前年度 増減率		
平成26年度	6.48	2.58	6.23	2.84	6.26	1.80	5.90	0.84	5.15	1.14	6.48	0.64
平成27年度	6.74	4.12	6.52	4.70	6.45	3.09	6.04	2.31	5.30	2.96	6.61	2.08
平成28年度	6.78	0.58	6.55	0.41	6.56	1.68	6.01	△ 0.36	5.32	0.29	6.59	△ 0.29
平成29年度	6.92	2.08	6.68	1.96	6.67	1.60	6.03	0.24	5.36	0.80	6.59	0.00
平成30年度	6.86	△ 0.92	6.52	△ 2.37	6.59	△ 1.20	5.97	△ 0.94	5.33	△ 0.50	6.51	△ 1.29
組合健保との 差(率)	0.89 (14.88%)	0.02 ^P	1.19 (22.31%)	△ 1.87 ^P	0.08 (1.24%)	0.09 ^P						

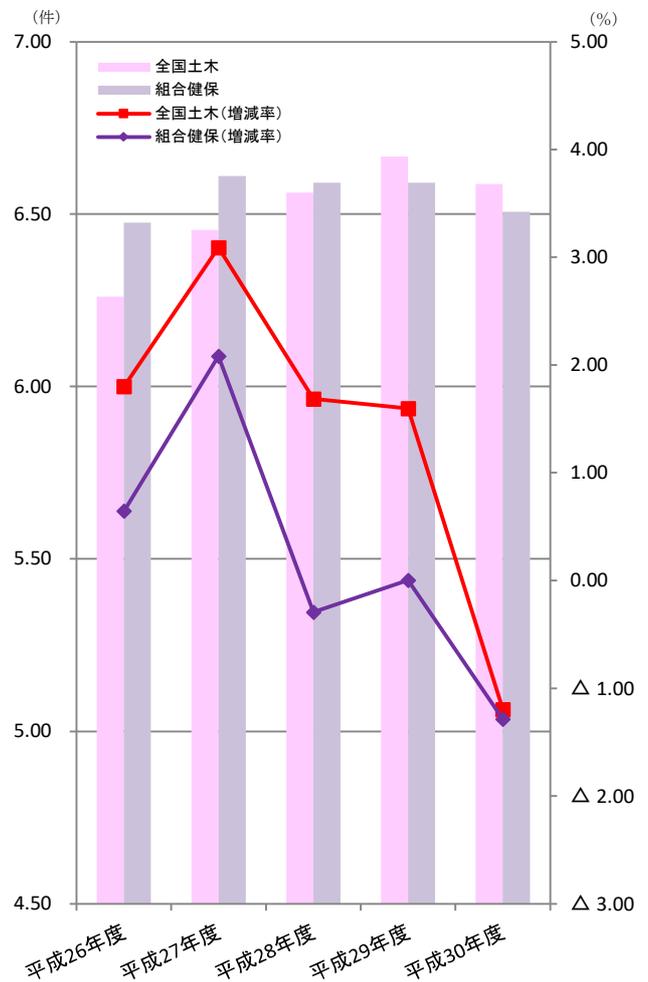
出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

※100人当たり新規入院件数は、推計新規入院件数を加入者100人当たりで除して得た値である。

(図-29) 100人当たり新規入院件数(組合員)



(図-30) 100人当たり新規入院件数(家族)



⑥推計平均在院日数

平成30年度における推計平均在院日数は12.8日であり、前年度から3.19%減少している。このうち70歳未満の組合員は11.1日、家族は13.8日であり、前年度と比較して組合員は2.11%、家族は2.17%それぞれ減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともにやや減少傾向となっているが、大きな変動はない。

また、推計平均在院日数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木の方が長くなっているが、組合員と被保険者の差は0.3日(2.92%)と僅かである一方、家族と被扶養者の差は1.9日(15.80%)とやや大きくなっている。

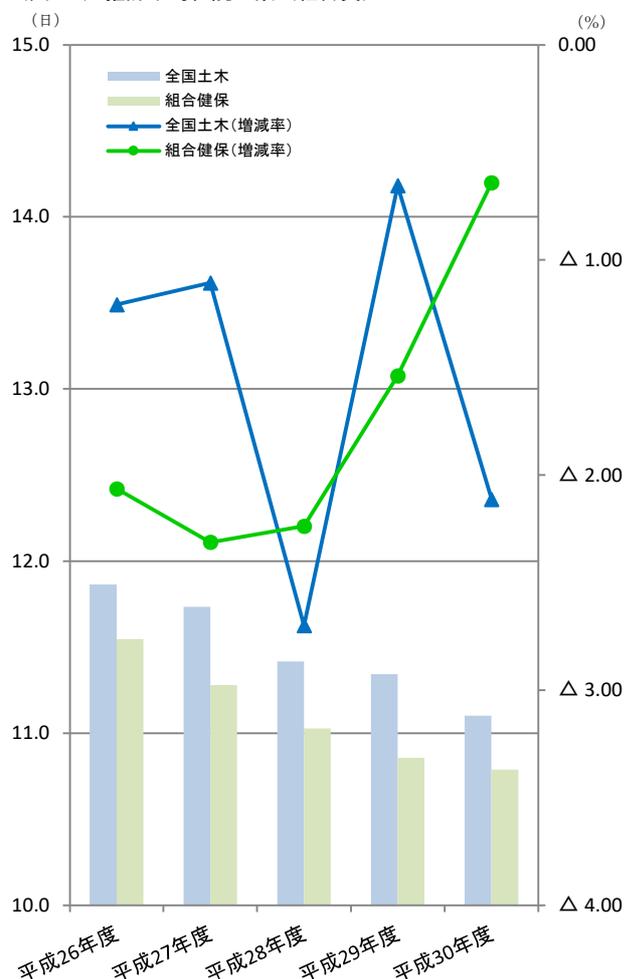
(表-21) 推計平均在院日数

	全国土木						組合健保					
			組合員		家族				被保険者		被扶養者	
	対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率	
平成26年度	13.7	△ 2.76	11.9	△ 1.21	14.4	△ 3.39	12.4	△ 1.90	11.5	△ 2.06	12.6	△ 1.66
平成27年度	13.5	△ 1.34	11.7	△ 1.11	14.2	△ 1.34	12.1	△ 2.51	11.3	△ 2.31	12.3	△ 2.33
平成28年度	13.3	△ 1.18	11.4	△ 2.70	14.1	△ 0.17	11.8	△ 2.15	11.0	△ 2.24	12.1	△ 1.59
平成29年度	13.3	△ 0.31	11.3	△ 0.65	14.1	△ 0.54	11.6	△ 1.64	10.9	△ 1.54	12.0	△ 1.30
平成30年度	12.8	△ 3.19	11.1	△ 2.11	13.8	△ 2.17	11.5	△ 0.72	10.8	△ 0.64	11.9	△ 0.63
組合健保との 差(率)	1.3 (11.35%)	△ 2.47 ^P	0.3 (2.92%)	△ 1.47 ^P	1.9 (15.80%)	△ 1.54 ^P						

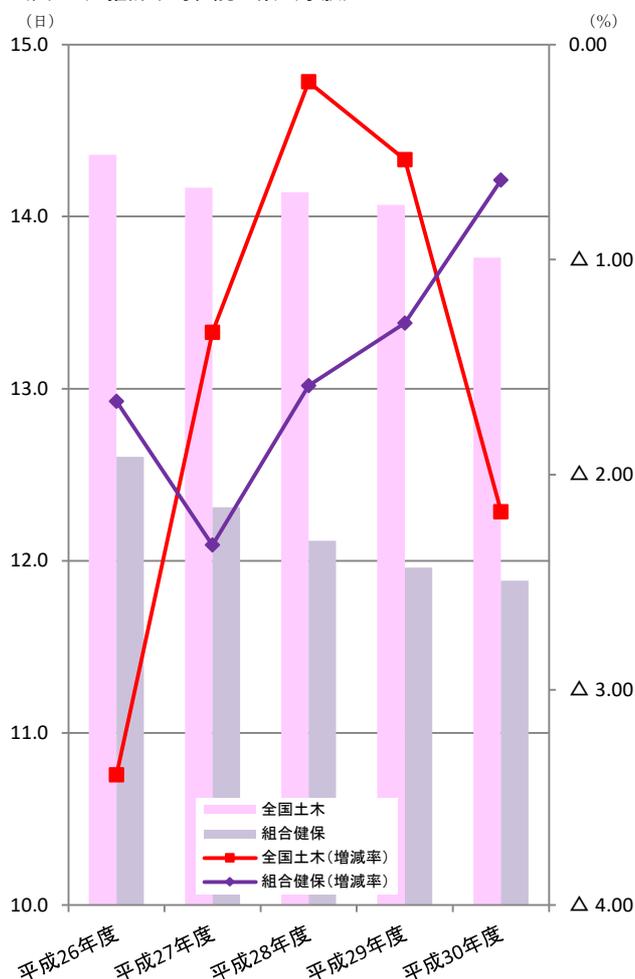
出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

※推計平均在院日数は医科入院1件当たり日数から次の式で推計した値である。推計平均在院日数=1件当たり日数×(365-12) / (365-1件当たり日数×12)
(平成27年度については、1件当たり日数×(366-12) / (366-1件当たり日数×12))

(図-31) 推計平均在院日数(組合員)



(図-32) 推計平均在院日数(家族)



⑦推計 1 入院当たり医療費

平成 30 年度における推計 1 入院当たり医療費は 730,998 円であり、前年度と比較して 1.22%増加している。このうち 70 歳未満の組合員は 743,001 円、家族は 686,255 円であり、前年度と比較して組合員は 2.26%、家族は 0.51%それぞれ増加している。

なお、平成 26 年度からの推移をみると、組合員は増加傾向にあり、平成 28 年度はやや減少したものの、平成 29 年度以降は再び増加している。家族は平成 27 年度まで減少していたが、平成 28 年度は大幅に増加し、平成 29 年度は再び減少したものの、平成 30 年度は微増している。

また、推計 1 入院当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員 58,783 円（8.59%）、家族 47,939 円（7.51%））。これは、推計 1 入院当たり医療費は推計平均在院日数と入院 1 日当たり医療費の積であり、前述のとおり組合員については両者が高いため、家族については推計平均在院日数が組合健保より長いためである。

（表-22）推計 1 入院当たり医療費

（円、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
	対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率	
平成26年度	699,394	△ 0.44	709,508	1.61	661,191	△ 2.31	647,226	0.55	663,462	0.28	609,527	0.73
平成27年度	701,948	0.37	724,052	2.05	650,015	△ 1.69	645,416	△ 0.28	662,653	△ 0.12	606,520	△ 0.49
平成28年度	718,172	2.31	720,911	△ 0.43	689,996	6.15	648,427	0.47	665,261	0.39	611,108	0.76
平成29年度	722,164	0.56	726,552	0.78	682,795	△ 1.04	653,643	0.80	667,631	0.36	617,683	1.08
平成30年度	730,998	1.22	743,001	2.26	686,255	0.51	672,491	2.88	684,218	2.48	638,316	3.34
組合健保との 差（率）	58,507 (8.70%)	△ 1.66 ^P	58,783 (8.59%)	△ 0.22 ^P	47,939 (7.51%)	△ 2.83 ^P						

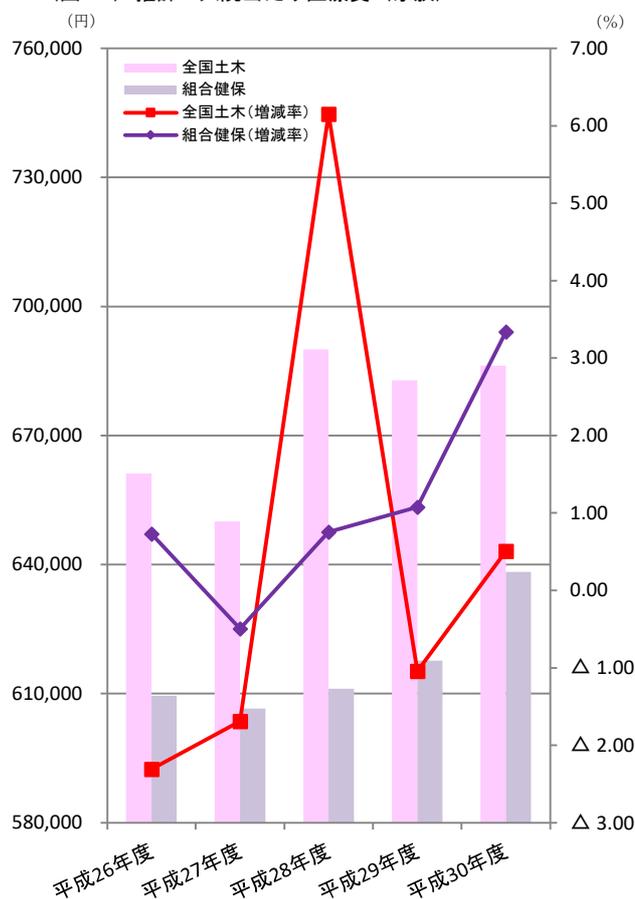
出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

※推計 1 入院当たり医療費は、推計平均在院日数に入院 1 日当たり医療費を乗じて得た値である。

（図-33）推計 1 入院当たり医療費（組合員）



（図-34）推計 1 入院当たり医療費（家族）



(参考) 入院医療費の3要素分析と新3要素分析

3要素分析は、診療報酬明細書（レセプト）を単位として医療費を分析する考え方を言う。

レセプトは、患者1人につき1つの医療機関で毎月1枚作成され、受診した回数や入院した日数、提供された医療の内容とその費用、1か月の合計医療費等の情報が掲載されている。

①レセプトの枚数（件数）、②診療実日数、③合計医療費の3情報をベースとし、医療保険者として最も基本的な情報である加入者情報を加えて分析すると、次のような指標が得られる。

- 1人当たり件数（受診率） = 件数 ÷ 加入者数
- 1件当たり医療費 = 医療費 ÷ 件数
- 1件当たり日数 = 日数 ÷ 件数
- 1人当たり日数 = 日数 ÷ 加入者数
- 1日当たり医療費 = 医療費 ÷ 日数

これらの指標を組み合わせると、入院1人当たり医療費を次のように分解できる。

$$\begin{aligned}\textcircled{\circ} \text{ 入院1人当たり医療費} &= \text{受診率} \times \text{入院1件当たり医療費} \\ &= \text{受診率} \times \text{入院1件当たり日数} \times \text{入院1日当たり医療費} \\ &= \text{入院1人当たり日数} \times \text{入院1日当たり医療費}\end{aligned}$$

しかしながら、レセプトは月が変わると新たに作られるため、3要素分析は発生件数のほか初診から治療終了までの日数や医療費を必ずしも正確に表すものではない。（そのため、本報告書では受診率、1件当たり医療費、1件当たり日数を掲載していない。）

新3要素分析は、入院から退院までの患者を単位として医療費を分析するもので、近年提唱された考え方である。

医療費とは「各患者の診療期間の医療費を合計したもの」と捉え、入院医療費を①新規入院件数（入院発生）、②推計平均在院日数（入院期間）、③入院1日当たり医療費（入院単価）の3要素の積に分解する。すなわち、一定期間内に疾病が新たにどれだけ発生し、治療にどのくらいの期間や費用がかかったかを観察するもの（エピソード統計）で、患者の平均的な受診状況をより正確に把握することができる。

これらの要素を組み合わせると、入院1人当たり医療費を次のように分解できる。

$$\begin{aligned}\textcircled{\circ} \text{ 推計1入院当たり医療費} &= \text{推計平均在院日数} \times \text{入院1日当たり医療費} \\ \textcircled{\circ} \text{ 入院1人当たり医療費} &= \text{1人当たり新規入院件数} \times \text{推計1入院当たり医療費} \\ &= \text{100人当たり新規入院件数} \div \text{100} \times \text{推計1入院当たり医療費} \\ &= \text{1人当たり新規入院件数} \times \text{推計平均在院日数} \times \text{入院1日当たり医療費}\end{aligned}$$

17ページから22ページでみたように、入院1人当たり医療費を構成する各要素は、組合員についてはすべての要素で、家族については入院1日当たり医療費を除いて、全国土木の方が組合健保より高くなっているが、医療費は年齢によって大きく影響される（9ページ参照）。そのため、これらの要素についても年齢構成の違いが影響している。

(7) 医科入院外

①入院外1人当たり医療費

平成30年度における入院外1人当たり医療費は73,458円であり、前年度と比較して0.98%増加している。このうち70歳未満の組合員は72,448円、家族は69,416円であり、前年度と比較して組合員は0.46%、家族は1.04%それぞれ増加している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にある。

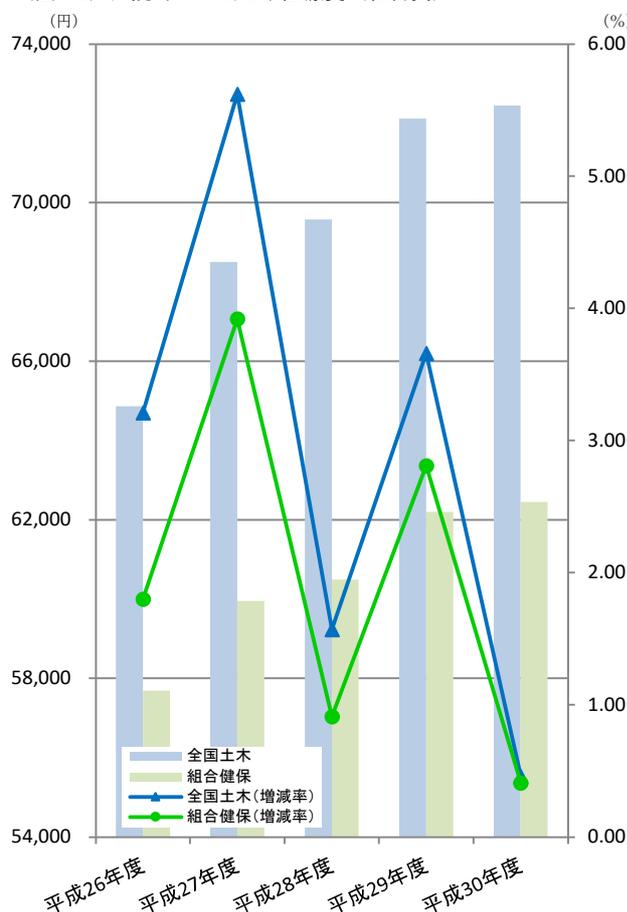
また、入院外1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高く(組合員10,001円(16.02%)、家族3,552円(5.39%))、特に組合員の差が大きくなっている。これは、後述のとおり入院外1日当たり医療費が組合健保より高いことによるが、特に組合員で顕著である。さらに、全国土木では組合員の方が家族より高いが、組合健保では被保険者の方が被扶養者より低くなっており、傾向に違いが見られる。

(表 23) 入院外1人当たり医療費

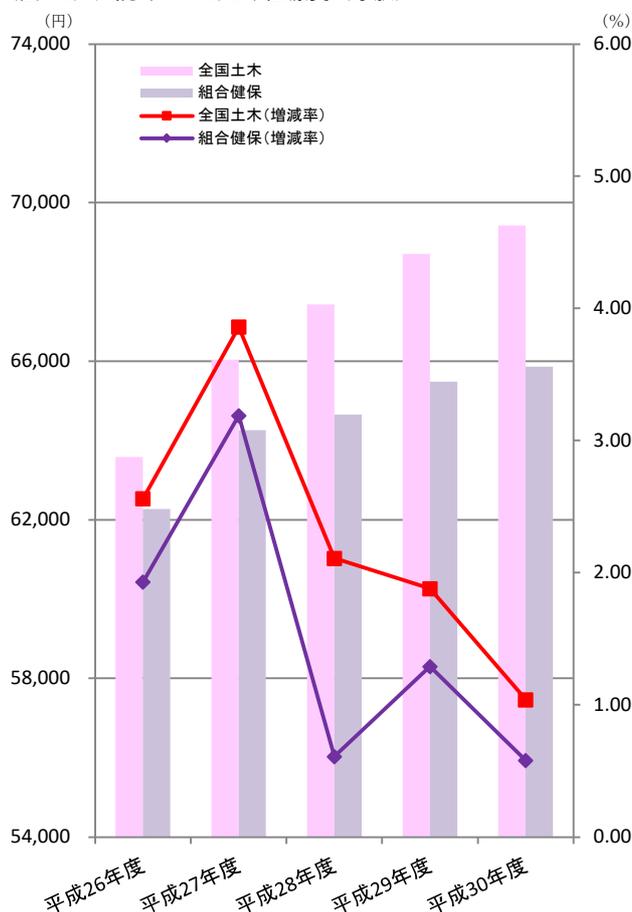
	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増減率	組 合 員		家 族		対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
									対前年度 増減率	対前年度 増減率		
平成26年度	66,472	2.97	64,859	3.21	63,581	2.56	61,213	1.83	57,689	1.80	62,273	1.93
平成27年度	69,566	4.65	68,502	5.62	66,038	3.86	63,321	3.44	59,949	3.92	64,260	3.19
平成28年度	70,720	1.66	69,575	1.57	67,434	2.11	63,635	0.50	60,493	0.91	64,650	0.61
平成29年度	72,744	2.86	72,119	3.66	68,702	1.88	64,952	2.07	62,195	2.81	65,484	1.29
平成30年度	73,458	0.98	72,448	0.46	69,416	1.04	65,300	0.54	62,447	0.41	65,864	0.58
組合健保との 差(率)	8,158 (12.49%)	0.44 ^P	10,001 (16.02%)	0.05 ^P	3,552 (5.39%)	0.46 ^P						

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-35) 入院外1人当たり医療費(組合員)



(図-36) 入院外1人当たり医療費(家族)



②入院外1人当たり日数

平成30年度における入院外1人当たり日数は9.04日であり、前年度と比較して0.18%増加している。このうち70歳未満の組合員は7.68日、家族は9.81日であり、前年度と比較して組合員は0.49%増加し、家族は変動がない。

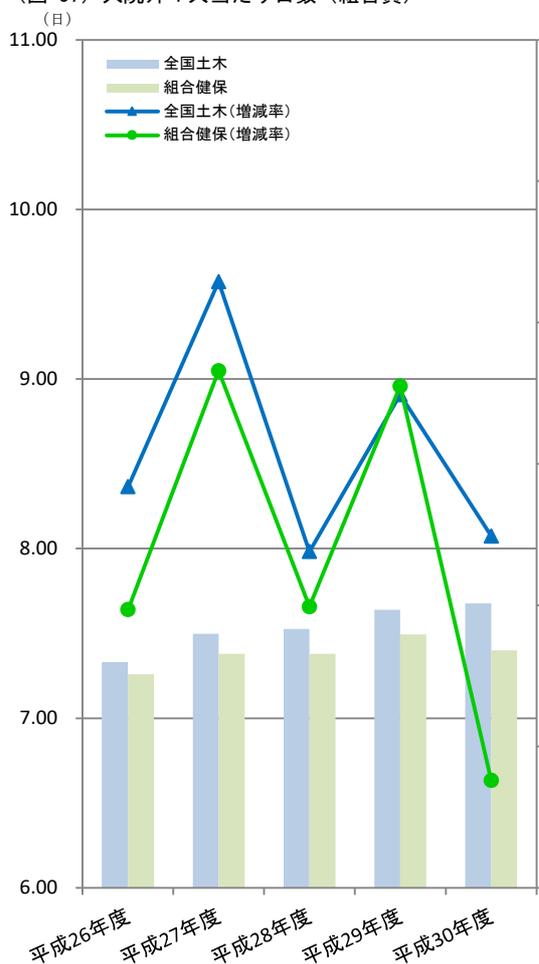
なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともにやや増加傾向にあるが、大きな変動はない。

また、入院外1人当たり日数を組合健保と比較すると、組合員は全国土木がやや長くなっており（0.28日（3.72%））、家族は全国土木が僅かに短くなっている（△0.07日（△0.65%））が、いずれも組合健保と大きな差はない。

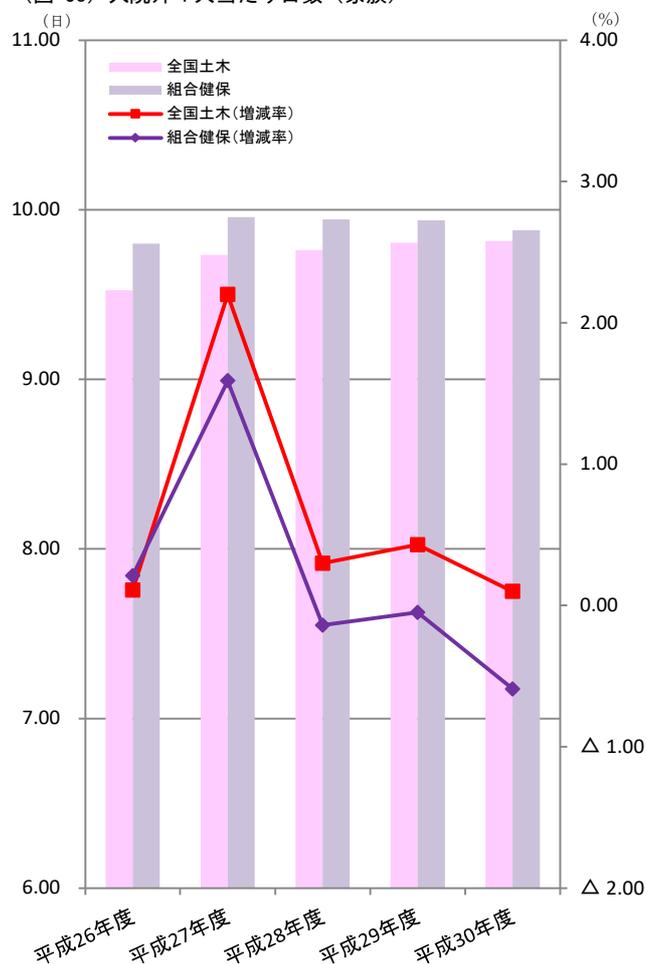
（表-24）入院外1人当たり日数

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族			被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			
平成26年度	8.80	0.26	7.33	0.84	9.52	0.11	8.58	△ 0.04	7.26	△ 0.03	9.80	0.21
平成27年度	8.97	1.87	7.50	2.29	9.73	2.20	8.69	1.32	7.38	1.66	9.96	1.59
平成28年度	8.96	△ 0.08	7.53	0.38	9.76	0.30	8.65	△ 0.50	7.38	△ 0.01	9.94	△ 0.14
平成29年度	9.02	0.69	7.64	1.49	9.81	0.43	8.69	0.43	7.49	1.55	9.94	△ 0.05
平成30年度	9.04	0.18	7.68	0.49	9.81	0.10	8.59	△ 1.07	7.40	△ 1.24	9.88	△ 0.59
組合健保との 差（率）	0.45 (5.19%)	1.25 ^P	0.28 (3.72%)	1.73 ^P	△ 0.07 (△0.65%)	0.69 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

（図-37）入院外1人当たり日数（組合員）



（図-38）入院外1人当たり日数（家族）



③入院外1日当たり医療費

平成30年度における入院外1日当たり医療費は8,127円であり、前年度と比較して0.80%増加している。このうち70歳未満の組合員は9,438円、家族は7,073円であり、前年度と比較して組合員は0.03%減少し、家族は0.94%増加している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員は増加傾向にあったが、平成30年度はほぼ横ばいとなった。家族も増加傾向となっているが、増加率の伸びは鈍化している。

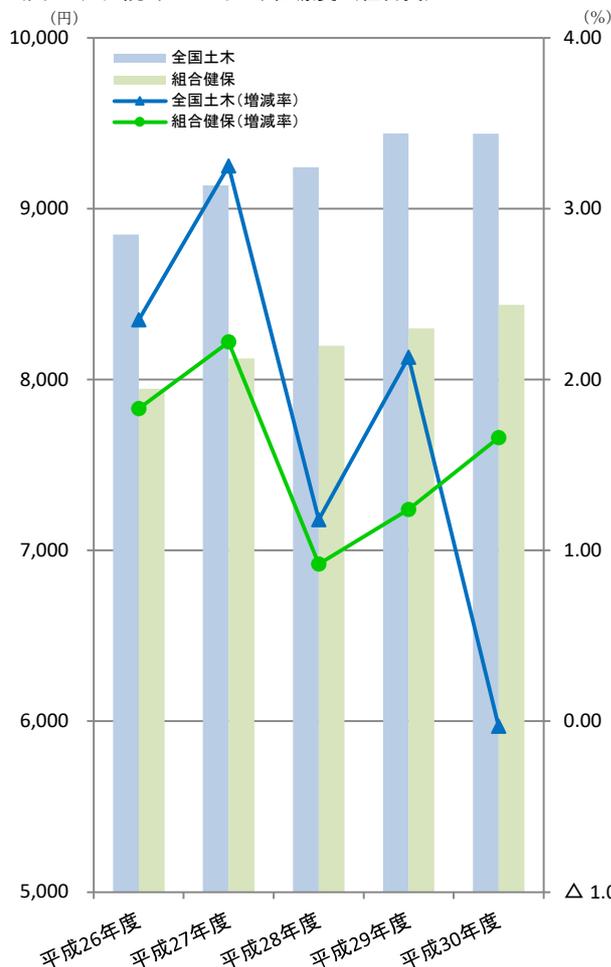
また、入院外1日当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高く（組合員1,001円（11.85%）、家族406円（6.08%）、特に組合員の差が大きくなっている。

(表-25) 入院外1日当たり医療費

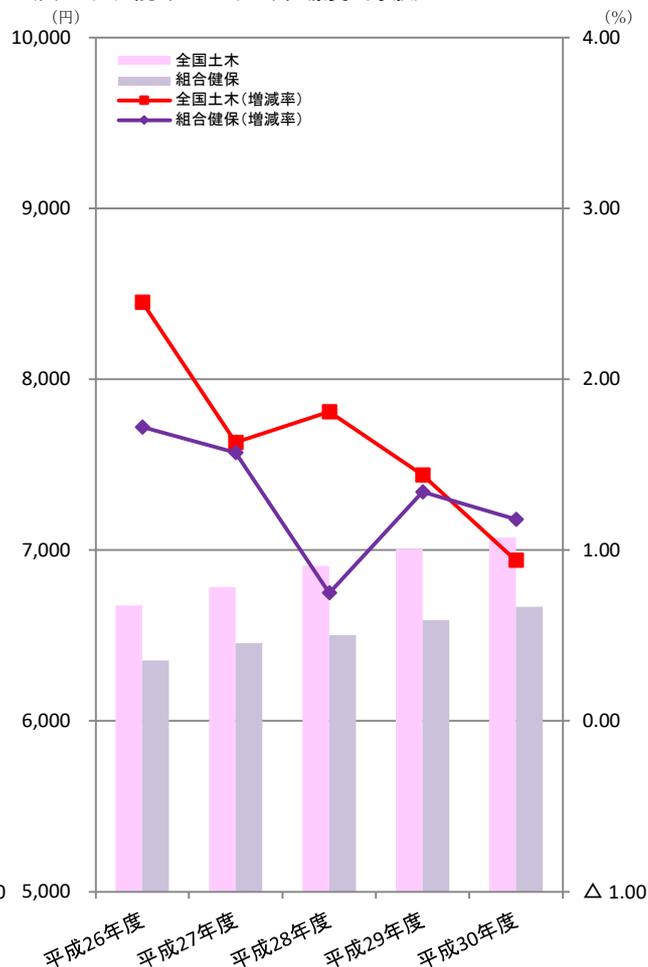
	全国土木						組合健保					
	対前年度 増減率	組合員		家族		対前年度 増減率	被保険者		被扶養者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
平成26年度	7,551	2.71	8,847	2.35	6,676	2.45	7,136	1.87	7,946	1.83	6,354	1.72
平成27年度	7,757	2.73	9,135	3.25	6,785	1.63	7,285	2.09	8,123	2.22	6,454	1.57
平成28年度	7,892	1.74	9,243	1.18	6,907	1.81	7,359	1.01	8,198	0.92	6,502	0.75
平成29年度	8,062	2.16	9,440	2.13	7,007	1.44	7,478	1.63	8,299	1.24	6,590	1.34
平成30年度	8,127	0.80	9,438	△ 0.03	7,073	0.94	7,600	1.63	8,437	1.66	6,667	1.18
組合健保との 差(率)	527 (6.94%)	△ 0.83 ^P	1,001 (11.85%)	△ 1.69 ^P	406 (6.08%)	△ 0.24 ^P						

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-39) 入院外1日当たり医療費（組合員）



(図-40) 入院外1日当たり医療費（家族）



(8) 歯科

① 歯科 1 人当たり医療費

平成30年度における歯科 1 人当たり医療費は20,360円であり、前年度と比較して1.80%増加している。このうち70歳未満の組合員は20,639円、家族は19,520円であり、前年度と比較して組合員は0.37%、家族は2.92%それぞれ増加している。

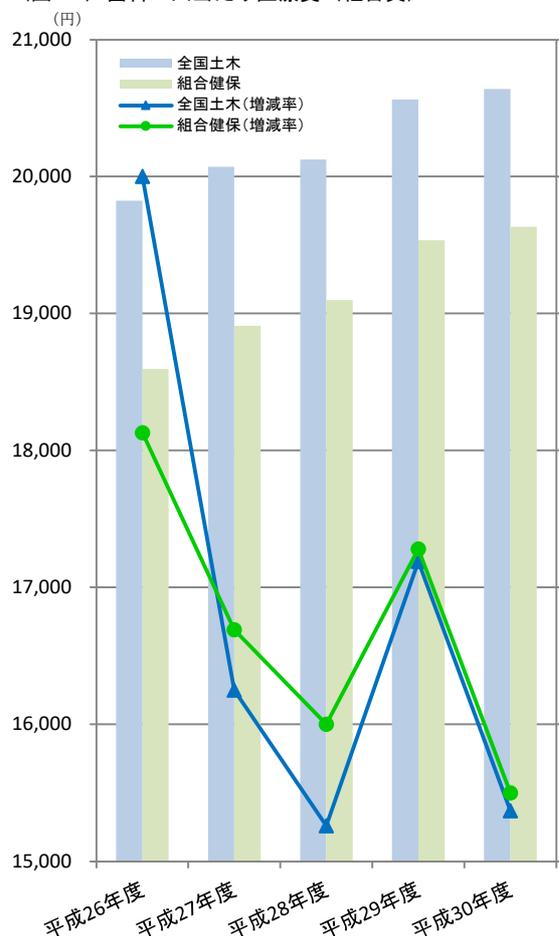
なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にある。

また、歯科 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員1,006円（5.13%）、家族1,446円（8.00%））。これは、後述のとおり 1 人当たり日数及び 1 日当たり医療費が組合健保より高いことによる。

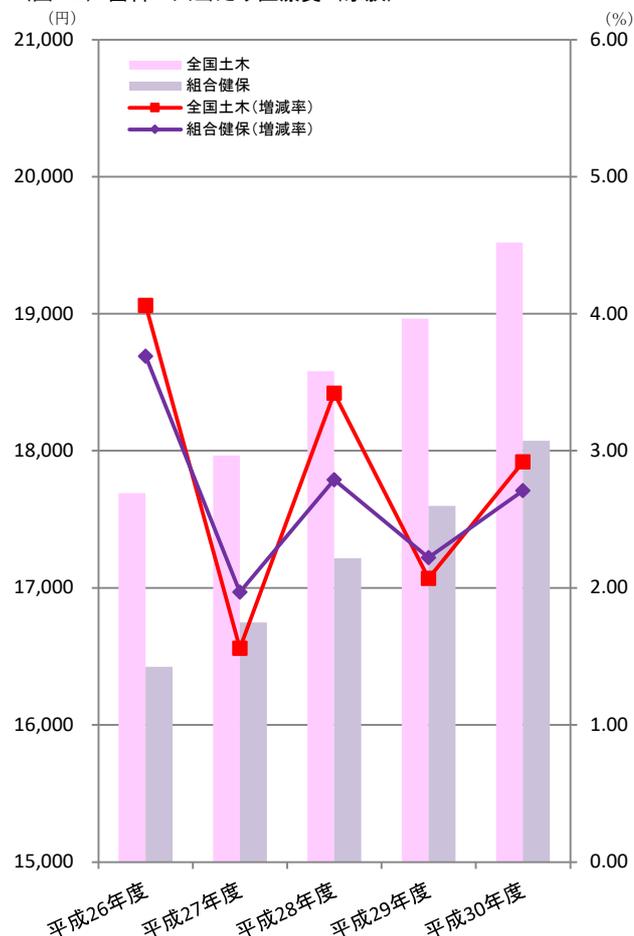
(表-26) 歯科 1 人当たり医療費

	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
	対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率	
平成26年度	18,887	4.44	19,824	5.00	17,691	4.06	17,791	3.38	18,596	3.13	16,424	3.69
平成27年度	19,170	1.50	20,071	1.25	17,966	1.56	18,107	1.78	18,910	1.69	16,748	1.97
平成28年度	19,529	1.87	20,124	0.26	18,581	3.42	18,418	1.72	19,100	1.00	17,215	2.79
平成29年度	20,000	2.41	20,564	2.19	18,965	2.07	18,848	2.33	19,534	2.28	17,598	2.22
平成30年度	20,360	1.80	20,639	0.37	19,520	2.92	19,129	1.49	19,633	0.50	18,074	2.71
組合健保との 差(率)	1,231 (6.43%)	0.31 ^P	1,006 (5.13%)	△ 0.13 ^P	1,446 (8.00%)	0.21 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

(図-41) 歯科 1 人当たり医療費（組合員）



(図-42) 歯科 1 人当たり医療費（家族）



② 歯科 1 人当たり日数

平成30年度における歯科 1 人当たり日数は2.86日であり、前年度からやや減少（△0.30%）したものの大きな変化はない。このうち70歳未満の組合員は2.84日、家族は2.80日であり、こちらも前年度からの変化はほとんど見られない状況である。

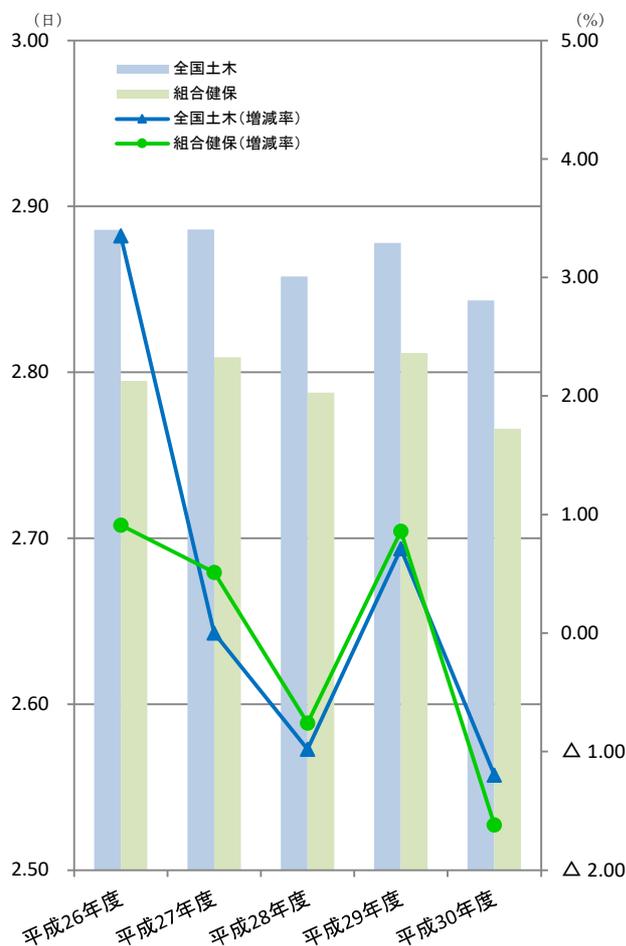
なお、平成26年度からの推移をみると、組合員は平成26年度に増加したが、以降はほぼ横ばいか、僅かではあるが減少している。家族は僅かではあるが増加傾向にある。

また、歯科 1 人当たり日数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木がやや長くなっている（組合員0.07日（2.79%）、家族0.19日（7.38%））。

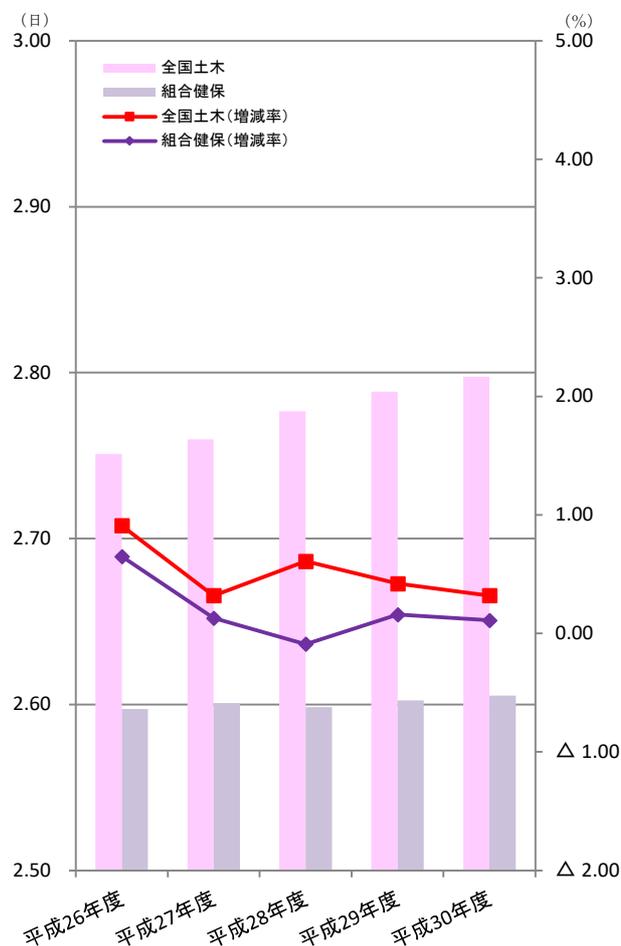
（表-27） 歯科 1 人当たり日数

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族			被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			
平成26年度	2.85	1.96	2.89	3.35	2.75	0.91	2.73	0.79	2.79	0.91	2.60	0.65
平成27年度	2.85	0.18	2.89	0.00	2.76	0.32	2.74	0.31	2.81	0.51	2.60	0.13
平成28年度	2.85	△ 0.22	2.86	△ 0.98	2.78	0.61	2.73	△ 0.54	2.79	△ 0.76	2.60	△ 0.09
平成29年度	2.87	0.80	2.88	0.71	2.79	0.42	2.74	0.63	2.81	0.86	2.60	0.16
平成30年度	2.86	△ 0.30	2.84	△ 1.20	2.80	0.32	2.72	△ 0.82	2.77	△ 1.62	2.61	0.11
組合健保との 差（率）	0.14 (5.15%)	0.52 ^P	0.07 (2.79%)	0.42 ^P	0.19 (7.38%)	0.21 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

（図-43） 歯科 1 人当たり日数（組合員）



（図-44） 歯科 1 人当たり日数（家族）



③ 歯科 1 日あたり医療費

平成30年度における歯科 1 日あたり医療費は7,114円であり、前年度と比較して2.10%増加している。このうち70歳未満の組合員は7,259円、家族は6,977円であり、前年度と比較して組合員は1.59%、家族は2.59%それぞれ増加している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にある。

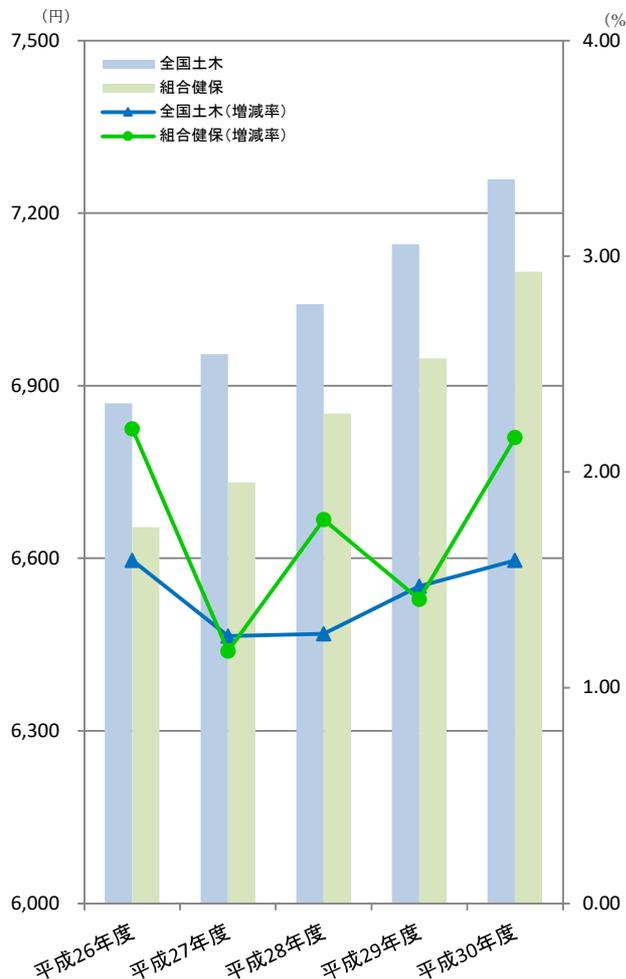
また、歯科 1 日あたり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木がやや高くなっている（組合員161円（2.27%）、家族40円（0.58%））。

（表-28） 歯科 1 日あたり医療費

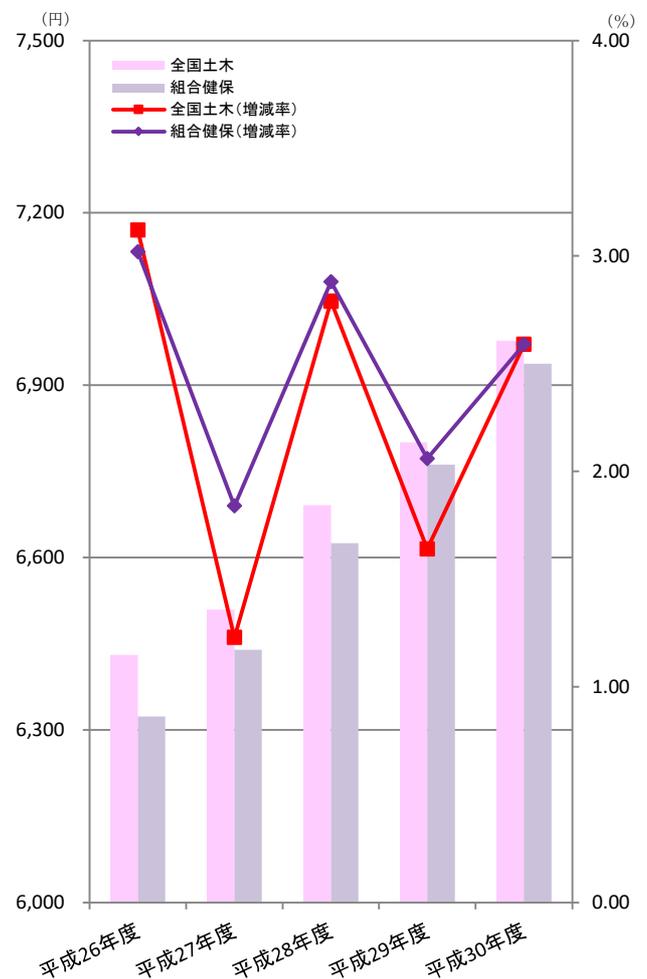
	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増減率	組 合 員		家 族		対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率				
平成26年度	6,630	2.44	6,869	1.59	6,431	3.12	6,509	2.56	6,654	2.20	6,324	3.02
平成27年度	6,717	1.32	6,955	1.24	6,510	1.23	6,604	1.46	6,732	1.17	6,440	1.84
平成28年度	6,858	2.09	7,042	1.25	6,691	2.79	6,754	2.27	6,851	1.78	6,625	2.88
平成29年度	6,968	1.60	7,145	1.47	6,801	1.64	6,868	1.70	6,948	1.41	6,762	2.06
平成30年度	7,114	2.10	7,259	1.59	6,977	2.59	7,028	2.33	7,098	2.16	6,937	2.59
組合健保との 差（率）	86 (1.22%)	△ 0.23 ^P	161 (2.27%)	△ 0.57 ^P	40 (0.58%)	0.00 ^P						

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

（図-45） 歯科 1 日あたり医療費（組合員）



（図-46） 歯科 1 日あたり医療費（家族）



(9) 調剤

①調剤 1人当たり医療費

平成30年度における調剤1人当たり医療費は35,614円であり、前年度と比較して1.24%減少している。このうち70歳未満の組合員は35,681円、家族は32,839円であり、前年度と比較して組合員は2.82%、家族は0.55%それぞれ減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに平成27年度まで増加傾向にあり、平成27年度の増加率は特に高い。平成28年度は薬価のマイナス改定及び前年度の大幅増の反動のため減少し、平成29年度は増加に転じたが、平成30年度は薬価のマイナス改定のため再び減少した。

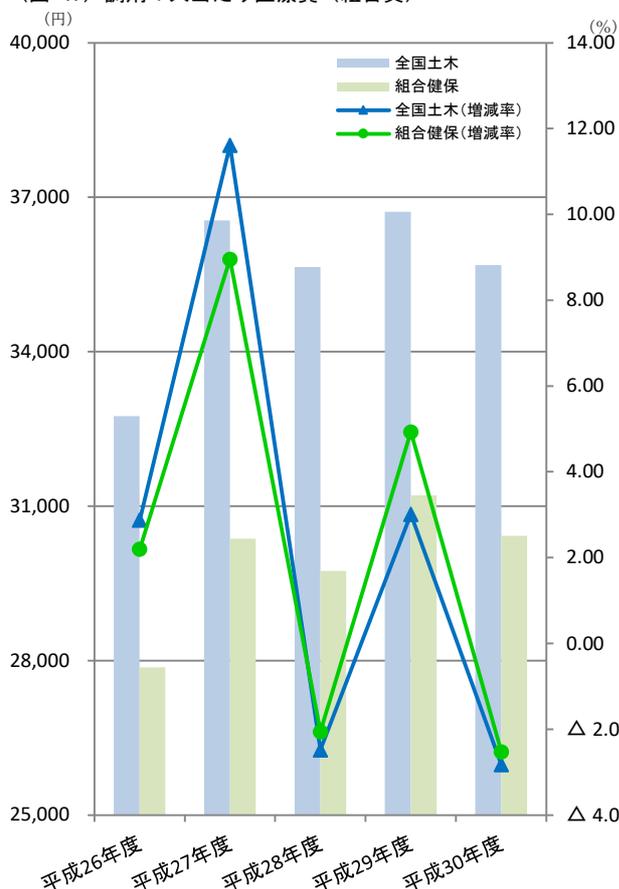
また、調剤1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっており（組合員5,257円（17.28%）、家族2,183円（7.12%））、特に組合員の差が大きくなっている。これは、後述のとおり組合員、家族ともに1回当たり医療費が組合健保より高いことによるが、特に組合員で顕著である。

(表-29) 調剤 1人当たり医療費

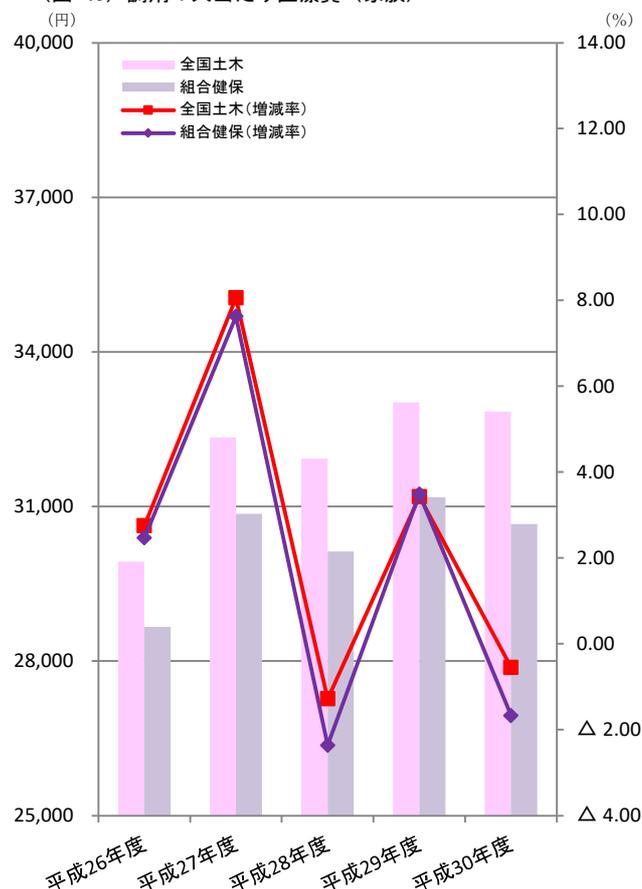
(円、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族			被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			
平成26年度	32,500	2.85	32,749	2.88	29,928	2.75	29,058	2.32	27,868	2.20	28,666	2.47
平成27年度	35,659	9.72	36,550	11.61	32,339	8.06	31,454	8.25	30,366	8.96	30,853	7.63
平成28年度	34,899	△ 2.13	35,645	△ 2.48	31,926	△ 1.28	30,632	△ 2.61	29,743	△ 2.05	30,125	△ 2.36
平成29年度	36,061	3.33	36,716	3.01	33,021	3.43	31,923	4.22	31,210	4.93	31,176	3.49
平成30年度	35,614	△ 1.24	35,681	△ 2.82	32,839	△ 0.55	31,219	△ 2.20	30,424	△ 2.52	30,656	△ 1.67
組合健保との 差(率)	4,395 (14.08%)	0.96 ^P	5,257 (17.28%)	△ 0.30 ^P	2,183 (7.12%)	1.12 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

(図-47) 調剤 1人当たり医療費（組合員）



(図-48) 調剤 1人当たり医療費（家族）



②調剤1人当たり回数

平成30年度における調剤1人当たり回数は4.86回であり、前年度と比較して1.39%増加している。このうち70歳未満の組合員は4.09回、家族は5.34回であり、前年度と比較して組合員は1.31%、家族は1.54%それぞれ増加している。

なお、平成26年度からの推移をみると、組合員、家族ともに少しずつではあるが増加傾向にある。

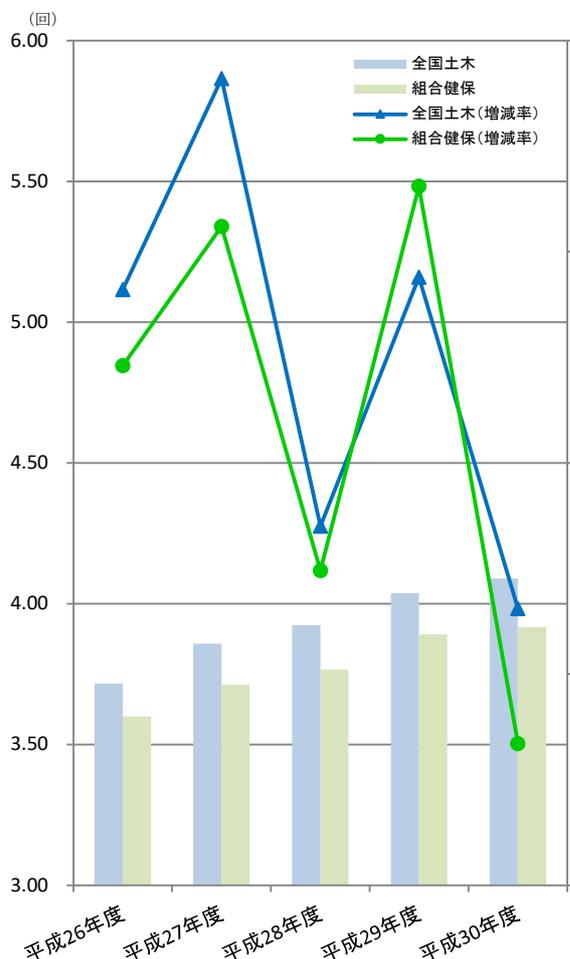
また、調剤1人当たり回数を組合健保と比較すると、組合員は全国土木が多くなっており(0.17回(4.41%))、家族は全国土木が少なくなっている(△0.13回(△2.51%))。

(表-30) 調剤1人当たり回数

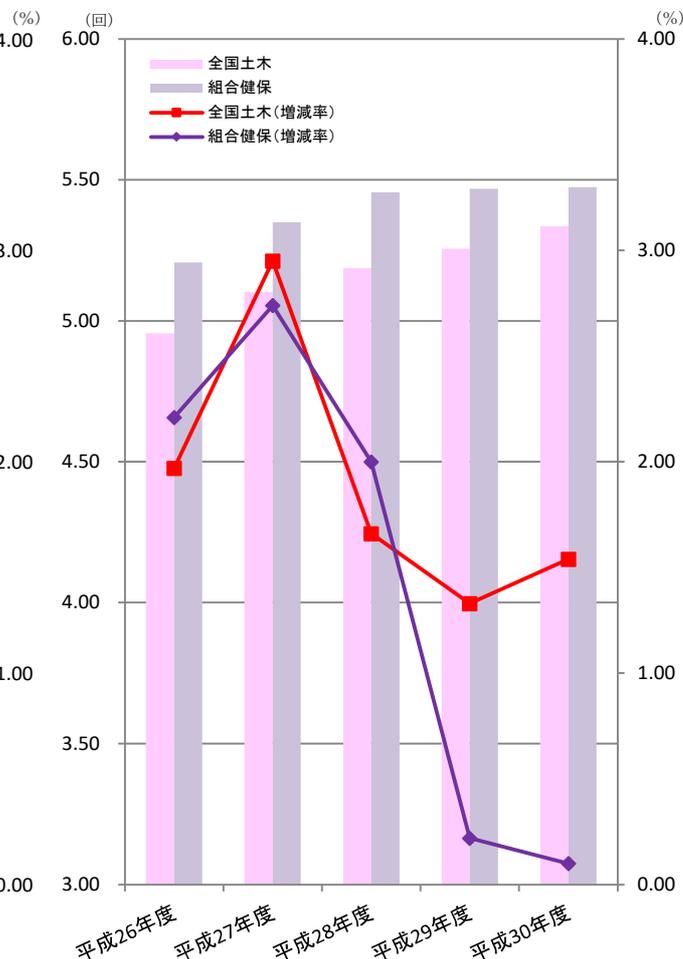
	全 国 土 木						組 合 健 保							
		対前年度 増減率		組 合 員		家 族			対前年度 増減率		被 保 険 者		被 扶 養 者	
平成26年度	4.52	2.13	3.72	2.82	4.96	1.97	4.40	2.15	3.60	2.46	5.21	2.21		
平成27年度	4.65	2.94	3.86	3.82	5.10	2.95	4.52	2.60	3.71	3.12	5.35	2.74		
平成28年度	4.71	1.27	3.92	1.70	5.19	1.66	4.58	1.30	3.77	1.49	5.46	2.00		
平成29年度	4.79	1.75	4.04	2.88	5.26	1.33	4.64	1.33	3.89	3.31	5.47	0.22		
平成30年度	4.86	1.39	4.09	1.31	5.34	1.54	4.65	0.15	3.92	0.67	5.47	0.10		
組合健保との 差(率)	0.21 (4.58%)	1.24 ^P	0.17 (4.41%)	0.64 ^P	△0.13 (△2.51%)	1.44 ^P	出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」							

※回数は調剤報酬明細書に記載される調剤受付回数である。

(図-49) 調剤1人当たり回数(組合員)



(図-50) 調剤1人当たり回数(家族)



③調剤1回当たり医療費

平成30年度における調剤1回当たり医療費は7,331円であり、前年度と比較して2.59%減少している。このうち70歳未満の組合員は8,725円、家族は6,154円であり、前年度と比較して組合員は4.08%、家族は2.06%それぞれ減少している。

なお、平成26年度からの推移をみると、高額薬剤の影響もあり組合員、家族ともに平成27年度までは増加、平成28年度は薬価のマイナス改定の影響を受けて減少し、平成29年度はやや増加したが、平成30年度は薬価のマイナス改定のため再び減少した。

また、調剤1回当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員958円（12.33%）、家族554円（9.88%））。

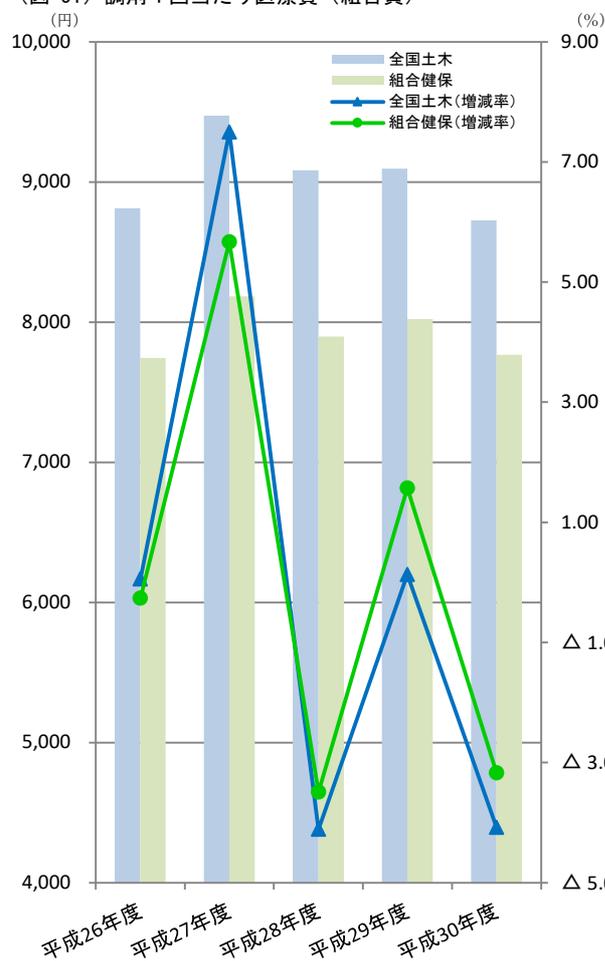
(表-31) 調剤1回当たり医療費

(円、%)

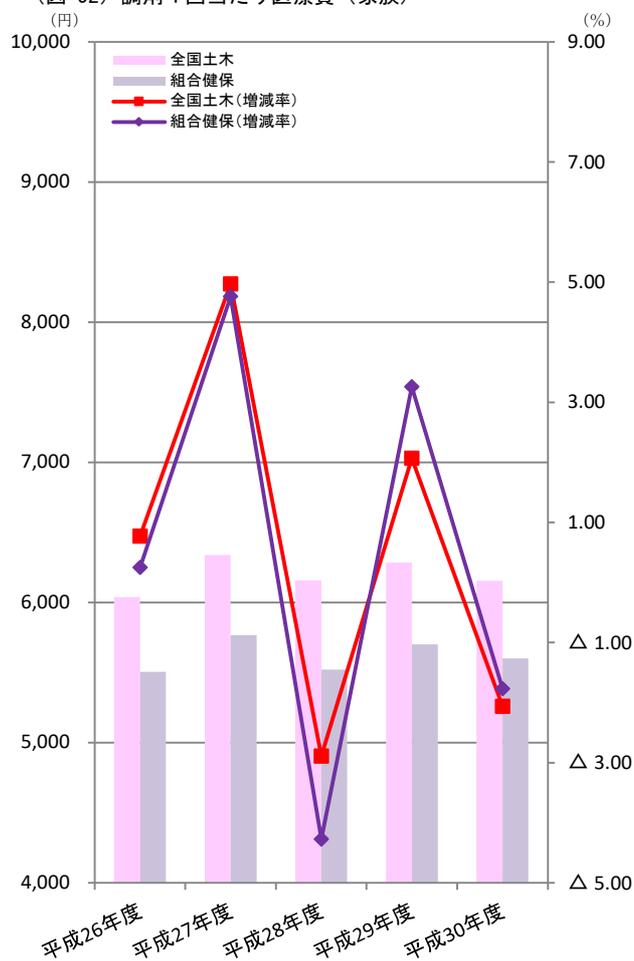
	全国土木						組合健保					
		組合員		家族			被保険者		被扶養者			
		対前年度増減率	対前年度増減率	対前年度増減率	対前年度増減率		対前年度増減率	対前年度増減率				
平成26年度	7,194	0.70	8,813	0.06	6,039	0.77	6,597	0.17	7,744	△ 0.26	5,506	0.25
平成27年度	7,668	6.58	9,473	7.50	6,339	4.97	6,960	5.50	8,182	5.67	5,768	4.76
平成28年度	7,410	△ 3.36	9,084	△ 4.11	6,156	△ 2.89	6,692	△ 3.86	7,897	△ 3.49	5,521	△ 4.27
平成29年度	7,526	1.56	9,095	0.13	6,283	2.07	6,882	2.85	8,021	1.57	5,701	3.26
平成30年度	7,331	△ 2.59	8,725	△ 4.08	6,154	△ 2.06	6,720	△ 2.35	7,767	△ 3.17	5,600	△ 1.77
組合健保との差(率)	611 (9.08%)	△ 0.24 ^P	958 (12.33%)	△ 0.91 ^P	554 (9.88%)	△ 0.29 ^P						

出典：平成29年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
平成30年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-51) 調剤1回当たり医療費（組合員）



(図-52) 調剤1回当たり医療費（家族）



(10) ジェネリック医薬品の使用状況（数量ベース）

調剤レセプトから平成30年度のジェネリック医薬品の使用状況を月ごとにみると、若干の増減を繰り返しながら増加傾向となっている。平成31年3月では78.6%であり、平成30年3月（73.8%）から4.8ポイント増加した。

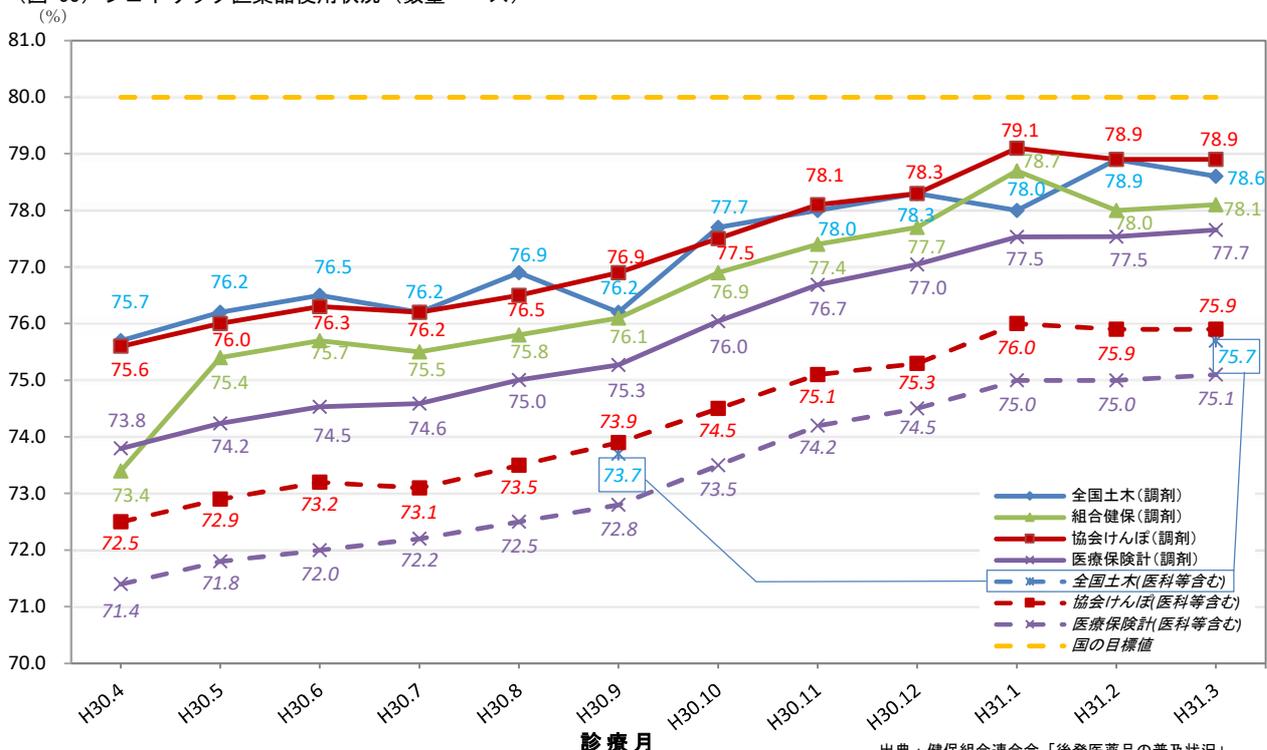
また、平成31年3月の使用状況を組合健保（78.1%）と比較すると、全国土木が0.5ポイント上回り、協会けんぽ（78.9%）と比較すると、全国土木が0.3ポイント下回っている。

なお、仮に平成30年4月から平成31年3月までの間のジェネリック医薬品の使用割合が100%であった場合、約10.4億円の組合負担額の削減が見込めると試算される。

院内処方分を含めたジェネリック医薬品の使用状況をみると、同様に増加傾向にあり平成31年3月では75.7%と平成30年9月（73.7%）から2.0ポイント増加した。

また、平成31年3月の使用状況を協会けんぽ（75.9%）と比較すると、全国土木が0.2ポイント下回っている。

（図-53）ジェネリック医薬品使用状況（数量ベース）



※1 各保険者の調剤の数値は、電算処理分の調剤レセプト（院外処方により保険薬局が作成する調剤報酬明細書）を集計したものであり、院内処方を含まない。

※2 全国土木及び協会けんぽの医科等を含めた数値は、電算処理分の医科、歯科及び調剤レセプトを集計したものである。

※3 医療保険計の医科等を含めた数値は、電算処理分の医科及び調剤レセプトを集計したものである。

出典：健保組合連合会「後発医薬品の普及状況」
協会けんぽ「医薬品使用状況」
厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向」
「医科・調剤分の後発医薬品割合（数量ベース）について」
「保険者別の後発医薬品の使用割合」

平成25年4月に策定された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」に基づき、数量シェアを次のとおり算出している。（「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。）

$$\text{後発医薬品の数量シェア} = \frac{\text{後発医薬品の数量}}{\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量} + \text{後発医薬品の数量}}$$

国では「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）2017」において、数量シェアの目標値を次のとおり示している。なお、国の目標値は院内処方を含めた数値である。院内処方を含めて集計した場合、一般的に各保険者の数値は院内処方を含まない数値よりも2~3ポイント低くなる。

- ・ 2020年（平成32年）9月までに、後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早期に達成できるよう、更なる使用促進策を検討する。

3 疾病の状況

(1) 疾病分類別・年齢階級別医療費

①全体（医科+歯科）

平成 30 年度診療分医療費における疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、新生物（84.4 億円）が最も高く、次いで循環器系の疾患（71.7 億円）、呼吸器系の疾患（51.1 億円）となっている。

また、上記 3 疾病で最も高い年齢階級をみると、新生物及び循環器系の疾患では 60 歳から 64 歳（新生物 16.9 億円、循環器系の疾患 16.5 億円）であるが、呼吸器系の疾患では 0 歳から 4 歳（11.2 億円）となっている。

なお、年齢階級別医療費をみると 60 歳から 64 歳（83.5 億円）が最も高く、次いで 55 歳から 59 歳（68.4 億円）、50 歳から 54 歳（64.1 億円）となっており、この 50 歳から 64 歳までの年齢階層が全体の約 37%を占めている。

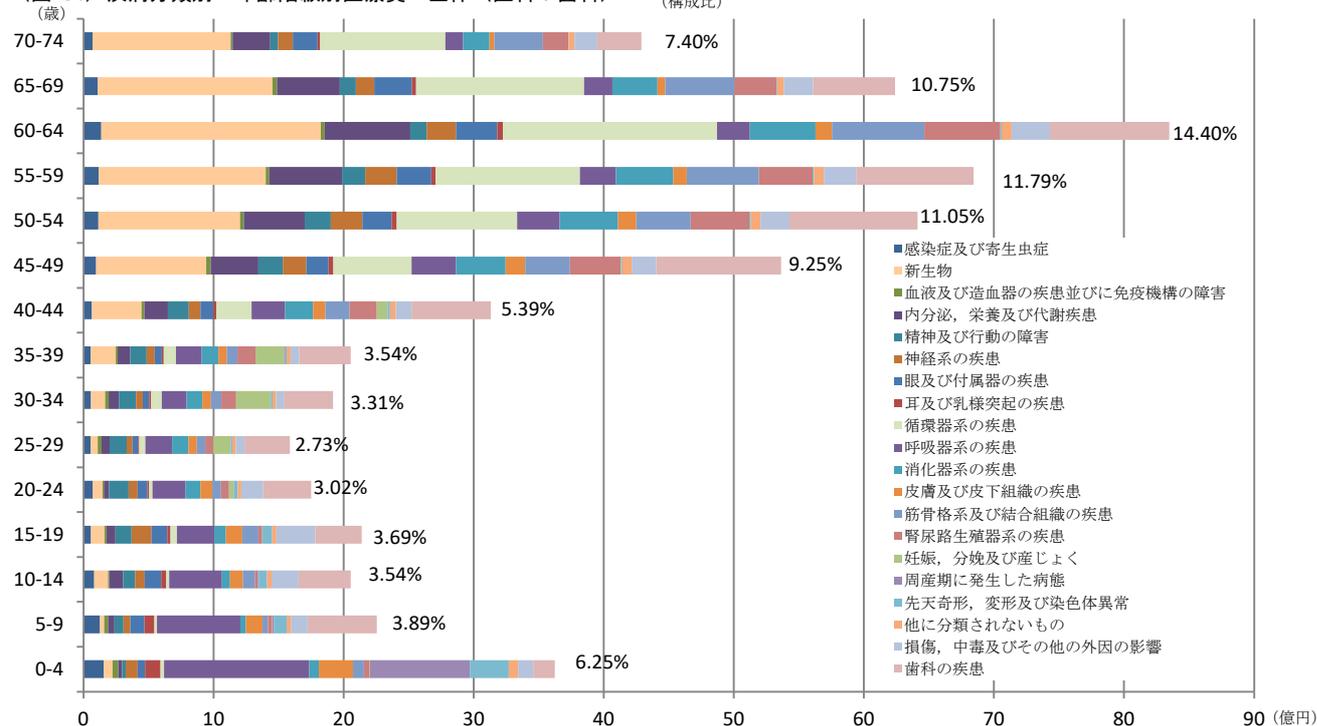
(表-32) 疾病分類別・年齢階級別医療費 全体（医科+歯科）

疾病分類	構成比	年齢階級 (億円)																	計
		0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74			
1 感染症及び寄生虫症	2.35%	1.56	1.25	0.81	0.57	0.72	0.54	0.57	0.54	0.64	0.96	1.13	1.17	1.37	1.08	0.70	13.61		
2 新生物	14.54%	0.67	0.33	1.06	1.05	0.73	0.55	1.09	1.94	3.82	8.48	10.89	12.85	16.88	13.44	10.60	84.37		
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.64%	0.45	0.30	0.10	0.14	0.10	0.29	0.27	0.15	0.23	0.33	0.30	0.26	0.30	0.35	0.15	3.73		
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	6.11%	0.28	0.50	1.08	0.70	0.40	0.63	0.80	0.96	1.80	3.66	4.68	5.60	6.57	4.84	2.91	35.42		
5 精神及び行動の障害	3.26%	0.29	0.70	0.92	1.24	1.52	1.30	1.30	1.26	1.61	1.89	2.00	1.77	1.26	1.24	0.59	18.89		
6 神経系の疾患	3.16%	0.92	0.52	0.74	1.53	0.69	0.44	0.53	0.61	0.89	1.80	2.44	2.43	2.26	1.40	1.13	18.34		
7 眼及び付属器の疾患	3.77%	0.55	1.07	1.25	1.21	0.75	0.43	0.50	0.55	0.98	1.72	2.24	2.64	3.17	2.89	1.92	21.88		
8 耳及び乳様突起の疾患	0.94%	1.20	0.78	0.39	0.24	0.14	0.11	0.13	0.15	0.26	0.37	0.39	0.35	0.45	0.32	0.20	5.48		
9 循環器系の疾患	12.36%	0.26	0.19	0.24	0.50	0.24	0.45	0.82	0.94	2.70	6.00	9.27	11.10	16.46	12.93	9.63	71.73		
10 呼吸器系の疾患	8.80%	11.16	6.41	4.05	2.87	2.56	2.07	1.92	1.98	2.56	3.43	3.27	2.77	2.51	2.18	1.35	51.08		
11 消化器系の疾患	5.69%	0.76	0.42	0.62	0.89	1.13	1.26	1.21	1.30	2.15	3.81	4.48	4.41	5.06	3.46	2.04	32.99		
12 皮膚及び皮下組織の疾患	2.76%	2.61	1.29	0.98	1.25	0.92	0.63	0.65	0.63	0.95	1.50	1.40	1.02	1.25	0.59	0.37	16.04		
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	6.49%	0.84	0.42	0.92	1.26	0.68	0.65	0.80	0.82	1.86	3.45	4.19	5.55	7.12	5.32	3.73	37.62		
14 腎尿路生殖器系の疾患	5.31%	0.46	0.33	0.24	0.29	0.61	0.62	1.15	1.38	2.10	3.92	4.50	4.15	5.82	3.26	1.95	30.80		
15 妊娠、分娩及び産じょく	1.28%	0.02	0.01	0.00	0.01	0.35	1.34	2.63	2.20	0.82	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	-	7.42		
16 産産期に発生した病態	1.39%	7.67	0.13	0.06	0.00	0.01	0.03	0.03	0.11	0.01	-	-	-	-	-	-	8.07		
17 先天奇形、変形及び染色体異常	1.15%	2.99	0.97	0.64	0.76	0.31	0.09	0.14	0.09	0.17	0.09	0.12	0.08	0.12	0.04	0.03	6.65		
18 他に分類されないもの	1.25%	0.73	0.32	0.35	0.31	0.26	0.27	0.27	0.30	0.46	0.70	0.76	0.78	0.76	0.52	0.44	7.23		
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4.46%	1.16	1.29	2.08	3.00	1.69	0.67	0.64	0.67	1.22	1.88	2.22	2.46	2.94	2.22	1.76	25.89		
20 歯科の疾患	14.29%	1.66	5.31	4.02	3.57	3.69	3.49	3.73	3.97	6.08	9.61	9.85	9.05	9.19	6.31	3.40	82.93		
合計	100.00%	36.24	22.55	20.56	21.39	17.52	15.86	19.19	20.56	31.30	53.64	64.12	68.43	83.52	62.38	42.91	580.16		

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区別医療費（7 ページ）に合わせ補正している。

(図-54) 疾病分類別・年齢階級別医療費 全体（医科+歯科）



②入院（医科＋歯科）：組合員

平成30年度診療分医療費における組合員の入院の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、循環器系の疾患（27.6億円）が最も高く、次いで新生物（26.5億円）、消化器系の疾患（8.5億円）となっており、特に上位2疾病が突出して高く全体の約56%を占めている。

また、上記3疾病のいずれも60歳から64歳が最も高い年齢階級である（循環器系の疾患6.6億円、新生物6.9億円、消化器系の疾患1.7億円）。

なお、年齢階級別医療費をみると、60歳から64歳（21.2億円）が最も高く、次いで55歳から59歳（15.2億円）、65歳から69歳（15.2億円）となっている。

（表-33）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科＋歯科）：組合員

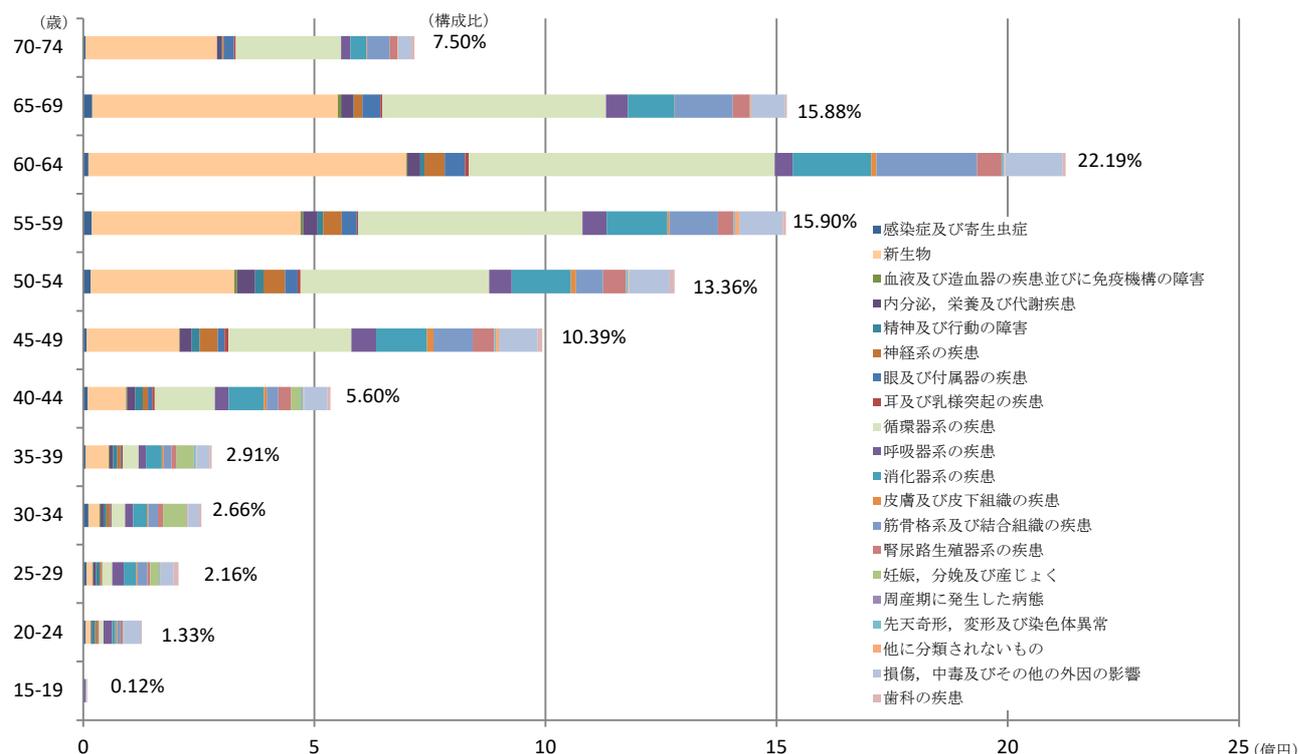
（億円）

疾病分類	構成比	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計
1 感染症及び寄生虫症	1.21%	0.01	0.05	0.07	0.11	0.05	0.10	0.08	0.16	0.18	0.11	0.20	0.05	1.16
2 新生物	27.66%	-	0.11	0.13	0.24	0.50	0.83	2.00	3.11	4.52	6.88	5.31	2.84	26.48
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.35%	-	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02	0.01	0.06	0.06	0.02	0.07	0.01	0.33
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	2.07%	-	0.01	0.06	0.06	0.08	0.18	0.26	0.39	0.31	0.28	0.27	0.09	1.98
5 精神及び行動の障害	1.11%	-	0.08	0.08	0.06	0.09	0.16	0.17	0.18	0.12	0.09	0.01	0.03	1.06
6 神経系の疾患	2.35%	0.00	0.05	0.03	0.08	0.07	0.11	0.39	0.47	0.40	0.44	0.18	0.03	2.25
7 眼及び付属器の疾患	2.02%	0.00	0.01	0.00	0.02	0.02	0.09	0.15	0.27	0.33	0.44	0.39	0.21	1.94
8 耳及び乳様突起の疾患	0.50%	-	0.02	0.02	0.02	0.03	0.06	0.08	0.06	0.03	0.08	0.04	0.04	0.48
9 循環器系の疾患	28.81%	0.00	0.10	0.22	0.29	0.34	1.30	2.66	4.08	4.85	6.62	4.84	2.28	27.58
10 呼吸器系の疾患	3.89%	0.04	0.19	0.25	0.17	0.16	0.30	0.54	0.49	0.52	0.39	0.47	0.20	3.72
11 消化器系の疾患	8.90%	0.00	0.07	0.27	0.30	0.34	0.76	1.10	1.28	1.32	1.70	1.01	0.35	8.52
12 皮膚及び皮下組織の疾患	0.64%	-	0.03	0.03	0.03	0.04	0.06	0.14	0.11	0.04	0.11	0.01	0.01	0.61
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	7.67%	0.00	0.08	0.21	0.21	0.17	0.25	0.85	0.59	1.05	2.18	1.25	0.49	7.34
14 腎尿路生殖器系の疾患	3.11%	0.00	0.05	0.06	0.11	0.11	0.28	0.46	0.49	0.34	0.53	0.37	0.17	2.98
15 妊娠、分娩及び産じょく	1.38%	-	0.01	0.19	0.51	0.38	0.21	0.01	-	-	-	-	-	1.32
16 周産期に発生した病態	0.03%	-	-	0.01	0.01	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-	0.02
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0.33%	-	0.01	0.02	0.01	0.04	0.05	0.03	0.05	0.03	0.05	0.01	0.00	0.32
18 他に分類されないもの	0.27%	-	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02	0.06	0.02	0.09	0.02	0.02	0.01	0.26
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	6.95%	0.03	0.37	0.28	0.24	0.28	0.51	0.84	0.88	0.94	1.25	0.74	0.29	6.65
20 歯科の疾患	0.75%	0.01	0.02	0.10	0.05	0.05	0.06	0.10	0.10	0.07	0.06	0.03	0.07	0.72
合 計	100.00%	0.12	1.28	2.06	2.54	2.79	5.36	9.94	12.78	15.22	21.24	15.20	7.18	95.72

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に75歳に達する者は70-74歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（7ページ）に合わせ補正している。

（図-55）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科＋歯科）：組合員



③入院（医科+歯科）：家族

平成30年度診療分医療費における家族の入院の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、新生物（21.8億円）が最も高く、次いで循環器系の疾患（11.2億円）、損傷、中毒及びその他の外因の影響（8.7億円）となっている。

また、上記3疾病で最も高い年齢階級をみると、新生物及び循環器系の疾患では70歳から74歳（新生物4.3億円、循環器系の疾患3.1億円）、損傷、中毒及びその他の外因の影響では15歳から19歳（1.5億円）となっている。

なお、年齢階級別医療費をみると、0歳から4歳（16.2億円）が最も高く、次いで70歳から74歳（13.3億円）、60歳から64歳（10.7億円）となっている。

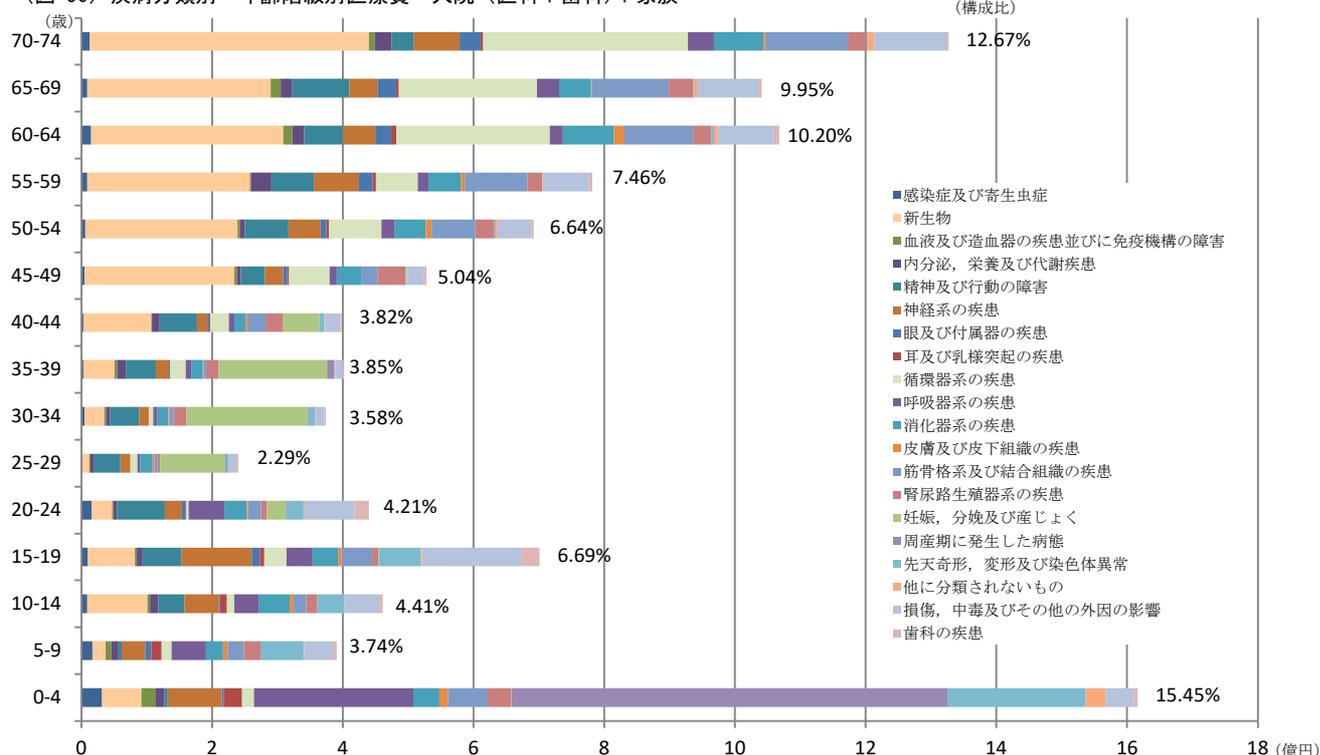
（表-34）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科+歯科）：家族

疾病分類	構成比	年齢階級																計
		0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74		
1 感染症及び寄生虫症	1.47%	0.32	0.17	0.09	0.10	0.16	0.01	0.05	0.03	0.03	0.05	0.06	0.09	0.15	0.09	0.13	1.54	
2 新生物	20.84%	0.60	0.20	0.92	0.72	0.31	0.11	0.30	0.48	1.04	2.29	2.33	2.49	2.94	2.81	4.27	21.81	
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.93%	0.21	0.09	0.04	0.03	0.02	0.02	0.03	0.04	0.01	0.04	0.04	0.02	0.14	0.15	0.09	0.98	
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.87%	0.14	0.11	0.13	0.09	0.06	0.06	0.06	0.13	0.12	0.06	0.07	0.31	0.18	0.18	0.26	1.95	
5 精神及び行動の障害	6.85%	0.05	0.05	0.40	0.59	0.73	0.40	0.45	0.46	0.57	0.37	0.67	0.65	0.59	0.87	0.34	7.17	
6 神経系の疾患	6.49%	0.83	0.36	0.52	1.08	0.26	0.15	0.14	0.20	0.16	0.28	0.49	0.69	0.50	0.44	0.70	6.79	
7 眼及び付属器の疾患	1.49%	0.03	0.09	0.02	0.12	0.06	-	0.00	0.02	0.03	0.06	0.09	0.21	0.24	0.28	0.32	1.56	
8 耳及び乳様突起の疾患	0.89%	0.28	0.16	0.11	0.07	0.01	-	0.00	-	0.01	0.03	0.04	0.05	0.08	0.04	0.04	0.93	
9 循環器系の疾患	10.66%	0.18	0.15	0.11	0.34	0.03	0.11	0.07	0.24	0.29	0.62	0.80	0.64	2.35	2.11	3.13	11.16	
10 呼吸器系の疾患	5.71%	2.44	0.53	0.38	0.40	0.55	0.04	0.06	0.08	0.08	0.11	0.20	0.16	0.20	0.34	0.40	5.98	
11 消化器系の疾患	5.69%	0.40	0.26	0.47	0.39	0.34	0.19	0.17	0.18	0.17	0.38	0.48	0.50	0.78	0.49	0.76	5.96	
12 皮膚及び皮下組織の疾患	0.74%	0.13	0.07	0.06	0.05	0.02	0.03	0.02	0.01	0.03	0.00	0.09	0.06	0.16	0.01	0.03	0.78	
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	7.18%	0.61	0.25	0.19	0.47	0.20	0.05	0.06	0.04	0.28	0.25	0.67	0.96	1.05	1.18	1.26	7.52	
14 腎尿路生殖器系の疾患	3.41%	0.35	0.25	0.17	0.10	0.09	0.04	0.20	0.19	0.27	0.42	0.29	0.22	0.28	0.37	0.30	3.57	
15 妊娠、分娩及び産じょく	5.16%	0.01	-	0.00	0.01	0.29	0.99	1.86	1.66	0.55	0.02	-	-	-	-	-	5.40	
16 周産期に発生した病態	6.52%	6.67	-	-	-	0.01	0.02	0.01	0.11	0.00	-	-	-	-	-	-	6.83	
17 先天奇形、変形及び染色体異常	4.20%	2.12	0.66	0.41	0.63	0.26	0.03	0.10	0.01	0.08	0.01	0.02	0.00	0.04	0.01	0.01	4.39	
18 他に分類されないもの	0.60%	0.30	0.01	0.00	0.02	0.02	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03	0.01	0.06	0.05	0.09	0.63	
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	8.28%	0.43	0.44	0.54	1.52	0.76	0.12	0.13	0.10	0.23	0.25	0.51	0.71	0.86	0.94	1.12	8.67	
20 歯科の疾患	1.02%	0.06	0.06	0.05	0.28	0.22	0.03	0.02	0.03	0.02	0.04	0.04	0.05	0.08	0.05	0.02	1.07	
合計	100%	16.17	3.92	4.62	7.00	4.41	2.40	3.75	4.03	4.00	5.28	6.95	7.80	10.68	10.42	13.26	104.69	

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に75歳に達する者は70-74歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（7ページ）に合わせ補正している。

（図-56）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科+歯科）：家族



④入院外（医科＋歯科）：組合員

平成 30 年度診療分医療費における組合員の入院外の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、循環器系の疾患（22.2 億円）が最も高く、次いで新生物（18.6 億円）、内分泌、栄養及び代謝疾患（18.2 億円）となっている。

また、上記 3 疾病のいずれも 60 歳から 64 歳が最も高い年齢階級である（循環器系の疾患 5.5 億円、新生物 4.2 億円、内分泌、栄養及び代謝疾患 3.8 億円）。

なお、年齢階級別医療費をみると、60 歳から 64 歳（32.2 億円）が最も高く、次いで 50 歳から 54 歳（28.5 億円）、55 歳から 59 歳（27.8 億円）となっている。

（表-35）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：組合員

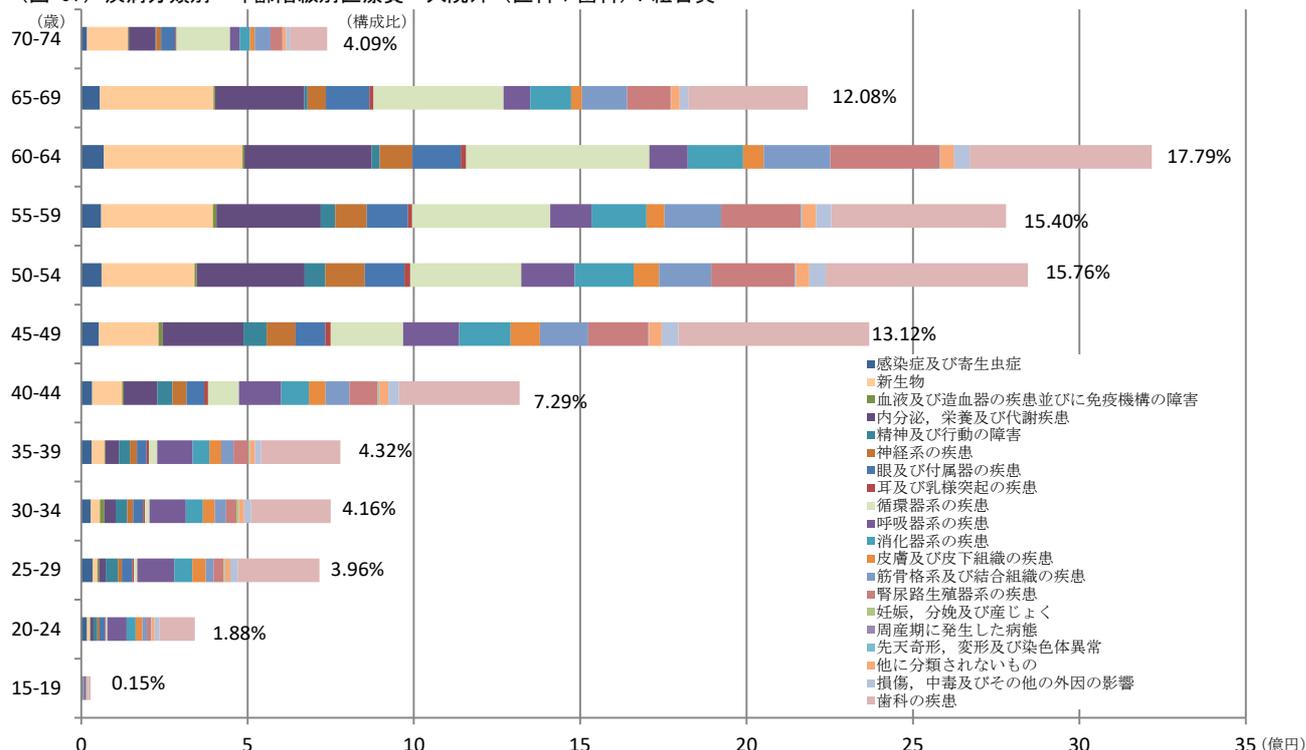
（億円）

疾病分類	構成比	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計
1 感染症及び寄生虫症	2.56%	0.02	0.18	0.34	0.28	0.31	0.33	0.53	0.61	0.60	0.68	0.56	0.18	4.62
2 新生物	10.27%	0.00	0.08	0.15	0.28	0.39	0.90	1.79	2.80	3.36	4.17	3.42	1.23	18.55
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.40%	0.00	0.02	0.04	0.14	0.03	0.05	0.13	0.07	0.11	0.06	0.05	0.02	0.73
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	10.06%	0.01	0.09	0.21	0.34	0.40	1.01	2.43	3.24	3.13	3.82	2.68	0.81	18.18
5 精神及び行動の障害	2.08%	0.01	0.12	0.37	0.35	0.33	0.45	0.70	0.62	0.44	0.24	0.09	0.02	3.75
6 神経系の疾患	3.16%	0.01	0.06	0.11	0.17	0.22	0.43	0.87	1.19	0.94	0.99	0.56	0.14	5.70
7 眼及び付属器の疾患	4.49%	0.02	0.17	0.31	0.30	0.29	0.53	0.89	1.19	1.24	1.45	1.30	0.43	8.12
8 耳及び乳様突起の疾患	0.61%	0.00	0.03	0.06	0.06	0.06	0.11	0.16	0.17	0.13	0.16	0.13	0.04	1.11
9 循環器系の疾患	12.27%	0.01	0.04	0.10	0.13	0.26	0.93	2.18	3.34	4.15	5.51	3.91	1.60	22.16
10 呼吸器系の疾患	6.60%	0.06	0.58	1.11	1.10	1.06	1.27	1.68	1.60	1.24	1.15	0.80	0.29	11.93
11 消化器系の疾患	5.99%	0.01	0.27	0.54	0.51	0.50	0.83	1.55	1.77	1.65	1.66	1.23	0.31	10.82
12 皮膚及び皮下組織の疾患	2.85%	0.02	0.20	0.41	0.36	0.36	0.51	0.88	0.77	0.54	0.62	0.33	0.15	5.15
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.74%	0.01	0.14	0.23	0.34	0.37	0.71	1.45	1.57	1.71	2.01	1.35	0.47	10.36
14 泌尿生殖器系の疾患	7.59%	0.01	0.12	0.30	0.31	0.44	0.85	1.81	2.51	2.40	3.29	1.31	0.36	13.72
15 妊娠、分娩及び産じょく	0.08%	0.00	0.01	0.03	0.06	0.03	0.02	0.00	0.00	-	-	-	-	0.14
16 周産期に発生した病態	0.00%	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-	0.00
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0.11%	0.00	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.02	0.01	0.00	0.20
18 他に分類されないもの	1.56%	0.01	0.09	0.15	0.16	0.16	0.27	0.38	0.41	0.42	0.41	0.26	0.12	2.83
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1.87%	0.02	0.14	0.22	0.20	0.18	0.32	0.50	0.49	0.46	0.47	0.27	0.10	3.38
20 歯科の疾患	21.71%	0.06	1.07	2.46	2.40	2.38	3.63	5.74	6.08	5.25	5.47	3.58	1.12	39.23
合計	100%	0.28	3.39	7.15	7.51	7.81	13.17	23.70	28.47	27.82	32.15	21.83	7.38	180.67

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（7 ページ）に合わせ補正している。

（図-57）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：組合員



⑤入院外（医科＋歯科）：家族

平成 30 年度診療分医療費における家族の入院外の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、呼吸器系の疾患（29.5 億円）が最も高く、次いで新生物（17.5 億円）、内分泌、栄養及び代謝疾患（13.3 億円）となっている。

また、上記 3 疾病で最も高い年齢階級をみると、呼吸器系の疾患では 0 歳から 4 歳（8.7 億円）、新生物並びに内分泌、栄養及び代謝疾患では 60 歳から 64 歳（新生物 2.9 億円、内分泌、栄養及び代謝疾患 2.3 億円）となっている。

なお、年齢階級別医療費をみると、0 歳から 4 歳（20.1 億円）が最も高く、次いで 60 歳から 64 歳（19.5 億円）、5 歳から 9 歳（18.6 億円）となっている。

（表-36）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：家族

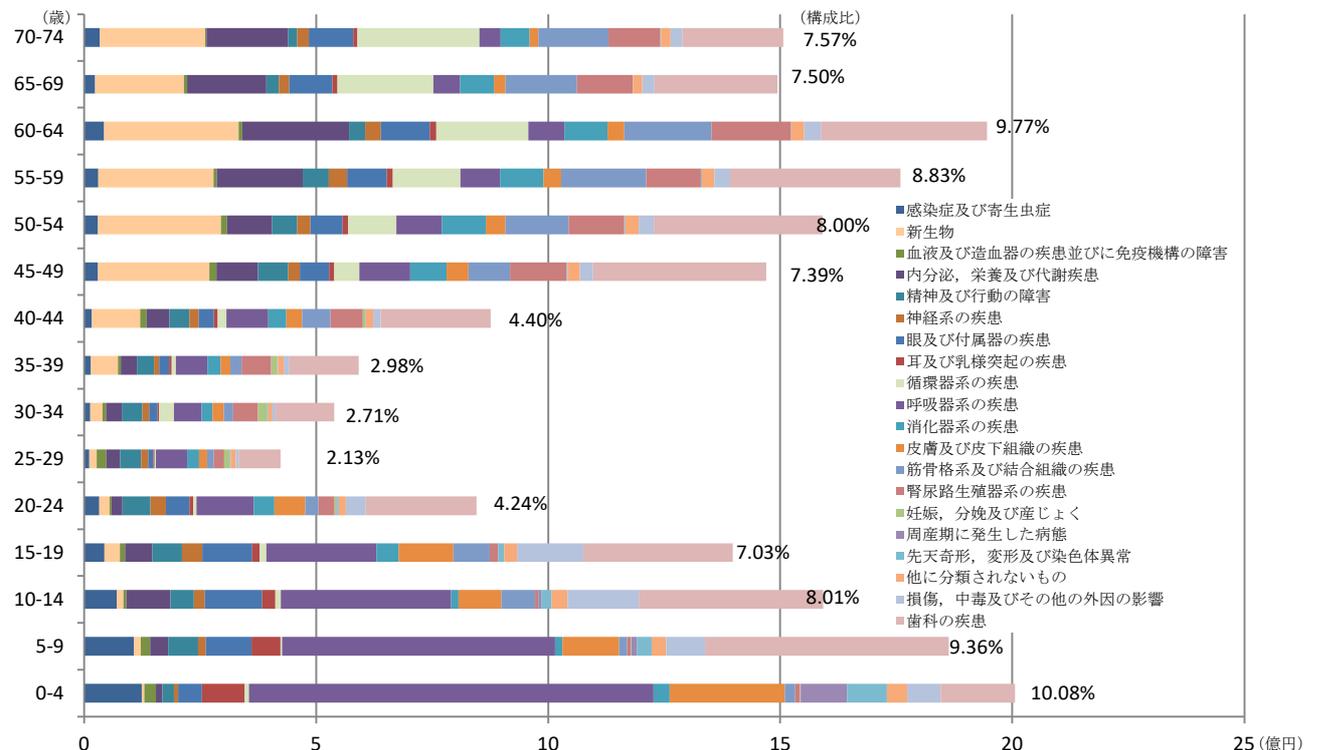
（億円）

疾病分類	構成比	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計
1 感染症及び寄生虫症	3.16%	1.24	1.08	0.71	0.44	0.33	0.11	0.13	0.15	0.17	0.30	0.30	0.31	0.43	0.24	0.34	6.29
2 新生物	8.80%	0.06	0.14	0.14	0.33	0.22	0.16	0.27	0.58	1.04	2.40	2.65	2.48	2.90	1.91	2.27	17.53
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.85%	0.25	0.20	0.06	0.11	0.04	0.21	0.07	0.06	0.14	0.15	0.13	0.07	0.08	0.07	0.03	1.69
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	6.68%	0.14	0.39	0.95	0.59	0.24	0.30	0.34	0.35	0.49	0.90	0.97	1.85	2.30	1.71	1.75	13.30
5 精神及び行動の障害	3.47%	0.25	0.65	0.51	0.64	0.60	0.45	0.45	0.37	0.43	0.65	0.54	0.56	0.35	0.27	0.20	6.90
6 神経系の疾患	1.81%	0.09	0.16	0.23	0.44	0.33	0.15	0.14	0.11	0.20	0.25	0.29	0.40	0.34	0.22	0.25	3.60
7 眼及び付属器の疾患	5.15%	0.51	0.99	1.24	1.07	0.51	0.11	0.18	0.21	0.33	0.63	0.69	0.85	1.05	0.93	0.96	10.26
8 耳及び乳様突起の疾患	1.49%	0.92	0.62	0.28	0.16	0.08	0.03	0.04	0.06	0.08	0.11	0.12	0.13	0.14	0.11	0.09	2.97
9 循環器系の疾患	5.44%	0.09	0.04	0.12	0.15	0.07	0.03	0.32	0.09	0.19	0.54	1.04	1.46	1.98	2.07	2.63	10.83
10 呼吸器系の疾患	14.79%	8.72	5.88	3.67	2.37	1.24	0.67	0.59	0.68	0.90	1.10	0.98	0.85	0.78	0.57	0.46	29.45
11 消化器系の疾患	3.87%	0.35	0.16	0.16	0.48	0.44	0.26	0.24	0.28	0.39	0.78	0.95	0.94	0.93	0.73	0.62	7.70
12 皮膚及び皮下組織の疾患	4.77%	2.48	1.22	0.92	1.18	0.67	0.17	0.24	0.21	0.34	0.47	0.42	0.38	0.36	0.25	0.19	9.50
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	6.23%	0.22	0.17	0.73	0.78	0.28	0.15	0.20	0.24	0.61	0.90	1.36	1.83	1.88	1.54	1.51	12.40
14 泌尿路生殖器系の疾患	5.29%	0.11	0.08	0.07	0.18	0.35	0.22	0.54	0.64	0.70	1.22	1.20	1.18	1.71	1.20	1.12	10.53
15 妊娠、分娩及び産じょく	0.28%	0.01	0.01	0.00	0.00	0.04	0.12	0.20	0.13	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	0.56
16 周産期に発生した病態	0.61%	1.00	0.13	0.06	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-	1.22
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0.88%	0.86	0.31	0.22	0.13	0.04	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	1.74
18 他に分類されないもの	1.77%	0.44	0.31	0.35	0.28	0.15	0.11	0.09	0.12	0.16	0.26	0.29	0.27	0.28	0.20	0.21	3.52
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3.61%	0.72	0.84	1.53	1.43	0.43	0.06	0.07	0.11	0.16	0.29	0.33	0.34	0.36	0.26	0.25	7.19
20 歯科の疾患	21.05%	1.60	5.25	3.98	3.22	2.39	0.90	1.26	1.51	2.37	3.73	3.63	3.67	3.58	2.65	2.18	41.91
合計	100.00%	20.07	18.63	15.94	14.00	8.45	4.25	5.39	5.92	8.77	14.72	15.92	17.59	19.45	14.93	15.08	199.09

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（7 ページ）に合わせ補正している。

（図-58）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：家族



(2) 疾病分類別 1 人当たり医療費 (医科)

①全体 (入院+入院外)

平成 29 年度の医科診療分における疾病分類別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、循環器系の疾患の差が最も大きく、全国土木 (17,588 円) が組合健保 (10,808 円) より 6,780 円 (62.74%) 高くなっている。次いで差が大きいのが新生物で、全国土木 (20,954 円) が組合健保 (14,319 円) より 6,635 円 (46.34%) 高く、筋骨格系及び結合組織の疾患 (全国土木 9,105 円、組合健保 6,642 円、差 2,463 円 (37.07%)) が続く。

全国土木の加入者の年齢構成を組合健保と揃えて比較すると、循環器系の疾患は 12,989 円となり組合健保との差は 2,181 円 (20.18%)、新生物は 16,510 円となり組合健保との差は 2,191 円 (15.30%) となる。筋骨格系及び結合組織の疾患では 7,352 円と、組合健保との差は 710 円 (10.68%) まで縮小する。

(表-37) 疾病分類別 1 人当たり医療費 : 医科 (入院+入院外) (平成 29 年度)

(円)

疾病分類	1 人当たり医療費			年齢構成を組合健保と揃えた場合	
	全国土木	組合健保	組合健保との差 (率)	全国土木 (年齢調整後)	組合健保との差 (率)
総 数	122,745	94,756	27,989 (29.54%)	107,669	12,913 (13.63%)
1 感染症及び寄生虫症	3,439	2,888	551 (19.09%)	3,307	419 (14.52%)
2 新 生 物	20,954	14,319	6,635 (46.34%)	16,510	2,191 (15.30%)
3 血液及び免疫血液器の疾患並びに造血機機構の疾患	1,105	1,349	△ 244 (△18.06%)	1,104	△ 245 (△18.13%)
4 内分泌, 栄養及び代謝疾患	8,452	6,087	2,365 (38.86%)	6,886	799 (13.12%)
5 精神及び行動の障害	4,995	4,135	860 (20.81%)	4,959	824 (19.93%)
6 神経系の疾患	4,792	3,286	1,506 (45.84%)	4,221	935 (28.47%)
7 眼及び付属器の疾患	5,297	3,884	1,413 (36.38%)	4,469	585 (15.07%)
8 耳及び乳様突起の疾患	1,294	1,110	184 (16.59%)	1,274	164 (14.81%)
9 循環器系の疾患	17,588	10,808	6,780 (62.74%)	12,989	2,181 (20.18%)
10 呼吸器系の疾患	12,544	11,259	1,285 (11.42%)	12,915	1,656 (14.71%)
11 消化器系の疾患	7,817	6,611	1,206 (18.25%)	6,887	276 (4.18%)
12 皮膚及び皮下組織の疾患	3,929	3,463	466 (13.46%)	3,976	513 (14.80%)
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	9,105	6,642	2,463 (37.07%)	7,352	710 (10.68%)
14 腎尿路生殖器系の疾患	7,574	5,806	1,768 (30.45%)	6,578	772 (13.30%)
15 妊娠, 分娩及び産じょく	1,749	2,489	△ 740 (△29.72%)	2,561	72 (2.88%)
16 周産期に発生した病態	1,952	2,264	△ 312 (△13.75%)	2,350	86 (3.81%)
17 先天奇形, 変形及び染色体異常	1,601	1,900	△ 299 (△15.78%)	1,750	△ 150 (△7.93%)
18 他に分類されないもの	1,795	1,559	236 (15.17%)	1,655	96 (6.21%)
19 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	6,527	4,898	1,629 (33.27%)	5,748	850 (17.36%)

出典: 厚生労働省「医療給付実態調査」

※1 入院時食事・生活療養費を含む。

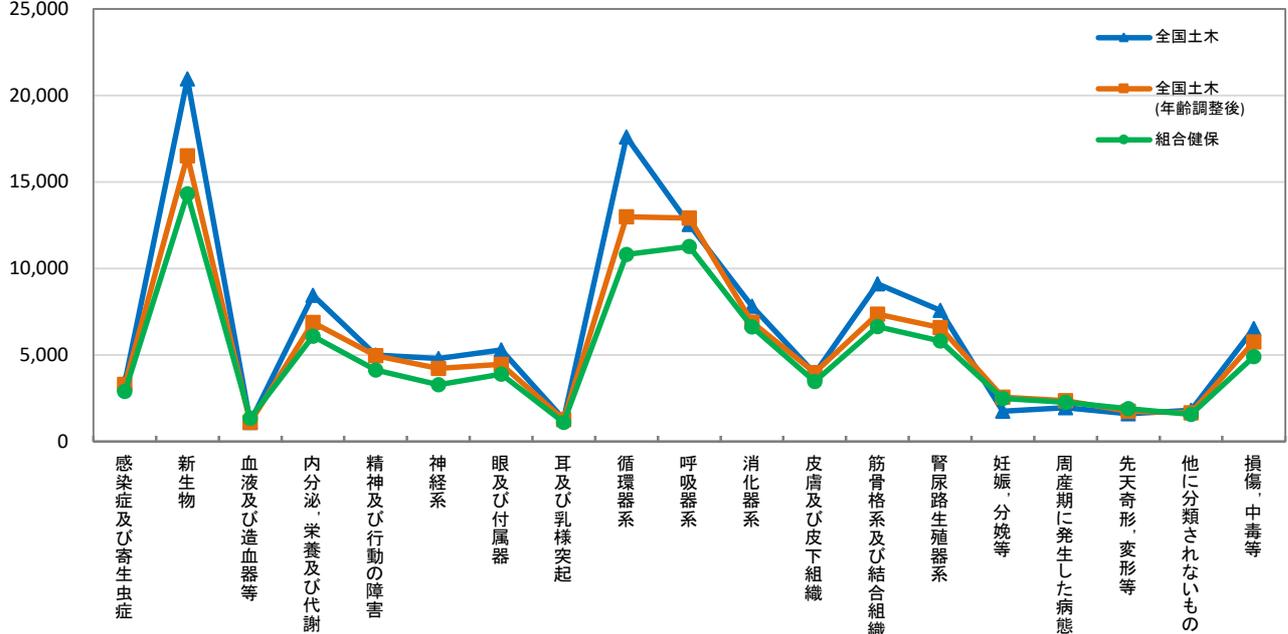
※2 全国土木は、総数が入院 1 人当たり医療費 (16 ページ) と入院外 1 人当たり医療費 (24 ページ) の合算額と一致するように補正している。

※3 組合健保は、事業年報に合わせた補正は行っていない。そのため、総数は入院 1 人当たり医療費と入院外 1 人当たり医療費の合算額と一致しない。

※4 全国土木 (年齢調整後) は、本人家族割合及び男女割合を調整していない。また、入院時食事・生活療養費を含んでいるため、年齢階級別 1 人当たり医療費の入院 (11 ページ) と入院外 (12 ページ) の合算額と一致しない。

(図-59) 疾病分類別 1 人当たり医療費 : 医科 (入院+入院外) (平成 29 年度)

(円)



②入院

平成 29 年度の医科入院の疾病分類別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、新生物の差が最も大きく、全国土木 (12,084 円) が組合健保 (8,639 円) より 3,445 円 (39.89%) 高くなっている。次いで差が大きいのが循環器系の疾患で、全国土木 (9,574 円) が組合健保 (6,147 円) より 3,427 円 (55.74%) 高く、損傷、中毒及びその他の外因の影響 (全国土木 3,958 円、組合健保 2,773 円、差 1,185 円 (42.70%)) が続く。

なお、妊娠、分娩及び産じょく、周産期に発生した病態、先天奇形、変形及び染色体異常は全国土木の方が低くなっているが、これは、年齢構成の違いに加え、加入者に占める女性の割合が組合健保より小さいためと推察される。

全国土木の加入者の年齢構成を組合健保と揃えて比較すると、新生物は 9,434 円となり組合健保との差は 795 円 (9.21%) となる。循環器系の疾患は 7,122 円となり組合健保との差は 975 円 (15.86%)、損傷、中毒及びその他の外因の影響では 3,339 円となり組合健保との差は 566 円 (20.39%) となる。

(表-38) 疾病分類別 1 人当たり医療費：医科入院 (平成 29 年度)

(円)

疾病分類	1 人当たり医療費			年齢構成を組合健保と揃えた場合	
	全国土木	組合健保	組合健保との差 (率)	全国土木 (年齢調整後)	組合健保との差 (率)
総数	50,001	38,298	11,703 (30.56%)	42,918	4,620 (12.06%)
1 感染症及び寄生虫症	802	676	126 (18.68%)	745	69 (10.22%)
2 新生物	12,084	8,639	3,445 (39.89%)	9,434	795 (9.21%)
3 血液及び免疫機構の疾患並びに造血機能の障害	452	405	47 (11.42%)	400	△ 5 (△1.41%)
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	904	754	150 (19.84%)	770	16 (2.14%)
5 精神及び行動の障害	2,424	1,494	930 (62.24%)	2,292	798 (53.41%)
6 神経系の疾患	2,478	1,608	870 (54.14%)	2,168	560 (34.85%)
7 眼及び付属器の疾患	870	597	273 (45.66%)	654	57 (9.44%)
8 耳及び乳様突起の疾患	318	271	47 (17.37%)	300	29 (10.61%)
9 循環器系の疾患	9,574	6,147	3,427 (55.74%)	7,122	975 (15.86%)
10 呼吸器系の疾患	2,363	2,029	334 (16.45%)	2,266	237 (11.68%)
11 消化器系の疾患	3,515	2,799	716 (25.56%)	3,018	219 (7.81%)
12 皮膚及び皮下組織の疾患	405	290	115 (39.29%)	402	112 (38.55%)
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	3,552	2,579	973 (37.44%)	2,771	192 (7.47%)
14 腎尿路生殖器系の疾患	1,692	1,443	249 (17.22%)	1,478	35 (2.45%)
15 妊娠、分娩及び産じょく	1,574	2,265	△ 691 (△30.51%)	2,308	43 (1.89%)
16 周産期に発生した病態	1,633	1,930	△ 297 (△15.40%)	1,972	42 (2.17%)
17 先天奇形、変形及び染色体異常	1,115	1,353	△ 238 (△17.53%)	1,224	△ 129 (△9.49%)
18 他に分類されないもの	249	244	5 (1.99%)	224	△ 20 (△8.15%)
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,958	2,773	1,185 (42.70%)	3,339	566 (20.39%)

※1 入院時食事・生活療養費を含む。

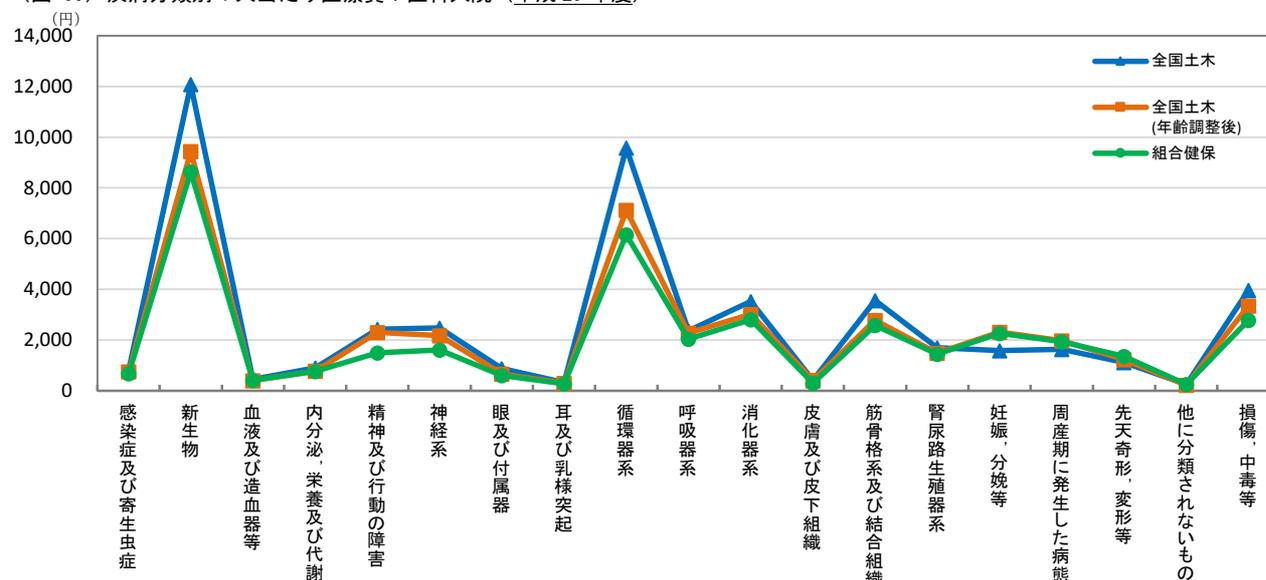
出典：厚生労働省「医療給付実態調査」

※2 全国土木は、総数が入院 1 人当たり医療費 (16 ページ) の値と一致するよう補正している。

※3 組合健保は、事業年報に合わせた補正は行っていない。そのため、総数は入院 1 人当たり医療費の値と一致しない。

※4 全国土木(年齢調整後)は、本人家族割合及び男女割合を調整していない。また、入院時食事・生活療養費を含んでいるため、年齢階級別 1 人当たり医療費 (11 ページ) の値と一致しない。

(図-60) 疾病分類別 1 人当たり医療費：医科入院 (平成 29 年度)



③入院外

平成29年度の医科入院外の疾病分類別1人当たり医療費を組合健保と比較すると、循環器系の疾患の差が最も大きく、全国土木(8,014円)が組合健保(4,660円)より3,354円(71.96%)高くなっている。次いで差が大きいのが新生物で、全国土木(8,870円)が組合健保(5,680円)より3,190円(56.15%)高く、内分泌、栄養及び代謝疾患(全国土木7,549円、組合健保5,333円、差2,216円(41.55%))が続く。

全国土木の加入者の年齢構成を組合健保と揃えて比較すると、循環器系の疾患は5,866円となり組合健保との差は1,206円(25.88%)、新生物は7,076円となり組合健保との差は1,396円(24.56%)となる。内分泌、栄養及び代謝疾患では6,116円となり組合健保との差は783円(14.68%)となる。一方、呼吸器系の疾患をみると、組合健保との差は1,419円(15.38%)となり、元の差の951円(10.31%)から拡大している。

(表-39) 疾病分類別1人当たり医療費：医科入院外(平成29年度)

(円)

疾病分類	1人当たり医療費			年齢構成を組合健保と揃えた場合		
	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)	全国土木(年齢調整後)	組合健保との差(率)	
総数	72,744	56,458	16,286 (28.85%)	64,751	8,293	(14.69%)
1 感染症及び寄生虫症	2,637	2,212	425 (19.21%)	2,562	350	(15.83%)
2 新生物	8,870	5,680	3,190 (56.15%)	7,076	1,396	(24.56%)
3 血液及び免疫臓器の疾患並びに造血機構の障害	653	943	△290 (△30.73%)	705	△238	(△25.32%)
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	7,549	5,333	2,216 (41.55%)	6,116	783	(14.68%)
5 精神及び行動の障害	2,571	2,641	△70 (△2.63%)	2,667	26	(0.99%)
6 神経系の疾患	2,313	1,678	635 (37.89%)	2,053	375	(22.35%)
7 眼及び付属器の疾患	4,427	3,287	1,140 (34.70%)	3,816	529	(16.09%)
8 耳及び乳様突起の疾患	976	839	137 (16.34%)	974	135	(16.17%)
9 循環器系の疾患	8,014	4,660	3,354 (71.96%)	5,866	1,206	(25.88%)
10 呼吸器系の疾患	10,181	9,230	951 (10.31%)	10,649	1,419	(15.38%)
11 消化器系の疾患	4,302	3,812	490 (12.88%)	3,869	57	(1.51%)
12 皮膚及び皮下組織の疾患	3,525	3,173	352 (11.09%)	3,573	400	(12.62%)
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,553	4,064	1,489 (36.64%)	4,580	516	(12.71%)
14 腎尿路生殖器系の疾患	5,883	4,363	1,520 (34.83%)	5,100	737	(16.88%)
15 妊娠、分娩及び産じょく	175	224	△49 (△21.71%)	253	29	(12.94%)
16 周産期に発生した病態	319	333	△14 (△4.19%)	378	45	(13.28%)
17 先天奇形、変形及び染色体異常	485	548	△63 (△11.45%)	526	△22	(△4.06%)
18 他に分類されないもの	1,546	1,315	231 (17.61%)	1,431	116	(8.87%)
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,569	2,124	445 (20.94%)	2,409	285	(13.41%)

※1 全国土木は、総数が入院外1人当たり医療費(24ページ)の値と一致するよう補正している。

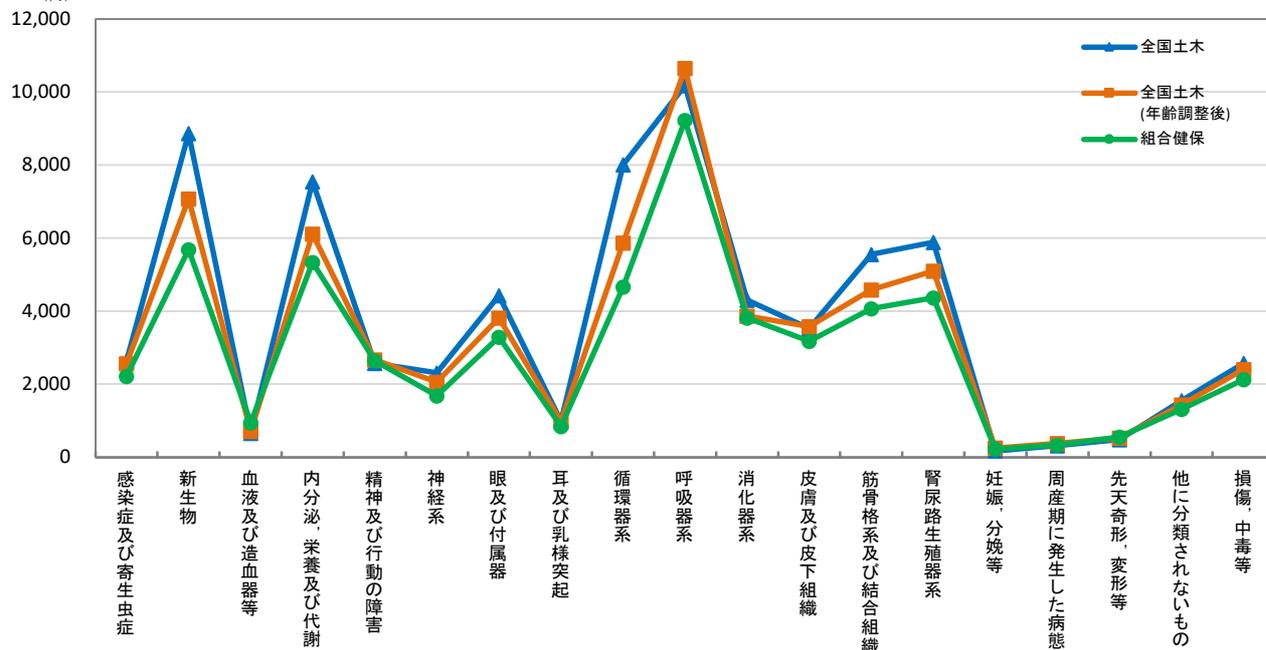
出典：厚生労働省「医療給付実態調査」

※2 組合健保は、事業年報に合わせた補正は行っていない。そのため、総数は入院外1人当たり医療費の値と一致しない。

※3 全国土木(年齢調整後)は、本人家族割合及び男女割合を調整していない。そのため、年齢階級別1人当たり医療費(12ページ)の値と一致しない。

(図-61) 疾病分類別1人当たり医療費：医科入院外(平成29年度)

(円)



(3) 前期高齢者に係る疾病分類比較分析 (医科)

① 疾病分類別 1 人当たり医療費

平成 29 年度における前期高齢者 (65 歳～74 歳) の疾病分類別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、医科入院、医科入院外のいずれも全国土木が高くなっている。総数では、医科入院については差が 41,010 円 (30.95%)、医科入院外については差が 37,117 円 (25.45%) と差が大きく開いている。

疾病分類別にみると、医科入院では 3 疾病を除いて、医科入院外では 1 疾病を除いて、全国土木の方が高くなっている。医科入院で差が最も大きい循環器系の疾患では、全国土木 (49,530 円) が組合健保 (35,300 円) より 14,230 円 (40.31%) 高くなっているが、これは新規入院が多いためであり、入院患者 1 人当たり医療費はほとんど差がない。ほかの疾病でも同様の傾向が見られる (次ページ参照)。

医科入院外でも循環器系の疾患の差が最も大きく、全国土木 (38,348 円) が組合健保 (28,296 円) より 10,052 円 (35.53%) 高くなっている。

(表-40) 前期高齢者に係る疾病分類別 1 人当たり医療費 (平成 29 年度) (金額順)

医科入院	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)	医科入院外	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)
総数	173,505	132,495	41,010 (30.95%)	総数	182,969	145,852	37,117 (25.45%)
9 循環器系の疾患	49,530	35,300	14,230 (40.31%)	9 循環器系の疾患	38,348	28,296	10,052 (35.53%)
2 新生物	47,865	39,829	8,036 (20.18%)	2 新生物	31,093	24,876	6,217 (24.99%)
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	15,364	11,676	3,688 (31.59%)	4 内分泌、栄養及び代謝疾患	25,065	19,515	5,550 (28.44%)
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	13,073	9,016	4,057 (44.99%)	13 筋骨格系及び結合組織の疾患	18,525	14,469	4,056 (28.03%)
11 消化器系の疾患	11,515	8,770	2,745 (31.29%)	14 腎尿路生殖器系の疾患	15,205	12,765	2,440 (19.11%)
6 神経系の疾患	6,680	4,868	1,812 (37.23%)	7 眼及び付属器の疾患	13,173	11,307	1,866 (16.51%)
10 呼吸器系の疾患	5,875	4,309	1,566 (36.35%)	11 消化器系の疾患	10,128	9,132	996 (10.91%)
14 腎尿路生殖器系の疾患	5,742	4,430	1,312 (29.63%)	10 呼吸器系の疾患	7,616	6,288	1,328 (21.12%)
5 精神及び行動の障害	5,049	3,319	1,730 (52.15%)	6 神経系の疾患	4,770	3,587	1,183 (33.00%)
7 眼及び付属器の疾患	3,987	3,501	486 (13.89%)	1 感染症及び寄生虫症	4,480	3,217	1,263 (39.24%)
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	3,055	2,522	533 (21.15%)	12 皮膚及び皮下組織の疾患	3,399	2,832	567 (20.00%)
1 感染症及び寄生虫症	1,870	2,046	△176 (△8.57%)	18 他に分類されないもの	3,317	2,538	779 (30.71%)
3 血液及び造血器の疾患等	1,836	949	887 (93.38%)	19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,271	3,106	165 (5.32%)
18 他に分類されないもの	883	614	269 (43.83%)	5 精神及び行動の障害	2,195	1,886	309 (16.38%)
8 耳及び乳様突起の疾患	581	504	77 (15.40%)	8 耳及び乳様突起の疾患	1,364	1,055	309 (29.24%)
12 皮膚及び皮下組織の疾患	532	653	△121 (△18.49%)	3 血液及び造血器の疾患等	855	780	75 (9.57%)
17 先天奇形、変形及び染色体異常	67	190	△123 (△64.90%)	17 先天奇形、変形及び染色体異常	164	201	△37 (△18.35%)

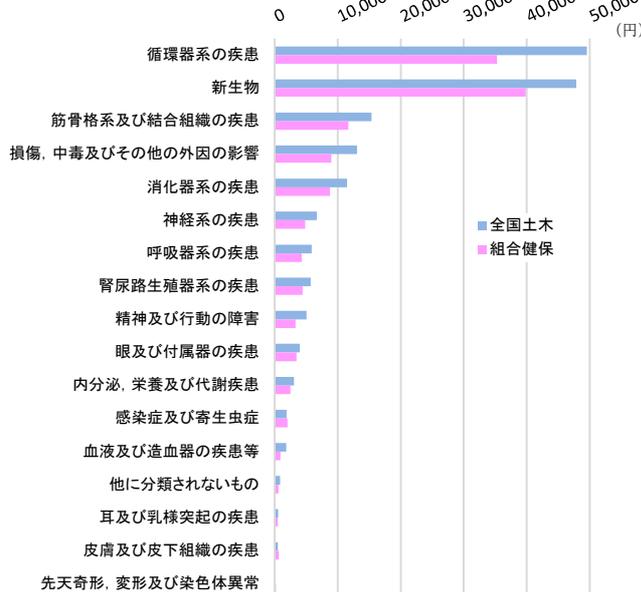
※1 全国土木は、年齢階級別 1 人当たり医療費 (9 ページ) に合わせ補正している。

出典：厚生労働省「医療給付実態調査」

※2 組合健保は、事業年報に合わせた補正は行っていない。

(図-62) 前期高齢者に係る疾病分類別 1 人当たり医療費 (平成 29 年度)

【医科入院】



【医科入院外】



②疾病分類別医療費新3要素分析（医科入院・1人当たり医療費上位10疾病分類）

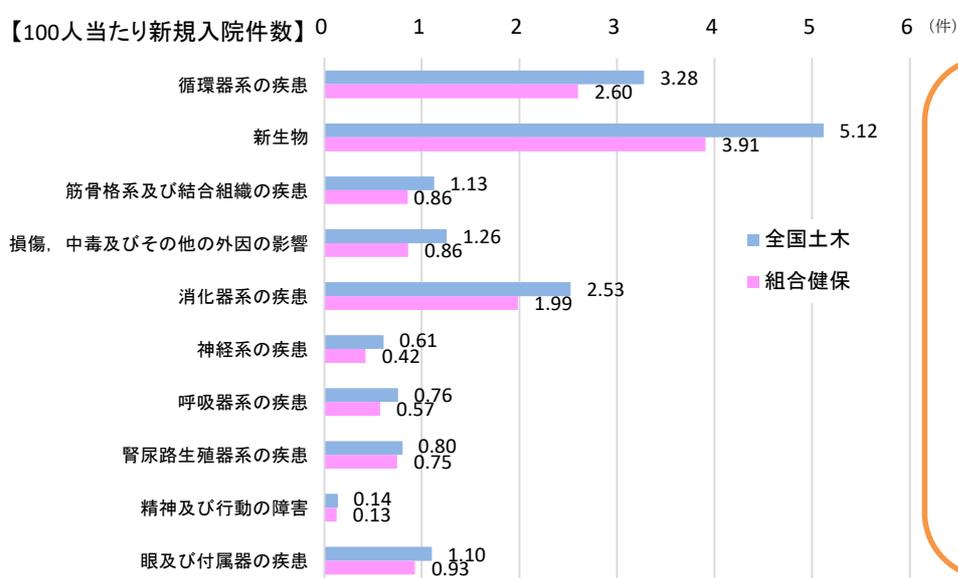
平成29年度における前期高齢者の医科入院医療費の疾病分類別新3要素を組合健保と比較すると、下図のとおりである。

このうち1入院当たり医療費をみると、精神及び行動の障害では大きく、循環器系の疾患、腎尿路生殖器系の疾患ではやや全国土木の方が高いが、その他の疾病では全国土木と組合健保に差はそれほどない。平均在院日数においては精神及び行動の障害を除き組合健保と同程度か全国土木の方が少なく、1日当たり医療費においては新生物、腎尿路生殖器系の疾患ではやや全国土木の方が高いが、その他の疾病では組合健保との差はそれほどない。

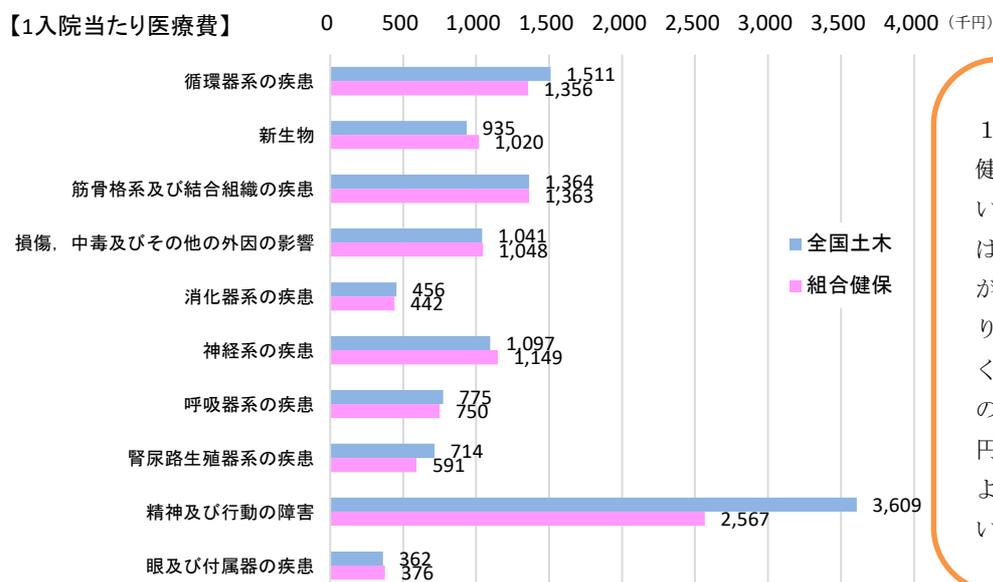
一方、100人当たり新規入院件数をみると、いずれの疾病においても全国土木の方が多くなっており、例えば循環器系の疾患では0.68件（25.97%）、損傷、中毒及びその他の外因の影響では0.4件（46.06%）多い。

前ページでみたように医科入院の1人当たり医療費は全国土木の方が高いが、これは新規入院が多いためである。すなわち、入院1人当たり医療費は1人当たり新規入院件数と1入院当たり医療費の積であるが、1人当たり新規入院件数が全国土木の方が大幅に多いため、この差が表れたといえる。

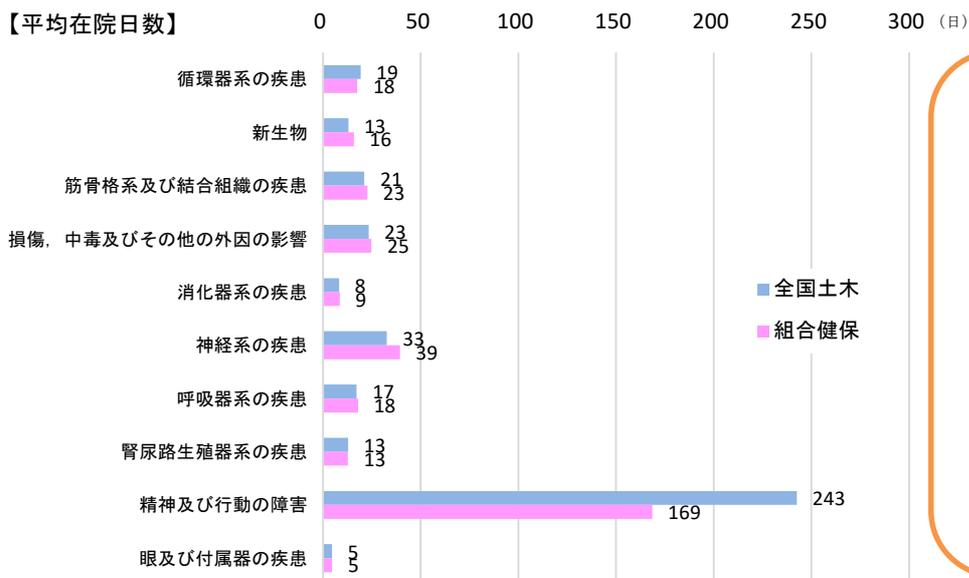
（図-63）前期高齢者に係る疾病分類別医療費新3要素分析（平成29年度・医科入院）（1人当たり医療費上位10疾病分類）



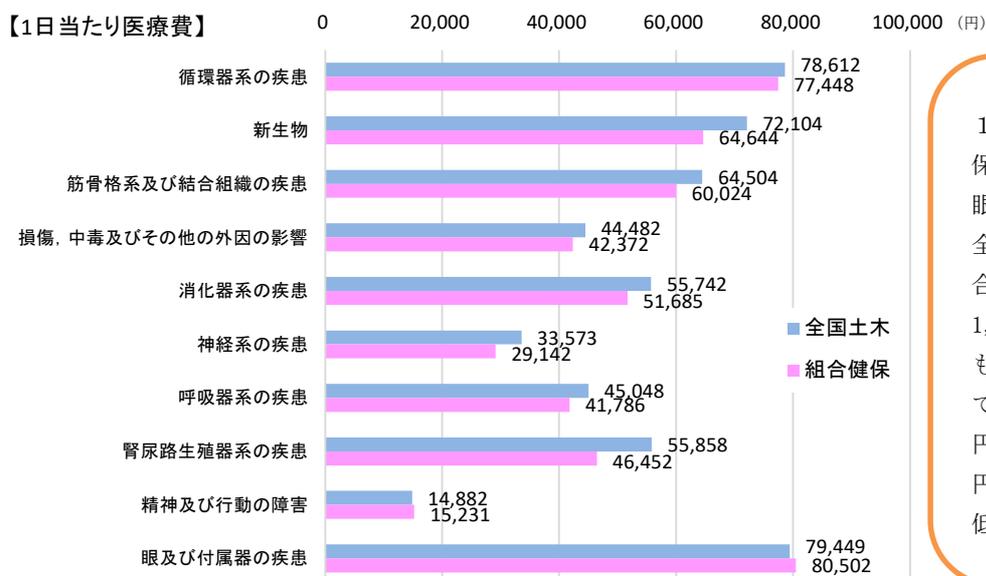
100人当たり新規入院件数を組合健保と比較すると、全疾病とも全国土木が多く、最も多い新生物では、全国土木（5.12件）が組合健保（3.91件）より1.21件（31.07%）多い。



1入院当たり医療費を組合健保と比較すると、最も高い精神及び行動の障害では、全国土木（3,609千円）が組合健保（2,567千円）より1,042千円（40.60%）高く、最も低い眼及び付属器の疾患では全国土木（362千円）が組合健保（376千円）より14千円（3.84%）低い。



平均在院日数を組合健保と比較すると、最も長い精神及び行動の障害では、全国土木（243日）が組合健保（169日）より74日（43.89%）長く、最も短い眼及び付属器の疾患では、全国土木（5日）と組合健保（5日）に差はない。



1日当たり医療費を組合健保と比較すると、最も高い眼及び付属器の疾患では、全国土木（79,449円）が組合健保（80,502円）より1,053円（1.31%）低く、最も低い精神及び行動の障害では、全国土木（14,882円）が組合健保（15,231円）より349円（2.29%）低い。